

高崎校

1 年生				2 年生				3 年生			
科目	前 期	後 期	頁	科目	前 期	後 期	頁	科目	前 期	後 期	頁
生物学	●		16	化学	●		56	歯科医療倫理学		●	86
心理学	●	●	17	外国語Ⅱ	●		57	歯科矯正学Ⅱ		●	87
外国語Ⅰ	●		18	口腔衛生学Ⅱ (含む歯科統計学)	●	●	58 59	歯科補綴学Ⅱ		●	88
解剖学	●	●	19	衛生・公衆衛生学	●	●	60	口腔外科学Ⅱ		●	89
生理学	●		22	衛生行政・社会福祉		●	64	歯科予防処置論Ⅲ	●	●	90
歯牙解剖学		●	25	保存修復学	●		65	歯科保健指導論Ⅲ	●	●	92
病理学		●	26	歯内療法学	●		67	栄養指導学Ⅲ(生化学)		●	95
微生物学	●		28	歯周治療学Ⅱ	●		68	歯科診療補助論Ⅲ	●	●	97
一般薬理学		●	30	歯科補綴学Ⅰ	●		69	基礎介護技術	●		101
歯科薬理学		●	32	口腔外科学Ⅰ	●		70	臨床・臨地実習Ⅲ	●		102
口腔衛生学Ⅰ	●	●	33	小児歯科学		●	72	高齢者歯科学(関連医学)	●		103
歯科衛生士概論	●		35	歯科矯正学Ⅰ	●		73	卒業研究	●	●	104
歯科臨床概論	●		36	歯科予防処置論Ⅱ	●	●	74				
歯周治療学Ⅰ		●	37	歯科保健指導論Ⅱ	●	●	76				
歯科放射線学		●	38	栄養指導学Ⅱ	●		78				
歯科予防処置論Ⅰ	●	●	39	歯科診療補助論Ⅱ	●	●	80				
歯科保健指導論Ⅰ	●	●	41	障害者歯科学	●		83				
栄養指導学Ⅰ	●		44	臨床・臨地実習Ⅱ	●	●	84				
歯科診療補助論Ⅰ	●	●	45								
歯科材料学		●	48								
看護学		●	49								
臨床検査学		●	50								
秘書概論	●	●	51								
コミュニケーション論	●	●	52								
ビジネス実務	●	●	53								
臨床・臨地実習Ⅰ	●	●	54								

講義概要

歯科衛生士学科では「歯科衛生学」を勉強する。

その中身を分けるとたくさんの科目に分かれる。

科目名が異なっても科目と科目はどこかでつながっている。

丸暗記も大切であるが「わかる」と覚えやすいし、あとで思い出しやすい。

「わからない」ときはいろんな本で探して調べてできるだけ「わかる」を増やしていこう。

最初はみんなわからないもの。

わからないが増えてくると勉強が嫌いになっちゃうこともある。

わからないことがあったら、できるだけ早く、どんどん仲間や先生にたずねて「わかる」にしよう。

そうするうちになぜかつまらなかった勉強が楽しくなってくる。

複数の科目で使うテキストやサブテキストは【ページ数】・《ページ数》・(〇〇の本 p ページ数) のようにカッコを使い分けてページ数をできる限り示して学習の便を図った。どんどん調べて学習を深めてほしい。

なお、本の出版年・版・刷により多少ページ数が前後することがある。

齒科衛生士学科

1 年

科目名	生物学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	1年次/前期
			高崎校	1年次/前期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	三輪明	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	三輪明		
一般目標	生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「生物学」 (サブテキスト) イラストでわかる 歯科医学の基礎 [永末書店]			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

ヒトのからだの仕組みのベースとなる生物学の勉強。細胞って？エネルギーって？私たちのカラダのタンパク質はどうやってできるの？高校で生物を勉強した人はさらに深めよう。わからないことはどんどん先生に聞こう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「生物学」《ページ数》
第3回～第4回	③	(サブテキスト) イラストでわかる 歯科医学の基礎【ページ数】
第5回～第6回	④	① 真核細胞の基本的構造と機能を概説できる。《16～25》【9】
第7回～第8回	⑤	② 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。《24・25》
第9回～第10回	⑥⑦	③ 細胞分裂と細胞周期を概説できる。《36～40》【12】
第11回～第12回	⑧⑨	④ 細胞代謝における酵素の構造・機能・調節を説明できる。《28～35》【13】
第13回～第14回	⑩⑪⑫	⑤ 細胞呼吸とエネルギー産生を説明できる。《28・31》【76】【77】
第15回～第16回	⑬	⑥ 遺伝子及び染色体の構造を説明できる。《50～54》【14】
第17回～第18回	⑬	⑦ 減数分裂における染色体の挙動を説明できる。《51・54》【13】
第19回～第20回	⑭	⑧ デオキシリボ核酸 (DNA) の複製と修復の機序を説明できる。《60～68》
第21回～第22回	⑭	⑨ 転写と翻訳の過程、セントラルドグマを説明できる。《66》【16】
第23回～第24回	⑮	⑩ 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
第25回～第26回	⑮	⑪ 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。《55～68》【14】
第27回～第28回	⑯	⑫ 発生して体をつくること (胚葉) を説明できる。《69～72》【4】
第29回～第30回	まとめ	⑬ 組織と器官を説明できる。組織 (上皮組織《40》【17】・結合組織《42》【20】・筋組織《42》【25】・神経組織《43》【27】) 器官 (消化器系《42》・循環器系《46》【56】・呼吸器系《46》・泌尿器系《47》)
		⑭ 刺激の受容と反応 (感覚器・神経) について説明できる。 《74・75・77～83》【45】
		⑮ 自律神経《91～94》【43】とホルモン《84・86・88～92》【50】の協調作用について説明できる。
		⑯ 生体防御の仕組み (免疫系・アレルギー) について説明できる。 《93～94》【224】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	心理学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	1年次/前期・後期
			高崎校	1年次/前期・後期
授業時数	60時間	単位数	4単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	塚越祐子	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	塚越祐子		
一般目標	良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト)最新歯科衛生士教本「心理学」			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。授業内容によりグループワークやロールプレイを行う。			

心理学は人と行動の学問。医療は人と人とのかかわりが大切。ヒトは見て・聞いて・感じて・心ときめいて・ドキドキして・楽しいこともあれば・イヤなこともあり・ストレス感じて・こんなことを科学するのが心理学。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第4回	①	(テキスト)最新歯科衛生士教本「心理学」【ページ数】
第5回～第8回	①	① 行動と知覚【2～14】、学習【16～20】、記憶【20～26】、認知【2～14】、言語、思考【82～93】およびパーソナリティ【54～57】との関係を概説できる。
第9回～第12回	①	
第13回～第16回	①②	② 動機づけを概説できる。【29～32】
第17回～第20回	③④	③ 欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。【45～48】
第21回～第24回	⑤	④ 人生や日常生活におけるストレスを概説できる。【48～53】
第25回～第28回	⑥	⑤ こころの健康に対する支援を概説できる。【40～45】【150～164】
第29回～第32回	⑦	⑥ ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴を概説できる。【94～110】【112～124】
第33回～第36回	⑧	⑦ こころの発達にかかわる要因を概説できる。【94～98】
第37回～第40回	⑨⑩	⑧ パーソナリティの特徴を概説できる。【54～66】
第41回～第44回	⑪⑫	⑨ 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。【184～198】
第45回～第48回	⑬	
第49回～第52回	⑭	⑩ 文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを列挙できる。【184】
第53回～第56回	⑮	
第57回～第60回	まとめ	⑪ 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケーションできる。【188】 ⑫ 対人関係にかかわる心理的要因と行動を概説できる。【126～134】 ⑬ 知能の発達の経年的変化を概説できる。【68～80】 ⑭ 集団の中の人間関係を概説できる。【126】 ⑮ 心理学の概念と方法を生かし人間を全体として捉えることができる。【200】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	外国語 I		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次/学期	太田校	1年次/前期
				高崎校	1年次/前期
授業時数	15時間		単位数	1単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	CHUO Global Village 講師	実務経験のある教員科目		該当
	高崎校	CHUO Global Village 講師			
一般目標	歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	(テキスト)デンタルクリニック英会話[日本実務能力教育協会]				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

日本にもたくさんの外国人が暮らしている。外国人との歯科クリニックでの基本的なおしゃべりを楽しもう。外国人講師と一緒に英語でおしゃべりしながら英語に慣れ親しみながら「ハロー」からはじめていこう。

授業回数	授業予定	到達目標
第1回	はじめに	※ テキストからセレクトしてレクチャーする。
第2回	①	① 予約を入れる会話ができる。【1】
第3回	②	② 問題のある歯について説明することができる。【5】
第4回	③	③ 緊急の治療を受けるための予約ができる。【9】
第5回	④	④ 受付での対応ができる。【13】
第6回	⑤	⑤ 痛みについての説明ができる。【17】
第7回	⑥	⑥ 歯の洗浄について説明できる。【21】
第8回	⑦	⑦ 歯科クリニックでの支払いのやり取りができる。【25】
第9回	⑧	⑧ 薬の処方箋について説明できる。【31】
第10回	⑨	⑨ エックス線について説明できる。【35】
第11回	⑩	⑩ 歯みがきの指導について説明できる。【39】
第12回	⑪⑫⑬	⑪ 易しい外国語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。
第13回	⑭	⑫ 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。
第14回	⑮	⑬ 自己紹介文、手紙文などを外国語で書くことができる。
第15回	まとめ	⑭ 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。 ⑮ 外国語による日常会話での質疑応答ができる。

※CHUO Global Village でバーチャル海外体験学習も予定

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	解剖学(口腔解剖を含む)		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次/学期	太田校
				高崎校
授業時数	90 時間		単位数	6 単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	寺島達夫・太田正人	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	寺島達夫		
一般目標	<p>【人体の解剖学・組織学・発生学】 人体の成り立ちを理解するために、体の構造、組織・発生に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>【口腔解剖学・口腔組織・発生学】 顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p>			
使用教材・教具	<p><全身の解剖・組織・発生>・・・全身の形態とメカニズムの学習 (テキスト1)配布資料 (テキスト2)最新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・生理学」 ……全身の構造・より細かな構造・ヒトができる仕組み・ヒトが生きるメカニズムの本 (サブテキスト)イラストでわかる歯科医学の基礎[永末書店] ……歯と口の発生・解剖・生理・生化・病理・薬理・微生物など基礎医学科目全般 をわかりやすくしたカラーイラストの本 幅広い基礎科目を1冊でまとめている本。どんどん調べて「わかる」を増やそう。</p> <p><口腔の解剖・組織・発生>・・・口腔の形態とメカニズムの学習 (テキスト1)配布資料 (テキスト2)最新歯科衛生士教本「口腔解剖・口腔組織発生・口腔生理学」 ……歯と口腔の解剖学・組織学・発生学・生理学の詳しい本 (サブテキスト)イラストでわかる歯科医学の基礎[永末書店] ……歯と口の発生・解剖・生理・生化・病理・薬理・微生物など基礎医学科目全般 をわかりやすくしたカラーイラストの本 幅広い基礎科目を1冊でまとめている本。どんどん調べて「わかる」を増やそう。</p>			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。中間試験・期末試験を行う。			

カイボウは、例えるならば、からだの世界地図を勉強する感じ。前から6番目の歯は「第一大臼歯」、腎臓の上にあるのは「副腎」みたいにからだじゅうの名前を覚える勉強。全国の医療系学生全員がぶつかる最初の壁となる勉強。からだは細かな場所まで名前があるし、機械より精密なメカニズム。名前を覚えるのはとっても大変、だけど大切。でも後々の勉強にとっても役に立つ。たくさんあるけど頭に入ると楽しくなってくる。

解剖学・組織学・発生学について

【解剖】全身の見たままの姿や全身をパーツに分けたときの形（マクロの形態）の学ぶのが解剖学である。

【組織】全身のパーツの内部の構造や、ひとつひとつの細胞の形（ミクロの形態）を学ぶのが組織学である。

【発生】受精卵にはじまり、手や顔など全身のパーツがどうやってできていくのかを学ぶのが発生学である。

【人体の解剖学】

身体には細かな場所まで名前がある。それぞれの場所と場所は血管や神経で結ばれる。それぞれの場所にはいろいろな役割もある。解剖ではたくさんの名称が出てくる。社会科の勉強なら地名・山・川・国道の名前である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③	(テキスト2)「解剖学・組織発生学・生理学」《ページ数》
第3回～第4回	④	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第5回～第6回	⑤⑥	① 身体の部位を解剖学的な名称で表現できる。【6】《2～4》
第7回～第8回	⑦⑧	② 身体の方角用語を正確に用いることができる。【8】《4～6》
第9回～第10回	⑨	③ 体位を含む姿勢を列挙できる。【8】
第11回～第12回	⑩	④ 呼吸器系の構造を概説できる。【65】《171～179》
第13回～第14回	⑪	⑤ 循環器系について動脈、静脈および毛細血管の構造を説明できる。【56】《109》
第15回～第16回	⑫	⑥ リンパの循環系とリンパ節を説明できる。【64】《138》
第17回～第18回	⑬	⑦ 心臓の構造を概説できる(心筋の特徴を含む)。【56】《123》
第19回～第20回	⑭	⑧ 造血臓器を概説できる。【23】《47》
第21回～第22回	⑮	⑨ 神経系の概略を説明できる(ニューロンを含む)。【39】《144》
第23回～第24回	⑯	⑩ 脳と脊髄の基本構造を概説できる。【40】《149》
第25回～第26回	⑰⑱	⑪ 末梢神経系の分類を概説できる。【42】《159》
第27回～第28回	⑲	⑫ 運動器官である骨の基本構造と連結様式を概説できる。【29】《46》《47》
第29回～第30回	まとめ	⑬ 筋の種類と特徴を説明できる。【33】《58》
		⑭ 感覚器を概説できる。【45】《198～205》
		⑮ 消化器の基本構造を概説できる(食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む)。《85～107》
		⑯ 内分泌器の基本構造を概説できる。【50】《227》
		⑰ 泌尿器系を概説できる。【109】《208》
		⑱ 生殖器系を概説できる。【111】《234》
		⑲ 皮膚と粘膜、およびその付属器を概説できる。【49】《189～198》

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

【人体の組織学・発生学】

役割を持って集まることを組織。細胞・身体の一部が役割を持って集まることも組織。組織の名前・分類を勉強。ヒトの卵から身体ができるまでの道筋を発生という。クチ・アゴの骨・歯などができるまでの道筋も学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第3回～第4回	②③	(テキスト2)「解剖学・組織発生学・生理学」《ページ数》
第5回～第6回	④	① 細胞における細胞膜、核、細胞小器官の構造を説明できる。【9】《14》
第7回～第8回	⑤⑥	② 組織の定義を説明し、分類できる。【5】《22》
第9回～第10回	⑦	③ 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類できる【17】《22》
第11回～第12回	⑧	④ 外分泌腺と内分泌腺の相違を説明できる。【18】《85》《227》
第13回～第14回	⑨	⑤ 皮膚と粘膜の構造の相違を説明できる。《193～196》
第15回～第16回	⑩⑪	⑥ 支持組織の特徴を説明し、分類できる。【20】《25》
第17回～第18回	⑫⑬	⑦ 結合組織の所在と構成を説明できる。【20】《25》
第19回～第20回	まとめ	⑧ 筋組織の構造を説明できる。【25】《28》《60》

		<p>⑨ 神経組織の構造を説明できる。【27】《29》《145》</p> <p>⑩ 人体の発生における遺伝子と遺伝情報を概説できる。【14】《32》</p> <p>⑪ 受精と着床の時期と場所を説明できる。【2】《32》</p> <p>⑫ 胚葉の形成を概説できる。【4】《38》</p> <p>⑬ 胎児の成長と発育を概説できる。《39》</p>
--	--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

【口腔解剖学・口腔組織・発生学】

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第3回～第4回	③	(テキスト) 「口腔解剖・口腔組織発生・口腔生理学」『ページ数』
第5回～第6回	④	① 顔面ならびに口腔の範囲を説明できる。【126】『10』
第7回～第8回	⑤	② 顔面ならびに口腔の各部位の名称を正確に表現できる。『10～16』
第9回～第10回	⑥	③ 顔面ならびに口腔の発生を概説できる。【169～172】『2～9』
第11回～第12回	⑦	④ 顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる。【129】『18～34』
第13回～第14回	⑧	⑤ 頭頸部の筋の構成を概説できる。【134】『34～42』
第15回～第16回	⑨⑩	⑥ 頭頸部の脈管(動脈・静脈・リンパ)を概説できる。【158】『45～56』
第17回～第18回	⑪⑫	⑦ 頭頸部の神経を概説できる。【155】『56～57』
第19回～第20回	⑬⑭	⑧ 三叉神経と顔面神経の走行と線維構成を概説できる。【156】『57・61』
第21回～第22回	⑮⑯	⑨ 咽頭の構造を説明できる。【126】『105～112』
第23回～第24回	⑰	⑩ 喉頭の構造を説明できる。【126】【65】『124～132』『265』
第25回～第26回	⑱	⑪ 顎関節の構造を概説できる。【133】『42～45』
第27回～第28回	⑲	⑫ 鼻腔と副鼻腔の構造を概説できる。【126】『81～86』
第29回～第30回	⑳	⑬ 口腔粘膜の分類と特徴を部位ごとに説明できる。【150】『68～72』『250～251』
第31回～第32回	㉑	⑭ 舌の構造を説明できる。【127】『14～18』
第33回～第34回	㉒	⑮ 味覚器の構造を説明できる。【163】『74～80』
第35回～第36回	㉓	⑯ 唾液腺の位置と構造を説明できる。【128】『136～146』『264』
第37回～第38回	㉔	⑰ 歯と歯周組織を概説できる。【137】【144】『218～251』
第39回～第40回	まとめ	⑱ 歯の萌出と交換を概説できる。【173】【176】『208～217』
		⑲ 歯種別の形態と特徴を説明できる(歯式を含む)。【139】『148～206』
		⑳ 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。【142】『180～198』
		㉑ 歯の硬組織の組織学的構造を説明できる。【144】『218～239』『261～263』
		㉒ 歯髄の組織学的構造を説明できる。【149】『230～236』
		㉓ 歯周組織の組織学的構造を説明できる。【140】『236～249』『263』
		㉔ 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。【177】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	生理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	1年次／前期
				高崎校	1年次／前期
授業時数	30時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	清水信雄	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	大井田新一郎			
一般目標	<p>【人体の生理学】人体のメカニズムの学習 人体の成り立ちを理解するために、体の機能に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>【口腔生理学】歯・口・アゴのメカニズムの学習 顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の機能に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p>				
使用教材・教具	<p>(テキスト1) 配布資料</p> <p>(テキスト2) 最新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・生理学」 ……全身のカイボウ・ソシキ・ハッセイ・セイリの本</p> <p>(テキスト3) 最新歯科衛生士教本「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 ……歯と口腔の解剖学・組織学・発生学・生理学の詳しい本</p> <p>(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎[永末書店]……歯と口の発生・解剖・生理・生化・病理・薬理をわかりやすくしたカラーイラストの本</p>				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

どうやって痛みを感じるのか・唾液はどうやってでるか・血がどうして止まるかなど体の仕組みなどを学習する。生理学は身体メカニズムの勉強。社会科の勉強に例えると、街の仕組みなどを勉強する地理みたいな感じ。

【生理学】全身のからだのメカニズム

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③④⑤	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第3回～第4回	⑤⑦⑧⑨	(テキスト3)「解剖学・組織発生学・生理学」《ページ数》
第5回～第6回	⑩⑪⑫	① 細胞における細胞膜、核、細胞小器官の機能を説明できる。【9】《14》
第7回～第8回	⑬⑭⑮⑯⑰	② 細胞の基本的生理機能を概説できる【13】《20》
第9回～第10回	⑱⑲⑳㉑㉒	③ 細胞死の種類と機序を概説できる。【190】《20》
第11回～第12回	㉓㉔㉕㉖㉗	④ 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類できる。【17】《22・196》
第13回～第14回	㉘㉙㉚㉛	⑤ 外分泌腺と内分泌腺の相違を説明できる。【18】《86・227》
第15回～第16回	㉜㉝㉞	⑥ 皮膚と粘膜の機能の相違を説明できる。【49】《191・196》
第17回～第18回	㉟㊱㊲㊳㊴	⑦ 支持組織の特徴を説明し、分類できる。【20】《25》
第19回～第20回	㊵㊶㊷㊸㊹	⑧ 筋組織の機能を説明できる。【25】《60》
		⑨ 神経組織の機能を説明できる。【27】《146》
		⑩ 人体の発生における受精と着床の時期と場所を説明できる。【2】《37・38》
		⑪ 呼吸器系の機能を概説できる。【65】《179》

	<p>⑫ 換気とガス交換を概説できる。【66】《182》</p> <p>⑬ 呼吸の調節を概説できる。【68】《185》</p> <p>⑭ 動脈、静脈および毛細血管の役割を説明できる。【56】《113》</p> <p>⑮ 肺循環と体循環を説明できる。【56】【66】《111》</p> <p>⑯ リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。【64】《140・141》</p> <p>⑰ 心臓の機能を概説できる（心筋の特徴、刺激伝導系を含む）。【58】《126～127》</p> <p>⑱ 血圧と心電図を概説できる。【60】《127》</p> <p>⑲ 血液の機能を説明できる。【61】《119》</p> <p>⑳ 血液型と輸血を概説できる。【63】《121》</p> <p>㉑ 止血、血液凝固、線溶現象および出血傾向を概説できる。【64】《119》</p> <p>㉒ 造血臓器を概説できる。【23】《47》</p> <p>㉓ 神経系の概略を説明できる（ニューロンを含む）。【38】《146》</p> <p>㉔ 脳と脊髄の機能を概説できる。【41】《149》</p> <p>㉕ 末梢神経系の機能を概説できる。《159》【42】</p> <p>㉖ 興奮の伝導を概説できる（シナプスでの伝達を含む）。【28】《146》</p> <p>㉗ 反射と随意運動を概説できる。【41】《76・146》</p> <p>㉘ 骨の改造現象（リモデリング）を概説できる。【20】【29】《51》</p> <p>㉙ 筋の種類と特徴を説明できる。【25】《58》</p> <p>㉚ 骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる。【26】《60》</p> <p>㉛ 感覚器を概説できる。【45】【46】【47】【48】《198・202・204・204》</p> <p>㉜ 消化器の機能を概説できる（食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む）。 【70】《90・95・96・96》</p> <p>㉝ 胃における消化を概説できる。【72】《91》</p> <p>㉞ 腸における消化と吸収を概説できる。【73】【50】【55】《92・94》</p> <p>㉟ 内分泌器とホルモンを概説できる。【227】《72～75・199》</p> <p>㊱ ホルモンの働きを概説できる。【227】《73》</p> <p>㊲ 泌尿器系を概説できる。【109】《210》</p> <p>㊳ 尿の生成と体液の調節を概説できる。【110】《210》</p> <p>㊴ 生殖器系を概説できる。【111】【112】《234・235・237》</p> <p>㊵ 皮膚と粘膜、およびその付属器を概説できる。【49】《189・191・193・196》</p> <p>㊶ 体熱の発生と体温の調節を概説できる。【122】《224》</p> <p>㊷ 加齢と老化を説明できる。【177】（病理学の本 174～180 ページ</p> <p>㊸ 人体の老化の特性と機序を説明できる。</p> <p>㊹ 老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。 《20》</p>
--	--

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

【口腔生理学】 歯・口腔・顎・顔面のメカニズム

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 21 回	①②	(テキスト 3)「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(ページ数)
第 22 回	③④	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第 23 回	⑤⑥	① 頭頸部の筋の機能を概説できる。(34)【134】
第 24 回	⑦⑧⑨	② 頭頸部の脈管の機能を概説できる。(45)【158】
第 25 回	⑩⑪⑫	③ 頭頸部の神経の機能を概説できる。(56)【155】
第 26 回	⑬⑭⑮	④ 三叉神経と顔面神経の機能を概説できる。(57・61)【156】
第 27 回	⑯⑰⑱	⑤ 咽頭の機能を説明できる。(105)【126】
第 28 回	⑲⑳㉑	⑥ 喉頭の機能を説明できる。(106)【126】
第 29 回	㉒㉓㉔	⑦ 顎関節の機能を概説できる。(43)【133】
第 30 回	まとめ	⑧ 鼻腔と副鼻腔の機能を概説できる。(20)【126】
		⑨ 下顎の運動を概説できる。(89)【163】
		⑩ 咀嚼の意義を説明できる。(96)【163】
		⑪ 摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。(96・99・105)【164】
		⑫ 舌の機能を説明できる。(39・74)【127】
		⑬ 味覚器と味覚を説明できる。(74)【163】
		⑭ 唾液の性状と役割を説明できる。(136)【71】【154】
		⑮ 吸啜と嘔吐を概説できる。(103・120)【164】
		⑯ 構音器官としての口腔を概説できる。(124)【168】
		⑰ 歯と歯周組織の機能(218)【137】
		⑱ 歯の硬組織の機能を説明できる。(213)【151】
		⑳ 歯髄の機能を説明できる。(230)【153】
		㉑ 歯周組織の機能を説明できる。(218～249)【153】
		㉒ 歯列と咬合を概説できる。(201)【143】
		㉓ 歯と口腔粘膜の感覚を概説できる。(68・72)【161】
		㉔ 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。【177】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯牙解剖学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／後期
			高崎校	1年次／後期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	宗村裕之	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	萩原輝雄		
一般目標	ヒトの歯の形態・機能・咬合関係に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト1) 配布資料 (テキスト2) 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 (サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎 ・・・歯と口の発生・解剖・生理・生化・病理・薬理・微生物をわかりやすくしたカラーイラストの本			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。歯型彫刻実習を行う。			

歯は一本一本かたちが異なる。例えば、前歯を鏡で眺めても上と下では大きさが違う。歯の病気を理解したり、歯石を除去したり、歯科衛生士の仕事には歯のかたちの特徴を知ることが欠かせない。見て触って彫って覚えよう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③	(テキスト) 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」《ページ数》
第3回～第4回	④⑤⑥	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第5回～第6回	⑤⑥⑦	① 歯冠と歯根について説明できる。《150》
第7回～第8回	⑧⑨	② 歯の種類を説明できる。《151》
第9回～第10回	⑩⑪	③ 歯の記号を説明できる。《152》
第11回～第12回	⑪⑫	④ 歯の方向を表す用語を説明できる。《153》
第13回～第14回	⑫⑬	⑤ 歯の形態と名称を説明できる。《149》
第15回～第16回	⑬	⑥ 歯種ごとの特徴を説明できる。《155～180～201》
第17回～第18回	⑭	⑦ 歯を鑑別する方法を概説できる。《156》
第19回～第20回	⑮	⑧ 歯種を見分けることができる。《155～180～201》
第21回～第22回	⑮	⑨ 上下の歯を見分けることができる。(実習模型の上下の歯をよく見てみよう)
第23回～第24回	⑮	⑩ 歯の順番を見分けることができる。(形とサイズに注目してみよう)
第25回～第26回	⑮	⑪ 歯の左右を見分けることができる。(三徴候に注目して見てみよう)
第27回～第28回	⑮	⑫ 歯並びと咬合について説明できる。【143】
第29回～第30回	⑮	⑬ 歯種別の形態と特徴を説明できる(歯式を含む)。【137】【139】
		⑭ 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。【142】
		⑮ 咬合の特徴について説明できる。【143】
		⑯ 歯型の彫刻(テキスト口腔解剖の本 p254～256) <上顎中切歯・上顎第一大臼歯・下顎第一大臼歯>

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	病理学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	1年次／後期
				高崎校	1年次／後期
授業時数	30時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	勝部憲一	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	勝部憲一			
一般目標	<p>【病理学】 疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>【口腔病理学】 口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。</p>				
使用教材・教具	(テキスト1) 配布資料 (テキスト2) 最新歯科衛生士教本「病理学・口腔病理学」[医歯薬出版] (サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎・・・歯と口の発生・解剖・生理・生化・ 病理 ・薬理・微生物をわかりやすくしたカラーイラストの本				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。試験は総論・各論でそれぞれ行う。				

【病理学】(病理学総論)

人は病気になると血管から血が染み出たり、細胞が膨らんだり、いろいろと変化する。病理学は、どうやって病気になるのか、病気になったとき身体にどんな変化が起きているかを学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第3回～第4回	④⑤⑥	(テキスト2)「病理学・口腔病理学」《ページ数》
第5回～第6回	⑦⑧⑨	① 退行性病変としての細胞・組織の変性、萎縮、壊死を概説できる。 【185～189】《23・24・31》
第7回～第8回	⑩⑪⑫	② ネクロシスとアポトーシスの違いを説明できる。【189・190】《31》
第9回～第10回	⑬⑭⑮	③ 進行性病変としての肥大、増生、化生、再生を概説できる。【146】《34・36》
第11回～第12回	⑯⑰⑱	④ 肉芽組織とその構成成分を説明できる。【198・312】《39》
第13回～第14回	⑲⑳㉑	⑤ 肉芽組織が関与する病変を列挙できる。【200】《49・108》
第15回～第16回	㉒㉓㉔	⑥ 異物の処理を説明できる(器質化を含む)。【200・204・226】《40》
第17回～第18回	㉕㉖㉗	⑦ 創傷の治癒過程を説明できる。【313】《39》
		⑧ 循環障害である虚血、充血、うっ血の相違を説明できる。【191】《15》
		⑨ 出血の原因、種類、転帰を説明できる。【192】《16》
		⑩ 血栓、塞栓の形成機序、転帰を概説できる。【194】《17》
		⑪ 梗塞の成因、転帰を概説できる。【196】《19》
		⑫ 水腫(浮腫)の原因、症状、転帰を説明できる。【196】《17》
		⑬ 一次性ショックと二次性ショックの相違を説明できる。【194】《17》
		⑭ 炎症の定義を説明できる。【201】《43》

		<p>⑮ 炎症に關与する細胞の種類と機能を説明できる。【203】《44》</p> <p>⑯ 炎症を分類できる。【204】《47》</p> <p>⑰ 滲出性炎とその経時的变化を概説できる。【205】《46》</p> <p>⑱ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の相違を説明できる。【205】《48》</p> <p>⑲ 肉芽腫性炎の定義が言え、代表的な肉芽腫性炎を列挙できる。【206】《49》</p> <p>⑳ 免疫異常を概説できる。【212～214】《52》</p> <p>㉑ 移植免疫を概説できる。【214】《57》</p> <p>㉒ 腫瘍の定義を説明できる。【207】《60》</p> <p>㉓ 腫瘍の病因と進展を概説できる。【209】《60》</p> <p>㉔ 腫瘍の局所での發育、浸潤、転移を概説できる。【208】《63》</p> <p>㉕ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる。【210】《64》</p> <p>㉖ 腫瘍を分類できる。【211】《65》</p> <p>㉗ 前癌病変を概説できる。【211】《66》</p>
--	--	---

【口腔病理学】(病理学各論)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 19 回～第 20 回	⑳㉑㉒	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第 21 回～第 22 回	㉓㉔㉕	(テキスト 2)「病理学・口腔病理学」《ページ数》
第 23 回～第 24 回	㉖㉗㉘	㉘ 歯の發育障害の種類と病態を概説できる。【289】《70～79》
第 25 回～第 26 回	㉙㉚㉛	㉙ 歯の損傷を概説できる。【292】《81》
第 27 回～第 28 回	㉜㉝㉞	㉚ プラーク、歯石の形成とその為害性を説明できる。【293】《89》
第 29 回～第 30 回	㉟㊱㊲㊳	㉛ う蝕の病因と病態を説明できる。【293】《88》
		㉜ う蝕を組織学的に分類し、その特徴を説明できる。【295】《92～95》
		㉝ 酸蝕症の病因や病態を説明できる。【293】《84》
		㉞ 歯頸部知覚過敏症の病因や病態を説明できる。《103》 (保存修復の本 p19・114～115) (ポケットマニュアル p221～222)
		㉟ 歯髄疾患の病因と病態を説明できる。【297】《97》
		㊱ 歯髄炎を分類し、その特徴を説明できる。【298】《99～101》
		㊲ 根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。【300】《105》
		㊳ 根尖性歯周炎を分類し、その特徴を説明できる。【300】《106～108》
		㊴ 歯周疾患の病因と病態を説明できる。【302】《110》
		㊵ 歯周疾患を分類し、その特徴を説明できる。【303】《113～117》
		㊶ 抜歯創の治癒過程を説明できる。【313】
		㊷ 口腔粘膜疾患の種類と特徴を概説できる。【313】《122～132》
		㊸ 口腔領域の嚢胞を概説できる (歯原性嚢胞を含む)。【304】《133～137》
		㊹ 口腔領域の腫瘍を概説できる (歯原性腫瘍を含む)。【306】《137～150》
		㊺ 唾液腺疾患を概説できる。【309】《161～166》
		㊻ 口腔領域の奇形を概説できる。《168》
		㊼ 口腔領域の顎骨の病変について概説できる。《152》
		㊽ 顎関節の病変について概説できる。《158》
		㊾ 口腔組織の加齢変化について概説できる。《174》

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	微生物学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	1年次／前期
				高崎校	1年次／前期
授業時数	30時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	天田雅人	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	天田雅人			
一般目標	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「微生物学」[医歯薬出版] (サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎・・・歯と口の発生・解剖・生理・生化・病理・薬理・微生物をわかりやすくしたカラーイラストの本				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。				

【微生物学】(微生物学総論)

微生物には細菌・カビ・ウイルス・原虫などがいる。ヒトの身体に病気を起こす微生物はどんな菌か、微生物に対してヒトの身体がどうやって排除するのか、どうやって守っているのかも学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「微生物学」《ページ数》
第3回～第4回	④⑤	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第5回～第6回	⑥⑦	① 感染と発症を説明できる。《8》【215】
第7回～第8回	⑧⑨	② 微生物の感染機構と病原性を概説できる。《13》【216】
第9回～第10回	⑩⑪	③ 宿主の抵抗性を概説できる。《11・74～81》【224】
第11回～第12回	⑫⑬	④ 感染の種類と経路をあげ、概説できる。《13》【215・216】
第13回～第14回	⑭⑮	⑤ 細菌、ウイルスその他微生物の形態学的特徴と基本的性状を概説できる(プリオンを含む)。《13～73》【217・218・219】
第15回～第16回	⑯	⑥ 滅菌・消毒の意義と原理を説明できる。《157～166》【234】
		⑦ 院内感染の原因と予防法を説明できる。《50・155》【230】
		⑧ 化学療法の目的と原理を説明できる。《144》【231】
		⑨ 微生物の培養と観察法を概説できる。《167》(微生物学の本の8章)
		⑩ 自然免疫と獲得免疫を説明できる。《76・75》【114】
		⑪ 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。《81》【117・118】
		⑫ 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。《83》【113】。
		⑬ 抗原、抗体およびサイトカインを説明できる。《85・87・92》【116】
		⑭ 免疫反応を利用した検査法を概説できる。《95～》【120】
		⑮ ワクチンとは何か説明できる。《90》(微生物学の本の3章)
		⑯ アレルギーを概説できる。《103》【212】

【口腔微生物学】(微生物学各論)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 17 回～第 18 回	⑰	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「微生物学」《ページ数》
第 19 回～第 20 回	⑱	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第 21 回～第 22 回	⑲	⑰ 口腔内の微生物と口腔環境の関わりを説明できる。《109》【282】
第 23 回～第 24 回	⑳㉑	⑱ 口腔常在微生物を概説できる。《113》【282】
第 25 回～第 26 回	㉒	⑲ デンタルプラーク (バイオフィルムとして) の形成とその微生物叢を概説できる。《115》【283】
第 27 回～第 28 回	㉓㉔㉕	⑲ デンタルプラーク (バイオフィルムとして) の形成とその微生物叢を概説できる。《115》【283】
第 29 回～第 30 回	まとめ	⑳ バイオフィルム感染症を概説できる。《121》【282】
		㉑ う蝕原因菌を概説できる。《125》【285】
		㉒ 歯周病原因菌を概説できる。《133》【287】
		㉓ 微生物が原因で口腔に症状を現す疾患を概説できる。《137》【227】
		㉔ 口腔内検査としての唾液検査、微生物学的検査の意義を説明できる。 (歯科予防処置論・歯科保健指導論の本の表Ⅲ-2-16 う蝕活動性試験 p118)
		㉕ 口臭検査の意義を説明できる。 (歯科予防処置論・歯科保健指導論の本 口臭 p149～150・349)

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	一般薬理学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校 1年次／後期
				高崎校 1年次／後期
授業時数	15時間		単位数	1単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	三輪明	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	三輪明		
一般目標	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「薬理学」[医歯薬出版] (サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎・・・歯と口の発生・解剖・生理・生化・病理・ 薬理 ・微生物をわかりやすくしたカラーイラストの本			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

薬は病気の治療につかわれる。薬には病気や症状に合わせてたくさんの種類がある。薬が身体にどうやって取り込まれるのか・どうやって効くのか・薬を飲んだとき出てほしくない副作用・薬の取り扱い方法などを学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①②	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「薬理学」《ページ数》
第2回	③④	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第3回	⑤⑥	① 薬物療法(原因療法、対症療法)を説明できる。《3》【236】
第4回	⑦⑧	② 薬理作用の基本形式と分類を説明できる。《9》【237】
第5回	⑨⑩	③ 身体における薬物の作用機序を説明できる。《13》【237】
第6回	⑪⑫	④ 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。《19》【244】
第7回	⑬⑭	⑤ 薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。《14》【245・246】
第8回	⑮⑯⑰	⑥ 薬理作用を規定する要因(用量、作用、感受性)を説明できる。《11》【239】
第9回	⑱	⑦ 薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。《24》【242】
第10回	⑲	⑧ 薬物の連用の影響(薬物耐性、蓄積、薬物依存)を説明できる。《22》【243】
第11回	⑳	⑨ 妊産婦・小児・高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。《26》【241】
第12回	㉑	⑩ 薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。《28》【243】
第13回	㉒	⑪ 医薬品の分類を説明できる。《4》【252】
第14回	㉓㉔	⑫ 毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる。《7》【253】
第15回	まとめ	⑬ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(医薬品医療機器法)を説明できる。《4》【252】 ⑭ 日本薬局方を説明できる。《8》【252】 ⑮ 処方せん(箋)の記載事項を概説できる。【254】 ⑯ 薬物の保存方法を説明できる。《9》【254】 ⑰ 薬物の剤形を説明できる。《8》【255】 ⑱ 主な中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《37》【250】 ⑲ 主な末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《54》【263】 ⑳ 主な局所麻酔薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《58》【261】

		<p>②① 循環器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《67》【268】</p> <p>②② 呼吸器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《75》【270】</p> <p>②③ 血液凝固の過程を概説できる。《82》【272】</p> <p>②④ 主な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《85》【271】（ポケットマニュアル p226）</p>
--	--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科薬理学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／後期
			高崎校	1年次／後期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	三輪明	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	三輪明		
一般目標	歯科領域の薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、歯科疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「薬理学」[医歯薬出版] (サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎・・・歯と口の発生・解剖・生理・生化・病理・薬理・微生物をわかりやすくしたカラーイラストの本			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

お医者さんで使うのと同じ薬もあるが、歯科治療で使われる特別な薬もある。歯科で使われる薬の働きや取り扱い上の注意すること・薬を飲む患者さんに伝えることなどを学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「薬理学」《ページ数》
第2回	②	(サブテキスト) イラストでわかる歯科医学の基礎【ページ数】
第3回	③	① う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《154》
第4回	④	② 歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《156》
第5回	⑤	③ 歯周治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《163》
第6回	⑥	④ 洗口薬を説明できる。《167》
第7回	⑥	⑤ 炎症のメカニズムを概説できる。《90》【273・202】
第8回	⑦⑧	⑥ 主な抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《93》【273】
第9回	⑨	⑦ 局所麻酔薬の作用機序を概説できる。《59》【261・262】
第10回	⑩	⑧ 局所麻酔薬の代謝について概説できる。《62》【248】
第11回	⑪	⑨ 局所麻酔薬の効果に影響する因子について概説できる。【262】
第12回	⑫	⑩ 局所麻酔薬の副作用と中毒について概説できる。《64》【243】
第13回	⑬⑭	⑪ 感染症を概説できる。《114》【215】
第14回	⑮⑯	⑫ 主な抗感染症薬と消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。《123》【277】
第15回	まとめ	⑬ 口腔粘膜疾患に用いる薬を概説できる。《171》 ⑭ その他、口腔領域の疾患の薬を概説できる。《172》 ⑮ 服薬に関する一般的事項を説明できる。《174》 ⑯ 対象者別の服薬指導を説明できる。《177》

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔衛生学Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／前期・後期
			高崎校	1年次／前期・後期
授業時数	45時間	単位数	3単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	堤梢江	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	関口さおり		
一般目標	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」 (サブテキスト1) 歯科衛生学事典(知らないことはすぐに調べよう) (サブテキスト2) 歯科予防処置論・歯科保健指導論 [医歯薬出版] 第2版			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。			

口腔衛生学は、口の中を健康にすることを通してゆ「いのちをまもる」学問である。口の中の健康にすることは身体の健康につながる。歯や口を病気にしないようにするにはどうすればいいのか?何ができるのか?などを学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 保健生態学【ページ数】
第2回	②	(サブテキスト2) 歯科予防処置論・歯科保健指導論(※予防の本p ページ数)
第3回	③	
第4回	④	① 口腔の健康の定義を説明できる。【88】(予防の本 p8)
第5回	⑤	② 口腔と全身の健康の関係を説明できる。【107】(予防の本 p8・413)
第6回	⑥	③ 歯・口腔の健康を保持・増進する手段を概説できる。【89】(予防の本 p11~13)
第7回	⑥	④ 歯・口腔の形成および発育・発達とその異常を説明できる。【98】 (解剖の本 p2~9)
第8回	⑥	⑤ 歯・口腔の形成異常を説明できる。【92】(解剖の本 p198~201)
第9回	⑦	⑥ 歯・口腔の機能を説明できる。【105】(予防の本 p16~27)
第10回	⑧	⑦ 唾液の作用を説明できる。【97】(予防の本 p136)
第11回	⑧	⑧ 歯・口腔の付着物と沈着物を説明できる。【110】(予防の本 p28~32)
第12回	⑧	⑨ 口腔清掃の意義を説明できる。【119】(予防の本 p264)
第13回	⑨	⑩ 口腔清掃法の種類を列挙できる。【119】(予防の本 p137~141・269)
第14回	⑩	⑪ 口腔清掃用具の種類と特徴を説明できる。【121】(予防の本 p265)
第15回	⑩	⑫ 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を列挙できる。【126】
第16回	⑩	⑬ 歯磨剤の種類と組成およびその配合目的を説明できる。【128】 (予防の本 p267)
第17回	⑪	⑭ 洗口剤の種類と組成およびその配合目的を説明できる。【131】 (予防の本 p239・282・283)
第18回	⑪	⑮ う蝕の疫学的特性を概説できる。【132】(予防の本 p32)
第19回	⑫	⑯ 歯周疾患の疫学的特性を概説できる。【135】(予防の本 p37)
第20回	⑫	⑰ その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。【136】
第21回	⑬	
第22回	⑬	

第 23 回	⑭	⑱ う蝕発病のメカニズムを説明できる。【138】(予防の本 p35)
第 24 回	⑮	⑲ う蝕の発病要因(宿主、口腔細菌叢、食事性基質)を説明できる。【140】
第 25 回	⑯	⑳ う蝕活動性試験の意義を説明できる。【146】(予防の本 p172)
第 26 回	⑰	㉑ リスクに応じたう蝕予防方法を列挙できる。【148】(予防の本 p180・252)
第 27 回	⑱	㉒ う蝕発病の第一次予防、第二次予防および第三次予防を説明できる。 【150】(予防の本 ps11)
第 28 回	⑱	㉓ 人間生態系におけるフッ化物の意義を説明できる。 【156】(予防の本 p229)
第 29 回	⑱	㉔ 生体におけるフッ化物の代謝を説明できる。【158】(予防の本 p229)
第 30 回	⑲	㉕ フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法を説明できる。【160】(予防の本 p249)
第 31 回	⑲	㉖ フッ化物応用によるう蝕予防方法を列挙できる。【165】(予防の本 p253)
第 32 回	⑲	㉗ フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明できる。【178】(予防の本 p229)
第 33 回	⑲	㉘ ライフステージに応じたフッ化物の応用方法を説明できる。【179】 (予防の本 p252)
第 34 回	⑳	
第 35 回	㉑	
第 36 回	㉒	
第 37 回	㉓	
第 38 回	㉔	
第 39 回	㉕	
第 40 回	㉖㉗	
第 41 回	㉘	
第 42 回	㉙	
第 43 回	㉚	
第 44 回	㉛	
第 45 回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科衛生士概論		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／前期
			高崎校	1年次／前期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	村田隆子	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	村田隆子		
一般目標	歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、歯科衛生業務・歯科衛生過程・多職種連携・医療安全対策の実践のために、多様な科目において、知識・技術を習得する態度、論理的思考法の基礎を習得する。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科衛生士総論」[医歯薬出版]			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

歯科衛生の専門家として業務を行うとはどういうことなのか？ 歯科衛生士に対する社会的ニーズは何があるか？ 歯科衛生の仕事を考えるとき「科学的思考」という見方で歯科衛生士業務の全般について学習する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	※ テキストからセレクトしてレクチャーする。 (テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科衛生士総論」【ページ数】 ① 歯科衛生学を概説できる。【1～7】 ② 歯科衛生業務の構成要素を説明できる。【20～31】 ③ 業務実践にあたって、クリティカルシンキング（批判的に思考する意義）を説明できる。【24】 ④ 歯科衛生過程の構成要素を列挙できる。【32・33】 ⑤ 歯科衛生過程の構成要素それぞれの意味を説明できる。【34～40】 ⑥ 対象者を第一に考えた健康づくりを支援する理由を説明できる。【2～4】【71】 ⑦ 業務記録の意義を説明できる。【38】 ⑧ 歯科衛生の実践が倫理的であるべき理由を述べることができる。【68・69】 ⑨ インフォームド・コンセントにおける患者・家族と保健医療者双方の権利と義務を説明できる。【73】 ⑩ 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。【50～52】 ⑪ 歯科衛生業務を実践するための判断力と習熟した技術が必要である理由を説明できる。【50】 ⑫ 保健・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる。【81】【98】 ⑬ 他職種との連携の意義を説明できる。【82】 ⑭ チーム医療を概説できる。【81】 ⑮ 医療安全対策の必要性と方策を概説できる。【53～65】
第2回	②	
第3回	③	
第4回	④	
第5回	⑤	
第6回	⑥	
第7回	⑦	
第8回	⑧	
第9回	⑨	
第10回	⑩	
第11回	⑪	
第12回	⑫⑬	
第13回	⑭	
第14回	⑮	
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科臨床概論		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／前期
			高崎校	1年次／前期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	備前島俊行	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	黒田真右・渡邊英明		
一般目標	歯科臨床各科の保存・補綴・矯正歯科・小児歯科・口腔外科・高齢者歯科・障害者歯科の基本的な流れを中心に治療対象・治療目的・治療における歯科衛生士の役割について歯科臨床の概要に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 歯科衛生士のための歯科臨床概論			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。			

ムシ歯が少ない時代なので一度も歯科医院を訪れたことのない学生もあるだろう。ひとくちに歯科の仕事といっても色々な分野がある。歯科の広い分野や仕事について学習する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	はじめに	(テキスト) 歯科衛生士のための歯科臨床概論【ページ数】
第3回～第4回	①②⑬	① 応急処置【21】、救急処置【89】、訪問診療【92】の概要について理解する。
第5回～第6回	③④	② 医療人としての心構えと歯科医療に携わる人々について理解する。【3・6】
第7回～第8回	⑤⑥	③ 歯科診療所の概要と診療室の設備について理解する。【2～11】
第9回～第10回	⑦⑧	④ 歯科診療室での準備、受付、診察の概要について理解する。【14～18】
第11回～第12回	⑨	⑤ 歯科における検査の概要について理解する。【22～29】
第13回～第14回	⑩⑳	⑥ 患者の心理と歯科医院の来院目的について理解する。【42】
第15回～第16回	⑪	⑦ 歯科保存診療の概要について理解する。【54・55】
第17回～第18回	⑫	⑧ 保存修復治療の概要について理解する。【56・58】
第19回～第20回	⑬	⑨ 歯周治療の概要について理解する。【64～71】
第21回～第22回	⑭	⑩ 歯内治療の概要について理解する。【60】
第23回～第24回	⑮	⑪ 歯科補綴診療の概要について理解する。【72・74・76】
第25回～第26回	⑯⑰	⑫ 口腔外科診療の概要について理解する。【44～53】
第27回～第28回	⑱	⑬ 矯正歯科診療の概要について理解する。【40・42】
第29回～第30回	まとめ	⑭ 小児歯科診療の概要について理解する。【32～38】 ⑮ 予防歯科の概要について理解する。【38・66】 ⑯ 障害者歯科診療の概要について理解する。【82・88】 ⑰ 高齢者歯科診療の概要について理解する。【82・88】 ⑱ 周術期口腔管理の概要について理解する。【90】 ⑲ 摂食嚥下障害ケアの概要について理解する。【86】 ⑳ 歯の漂白法の概要について理解する。【62】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯周治療学Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校 1年次／後期
				高崎校 1年次／後期
授業時数	15時間		単位数	1単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	竹内康雄	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	高井貞浩		
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法、治療法、歯周治療の補助に必要な検査や治療手順および器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯周病学」[医歯薬出版]			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

抜かないで歯を残すことを「歯を保存する」という。歯科保存治療の分野で、歯を抜けないよう支える歯肉や骨が溶けて歯がグラグラするのが歯周病。歯が抜けないように歯の周りの炎症をコントロールするのが歯周治療である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯周病学」【ページ数】
第2回	②	① 歯周組織の成り立ちについて説明できる。【8～16】
第3回	③	② 歯周病の病理について説明できる。【17～27】(病理学の本 p105～120ページ)
第4回	④	③ 歯周病の病因・リスクファクターを説明できる。【28～36】
第5回	④	④ 歯周病の種類と症状を説明できる。【17～27】
第6回	⑤	⑤ 歯周組織検査に必要な器具・検査の意義を説明できる。【55～72】【138～145】
第7回	⑥	⑥ 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。【55～73】
第8回	⑦	⑦ 歯周治療の流れを説明できる。【75】
第9回	⑧	⑧ 歯周治療の術式と適応症を説明できる。【74～133】
第10回	⑨	⑨ スケーラーの種類と使用目的を説明できる。【159～165】
第11回	⑩	⑩ スケーリング・ルートプレーニングについて説明できる。【159～177】
第12回	⑫	⑪ 歯面清掃・歯面研磨の意義が説明できる。【177】
第13回	⑬⑭	⑫ 歯周治療における薬物治療について説明できる。【85】
第14回	⑮⑯⑰⑱	⑬ 歯周治療後の再評価ができる。【52・83・137】
第15回	まとめ	⑭ 口腔機能回復治療の概要を説明できる。【190】
		⑮ SPT(歯周病安定期治療)の目的を説明できる。【191】
		⑯ 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。【191】
		⑰ 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。【191】
		⑱ SPT(歯周病安定期治療)の処置内容を説明できる。【194～195】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科放射線学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／前期・後期
			高崎校	1年次／後期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	亀山正	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	小野徹		
一般目標	歯科疾患の診断、歯科衛生業務の実施に必要な画像検査、エックス線写真撮影時の補助に必要な撮影手順、放射線防護の方法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科放射線」			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。			

歯やアゴの病気は皮膚の下の普段見えないところで起きている。見えるようにするのがエックス線写真である。エックス線とはなにか？どうやってエックス線写真が写るのか？撮影のサポートの方法、写真の見方を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科放射線」【ページ数】
第3回～第4回	③	① 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。【11～19】
第5回～第6回	④⑤	② 放射線の人体への影響を説明できる。【11】
第7回～第8回	⑥⑦	⑧ エックス線画像の形成原理を概説できる。【20】
第9回～第10回	⑧	④ 口内法【27～43】の手技を説明できる。
第11回～第12回	⑨⑩	⑤ エックス線撮影装置の準備ができる。【62～84】
第13回～第14回	⑪	⑥ 口内法撮影において頭部の固定ができる。【64】
第15回～第16回	⑫	⑦ 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。【66～80】
第17回～第18回	⑬	⑧ 写真の処理と画像管理ができる。【106～113】
第19回～第20回	⑭⑮	⑨ パノラマエックス線撮影【45・95～105】の手技を説明できる。
第21回～第22回	⑯	⑩ パノラマエックス線撮影の準備ができる。【95～105】
第23回～第24回	⑰	⑪ 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる。
第25回～第26回	⑱	⑫ 歯科用パノラマ撮影装置【46】・デジタル画像【118】の取り扱いを説明できる。
第27回～第28回	⑲⑳㉑	⑬ 超音波検査、CT (CBCT)、MRI の原理と特徴を概説できる。
第29回～第30回	まとめ	(CBCT)…コーンビームCT ⑭ 口内法エックス線写真【86】のエックス線解剖の概要を説明できる。 ⑮ パノラマエックス線写真【104】のエックス線解剖の概要を説明できる。 ⑯ う蝕・歯周病・顎骨に生じる病変(嚢胞、腫瘍、炎症等)のエックス線所見を概説できる。【89～92】 ⑰ 放射線防護の準備ができる。【14～19】 ⑱ 患者や術者の放射線防護ができる。【64】 ⑲ 被爆量の測定準備ができる。【16】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科予防処置論Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／前期・後期
			高崎校	1年次／前期・後期
授業時数	75時間	単位数	3単位	
授業方法	講義・実習	企業等との連携		
担当教員	太田校	米岡葉月	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	吉井さか枝		
一般目標	歯・口の疾患を予防して健康状態を維持・増進させるために必要な専門的理論に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。 (1)【歯科予防処置論・総論】 歯科予防処置の目的と意義 (2)【歯周病予防処置論】 歯周病の予防 (3)【う蝕予防処置論】 う蝕の予防			
使用教材・教具	(テキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 [医歯薬出版] (サブテキスト1) 最新歯科衛生士教本「歯周病学」 (サブテキスト2) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」 (サブテキスト3) 歯科衛生学事典(わからないことはどんどん調べよう)			
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実技試験を行う。			

歯や口の病気を予防することは歯科衛生士としてやりがいが見えやすい仕事である。歯科の病気を予防するにはどうするのか、歯科の2大疾患である歯周病・う蝕をどうやって予防するのか？予防するための方法と技術を学ぶ。

【歯科予防処置論】1年 (主要3科目の到達目標 p112～▲1年生)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	はじめに	※ テキストからセレクトしてレクチャーする。
第3回～第4回	①	(テキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版の《※ページ数》 第1版の【ページ数】
第5回～第6回	①	
第7回～第8回	④	(※は実習予定項目)
第9回～第10回	④	(1)【 歯科予防処置論・総論 】
第11回～第12回	⑤	① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。《2-5》【2】
第13回～第14回	⑦	④ 歯周病予防を概説できる。《37-43》【9・351】
第15回～第16回	⑦	⑤ う蝕予防を概説できる。《32-36》【9・350】
第17回～第18回	⑧	⑦ 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる。 《16-27》《133・134》【12-16・17-20】(ポケットマニュアル p38)
第19回～第20回	⑧	
第21回～第22回	⑩	⑧ 歯・口腔の健康状態を把握するための項目が列挙できる。《131-182》【72】
第23回～第24回	⑩	⑩ 歯石の形成過程と成分を説明できる。《31》《137》【24】
第24回～第26回	⑫	⑫ 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。《42》【28・282】
第25回～第28回	⑫	(2)【 歯周病予防処置論 】
第29回～第30回	⑬	⑬ 歯周病と生活習慣の関連を説明できる。 《42・348・356》【30・277・281・351】
第31回～第32回	⑳	
第33回～第34回	⑳	⑳ 歯《16》【83】・歯肉《19》【84】・口腔《17・131》【86-】の検査ができる。
第35回～第36回	⑳	㉑ 歯《131》【83】・歯周組織《142》【85】の診査の結果を説明できる。

第 37 回～第 38 回	㉑	㉒ エックス線画像における正常像と歯周病画像の概説ができる。《168》
第 39 回～第 40 回	㉒	画像（放射線学の本（放射線学の本 p86・p104）（ポケットマニュアル p44・p46～47）
第 41 回～第 42 回	㉒	㉓ 対象者の情報を分析し、歯周病予防計画が立案できる。
第 43 回～第 44 回	㉓	《107・108・142》【9・74・305・351】
第 45 回～第 46 回	㉔	㉔ スケーラーの種類と使用目的を説明できる。
第 47 回～第 48 回	㉕	《202》【131】【139・140】（ポケットマニュアル p122～123）
第 49 回～第 50 回	㉕	*㉕ シックルタイプスケーラーを操作できる。
第 51 回～第 52 回	㉕	《184・194・203》【131・132・142～153・324・325】
第 53 回～第 54 回	㉘	㉘ スケーリング時の偶発症とその対応について説明できる。
第 55 回～第 56 回	㉘	（診療補助の本 p9）（ポケットマニュアル p212～213）
第 57 回～第 58 回	㉙	(3) 【う蝕予防処置論】
第 59 回～第 60 回	㉚	㉙ う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明する。
第 61 回～第 62 回	㉛	《307・317・328・336・340・347》【117・189・242・251・266・302・350】
第 63 回～第 64 回	㉜	㉚ う蝕と全身疾患の関連を説明する。《68・413》【116・284】
第 65 回～第 66 回	㉜	㉛ う蝕予防処置（フッ化物応用・シーラント）の臨床的効果、作用機序、安全性、および便宜性を説明できる。
第 67 回～第 68 回	㉝	㉜ フッ化物応用《229・237・243》【184・185・188・189・190】シーラント《254》
第 69 回～第 70 回	㉝	【200】を説明できる。
第 71 回～第 72 回	㉞	・シーラント（ポケットマニュアル p140～141）
第 73 回～第 74 回	㉞	㉝ う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。
第 75 回	まとめ	《172》【89・114・116】
		㉞ フッ化物歯面塗布法の使用薬剤の種類と濃度、その取り扱い方法を説明できる。《229》【190～192】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科保健指導論Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	1年次／前期・後期
				高崎校	1年次／前期・後期
授業時数	75時間		単位数	3単位	
授業方法	講義・実習		企業等との連携		
担当教員	太田校	戸田恵理	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	渡木里佳			
一般目標	<p>個人・集団を対象として生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動にするために必要なプロフェッショナルケア（専門家の行う世話）・セルフケア（自分でする世話）・コミュニティケア（地域で行う世話）の基本となる知識を修得し、技術、態度を身につける。歯科保健指導は、総論はじめいくつかの分野がある。</p> <p>(1)【歯科保健指導・総論】行動変容・保健指導・食生活指導・健康管理 (2)【歯科衛生過程論】情報収集・評価・歯科衛生診断・歯科衛生介入プログラム (3)【口腔健康管理論】歯口清掃など口腔健康管理 (4)【生活習慣指導論】生活習慣病の予防 (5)【食生活指導論】ライスステージと機能障害に応じた食生活指導 (6)【口腔機能管理論】口腔機能の低下や障害に応じた機能向上への対応 (7)【健康教育活動論】地域・学校・職場における歯科保健活動</p>				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 (サブテキスト) 歯科衛生学事典(知らないことはすぐに調べよう)				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席を必修とし、筆記試験等の成績により評価する。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

保健とは健康を守ること、あるいは健康を育てていくことである。歯科保健とは、歯や口の健康を守っていくにはどのようにすればよいのか？生涯通して健康を守る方法は何か？などについて学ぶ。

【歯科保健指導論】1年(主要3科目の到達目標 p114～▲1年生)

授業回数	授業予定	到達目標
第1回	はじめに	○ 到達目標
第2回	①	<p>※ テキストからセレクトしてレクチャーする。</p> <p>(テキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版の《※ページ数》 第1版の【ページ数】</p> <p>(*は実習予定項目)</p> <p>(1)【歯科保健指導論・総論】</p> <p>① 歯科保健指導の意義と特性を説明できる。《2～7》【2】 ② 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。《3》【5】 ③ 歯科保健指導のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる。 《392・394》【330】</p> <p>(2)【情報収集・歯科衛生過程論】</p> <p>⑨ 情報収集として全身的な健康状態を把握できる。 《42・44～49・125～131・289～301・361～364》【78・79】【63～66・72・81】 ⑳ 歯科衛生過程における論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。 《100》【62】</p>
第3回	②	
第4回	③	
第5回	⑨	
第6回	⑳	
第7回	㉔	
第8回	㉕	
第9回	㉖	
第10回	㉗	
第11回	㉘	
第12回	㉙	
第13回	㉚	
第14回	㉛	

第 15 回	③③	②④ 歯科衛生過程を概説できる。《98》【63】
第 16 回	③④	(3) 【口腔健康管理論】
第 17 回	③⑤	③② 口腔健康管理に関する清掃用具を説明できる。《264》【205】
第 18 回	③⑥	③③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。《282・284》【210】
第 19 回	③⑦	③④ 口腔健康管理にあたり口腔衛生状態が説明できる。《131～149》【67】
第 20 回	③⑧	*③⑤ 口腔清掃方法の選択と指導ができる。《264》【205～210・214～227・328】
第 21 回	③⑨	*③⑥ 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。 《264・272・274》【214～224】(ポケットマニュアル p116～121)
第 22 回	④①	*③⑦ 舌・口腔粘膜の清掃用具の選択と使用法の指導ができる。《278》【224～227】
第 23 回	④②	*③⑧ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の選択と使用法の指導ができる。 《282・284》【210～214・227～228】
第 24 回	④③	*③⑨ う蝕のリスクに応じた口腔清掃法と口腔管理指導ができる。 《169》【216～222】
第 25 回	④④	*④① 不正咬合に応じた口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《132》【216～222】
第 26 回	④⑤	*④② 義歯装着に応じた口腔清掃法と口腔管理指導ができる。 《281》【216～222・226】
第 27 回	④⑤	④⑤ 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明 できる。
第 28 回	④⑤	妊産婦《306》【241～243】、新生児・乳児《311》【248～249】、幼児《324》【258】、 学齢《332》【263～264】、青年《339》【270～271】、成人《344》【275～277】、 老年《354》【282～283】、要介護高齢者《369》【288】、障害者《376》【294】
第 29 回	④⑤	*④⑥ 各ライフステージ別の口腔清掃法と口腔管理指導ができる。
第 30 回	④⑤	妊産婦《307》【244】、新生児・乳児《316》【250～251】、幼児《325》【258～261】、 学齢《334》【264～265】、青年《340》【271～272】、成人《346》【277～278】、 老年《355》【283～284】、要介護高齢者《372》【290】、障害者《379》【295】
第 31 回	④⑤	(4) 【生活習慣指導論】
第 32 回	④⑤	60 禁煙指導と支援ができる。《293～299》【231～235】
第 33 回	④⑤	(5) 【食生活指導論】(栄養指導学でも学習する)
第 34 回	④⑥	61 食生活・食習慣の背景を説明できる。《44》【39～44】
第 35 回	④⑥	62 健康を維持するための栄養情報を説明できる。《46》【40】
第 36 回	④⑥	63 食品とう蝕の関連性を説明できる。《68・71》【44～53・231】
第 37 回	④⑥	64 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。《68》【56】【229】
第 38 回	④⑥	65 う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。《75》【54】
第 39 回	④⑥	66 咀嚼の働きを説明できる。《80・154・285》【55～58】
第 40 回	④⑥	67 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。《80》【57】
第 41 回	④⑥	*73 各ライフステージ別の食生活指導ができる。
第 42 回	④⑥	妊産婦《309》【245～247】、新生児・乳児《318》【252～257】、幼児《330》【261】、 学齢《335》【265～270】、青年《341》【272～275】、成人《349》【278～282】、 老年《358》【285～287】、 要介護高齢者《373》【292～294】、障害者《380》【296～298】
第 43 回	60	
第 44 回	61	
第 45 回	62	
第 46 回	63	
第 47 回	64	
第 48 回	65	
第 49 回	66	
第 50 回	67	
第 51 回	73	
第 52 回	73	
第 53 回	73	
第 54 回	73	
第 55 回	73	

第 56 回	73	*74 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。《289》【229～239】
第 57 回	73	*75 障害児者《381》【296～298】、要介護者《373》【292～294】の食事介助の指導ができる。
第 58 回	73	
第 59 回	73	76 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。《286》【18～20・292～293】
第 60 回	74	(6) 【 口腔機能管理論 】
第 61 回	75	77 人体の加齢と老化の特性と機序及び寿命を概説できる。《285～288》【282】
第 62 回	75	78 発達と加齢に伴う細胞、組織、器官の形態的および機能的な変化を概説できる。《304・354》
第 63 回	77	(7) 【 健康教育活動論 】
第 64 回	78	
第 65 回	90	90 健康教育活動における健康教育の対象と場の特徴を説明できる。《390》【329・332】
第 66 回	91	
第 67 回	92	91 健康教育に必要な情報を収集できる。《392》【331・341】
第 68 回	93	92 健康教育の計画立案ができる。《394・399・400・405》【331・342】
第 69 回	94	93 健康教育の内容を説明できる。《395・408》【331・335・337・342】
第 70 回	95	94 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。《395》【332・343】
第 71 回	96	95 健康教育活動の方法を説明できる。《395》【331・342】
第 72 回	97	96 健康教育の評価を説明できる。《395・396》【334・343】
第 73 回	98	97 対象別健康教育として集団・組織・地域の実態が把握できる。《398》【329】
第 74 回	まとめ	98 対象者の特性とニーズの把握ができる。《399》【338】
第 75 回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	栄養指導学Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／後期
			高崎校	1年次／前期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	井野文枝	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	井野文枝		
一般目標	人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「栄養と代謝」[医歯薬出版] (サブテキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 [医歯薬出版]			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて調理実習を実施する。			

人間のからだの血や肉を作り、からだを動かすエネルギーのもととなる栄養について学ぶ。食物から得られる栄養は、人間にとって不可欠である。栄養不足・栄養の取り過ぎ・偏った食事は、健康を損ね、病気の原因にもなる。肥満や生活習慣病を予防するには食事に気を配ることが大切である。歯科衛生士による保健指導に栄養指導がある。

栄養指導学では食事摂取・消化や吸収のしくみ・食品に含まれる栄養素を学習して、健康な身体をつくりのための栄養のとり方を学習して、歯や口の健康づくりを食事面からサポートする方法を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	(テキスト)「栄養と代謝」の本【ページ数】
第3回～第4回	③	① 健康の維持と増進に必要な栄養を概説できる。【116】
第5回～第6回	④⑤	② 現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を列挙できる。【117・118】
第7回～第8回	⑥	③ 栄養素の種類とその消化と吸収の基本を説明できる。【120】
第9回～第10回	⑦	④ 栄養素の役割を説明できる。【124】
第11回～第12回	⑧⑨	⑤ 食事摂取基準を説明できる。【133】【137～139】
第13回～第14回	⑩	⑥ エネルギー必要量を説明できる。【128】
第15回～第16回	⑪	⑦ 脂肪エネルギー比率を説明できる。【131】
第17回～第18回	⑫	⑧ 基礎代謝を説明できる。【132】
第19回～第20回	⑬	⑨ 糖質【142】、タンパク質【148】、脂質【155】の生体での役割を概説できる。
第21回～第22回	⑭	⑩ ビタミンの種類と働きを概説できる。【157】
第23回～第24回	⑮	⑪ ミネラル(無機質)の種類と働きを概説できる。【163】
第25回～第26回	⑯	⑫ 水の生体での役割を概説できる。【170】
第27回～第28回	⑰⑱	⑬ 食物繊維の生体での役割を概説できる。【173】
第29回～第30回	まとめ	⑭ 食品の成分と分類および食品成分表を説明できる。【203】
		⑮ 食品群の種類と分類を説明できる。【206】
		⑯ 保健機能食品を説明できる。【187】
		⑰ 食品添加物(保存料、甘味料、着色料、香料など)を説明できる。
		⑱ 食品の物性とその働きを説明できる。【209】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科診療補助論Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	1年次／前期・後期
				高崎校	1年次／前期・後期
授業時数	45時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	町田美穂	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	皆川香			
一般目標	<p>さまざまなライフステージ（人の一生における年齢による段階）における専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療補助論は、総論はじめいくつかの分野に分かれる。 ・ 歯科臨床各科の診療補助論では各科における歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。 ・ 高齢者・障害児者歯科治療の補助では摂食嚥下の検査および訓練法を習得する。 ・ エックス線写真撮影時の補助では必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。 ・ 救命救急処置では必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。 <p>(1)【歯科診療補助論・総論】 (2)【保存診療時の診療補助論】 (3)【補綴診療時の診療補助論】 (4)【口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助論】 (5)【矯正歯科診療時の診療補助論】 (6)【小児歯科診療時の診療補助論】 (7)【高齢者診療時の診療補助論】 (8)【障害児者診療時の診療補助論】 (9)【エックス線写真撮影療時の診療補助論】 (10)【救命救急処置時の診療補助論】</p>				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」[医歯薬出版] (サブテキスト1) 最新歯科衛生士教本「歯科機器」 (サブテキスト2) イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 (サブテキスト3) 歯科衛生学事典（知らないことはすぐに調べよう）				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。				

歯科診療の補助とは、歯科医師の指示のもとに行う直接に患者への対面行為である医療行為である。歯科診療の際に歯や口など口腔領域に直接触れる医療行為は歯科衛生士の資格が必要となる行為である。

【歯科診療補助論】1年（主要3科目の到達目標 p118～▲1年生）

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	（*は実習予定項目） （テキスト）「歯科診療補助論」の本【ページ数】 (1)【 歯科診療補助論・総論 】 ① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを述べるができる。【2・5・6】 ② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる。【3】
第2回	①	
第3回	②	
第4回	③	
第5回	④	

第6回	⑤	③ チーム歯科医療の必要性を述べる事ができる。【63】
第7回	⑥	④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる。【292・318】
第8回	⑦	⑤ 情報収集として全身および口腔の自覚症状(主観的情報)を読み取ることができる。【57・58】(問診票の記入)
第9回	⑧	⑥ 情報収集として全身疾患の症状(客観的情報)を読み取ることができる。
第10回	⑨	【256~285】
第11回	⑩	⑦ 情報収集として生体検査の方法と結果を読み取ることができる。【78~89】
第12回	⑪	⑧ 情報収集として血液検査の結果を読み取ることができる。【307~315】
第13回	⑫	⑨ 情報収集としてモニター検査の結果を読みとることができる。【76・150・171】
第14回	⑬	⑩ 情報収集として心身の成長・発達の状態を把握できる。
第15回	⑭	【183】(小児歯科の診療補助)
第16回	⑮	⑪ 服薬の状態を把握できる。(薬理学の本 p175 服薬指導)
第17回	⑯	⑫ 歯科治療に必要な検査で他覚症状(客観的情報)を読み取ることができる。
第18回	⑰	⑬ 全身疾患を考慮した患者への対応ができる(身体機能含む)。【256~285】
第19回	⑱	⑭ 高齢者に配慮した患者への対応ができる。【60】
第20回	⑲	⑮ 妊産婦に配慮した患者への対応ができる。【67】
第21回	⑳	⑯ 通院困難者に配慮した患者への対応ができる。【60】
第22回	㉑	⑰ 障害に配慮した患者への対応ができる。【61~62】
第23回	㉒	⑱ 感染に配慮した患者への対応ができる。【18~21】【22~43】
第24回	㉓	*⑲ 診療時の共同動作としてフォーハンドシステムの基本動作ができる。【67】
第25回	㉔	*⑳ 診療時の共同動作として診療に応じた器具の受け渡しができる。【69】
第26回	㉕	(ポケットマニュアル p80~81)
第27回	㉖	*㉑ 診療に応じたバキューム操作ができる。【71】(ポケットマニュアル p76~77)
第28回	㉗	㉒ 診療設備が整えられる。【51~52】【324】(歯科機器 p6~18)
第29回	㉘	㉓ エアーコンプレッサーの管理ができる。【52】(機械室)(歯科機器 p19)
第30回	㉙	㉔ 歯科用ユニットの管理ができる。【55】(歯科機器 p6~18)
第31回	㉚	㉕ 口腔外バキュームの管理ができる。【54】(補綴アシスト p7)(歯科機器 p19)
第32回	㉛	㉖ エックス線撮影装置の管理ができる。【53・90~95】(歯科機器 p26~38)
第33回	㉜	㉗ 酸素吸入器の管理ができる。
第34回	㉝	【54】【165】(酸素ボンベ)(歯科機器 p147~148)
第35回	㉞	㉘ レーザー装置の管理ができる。
第36回	㉟	【54】(保存アシスト p77~85)(歯科機器 p110~111)
第37回	㊱	㉙ 歯科診療室における薬品、歯科材料の管理ができる。【96~98】
第38回	60	㊱ 医療安全管理として感染に応じた対応ができる。【22~27】
第39回	61	*㊱ スタンダードプレコーションができる。【19】(ポケットマニュアル p69~75)
第40回	62	㊱ 医療廃棄物の取り扱いができる。【44~47】
第41回	63	㊱ 偶発事故に適切な対応ができる。
第42回	123~126	【9】【24~28】(ポケットマニュアル p212~213)(予防処置の本の p323~324)
第43回	127~128	㊱ 消毒・滅菌に際して消毒薬、各種滅菌器械・器具の準備ができる。
第44回	129~133	【32~43】(歯科機器 p23~25)
第45回	まとめ	*㊱ 消毒・滅菌に関して消毒薬、各種滅菌器械・器具の取り扱いができる。
		(保存アシスト p40~41)

	<p>③⑥ 消毒薬【39】(ポケットマニュアル p228)、各種滅菌器械・器具の管理ができる。 【41～43】(歯科機器 p23～25)</p> <p>(2)【保存治療時の診療補助】</p> <p>(3)【補綴治療時の診療補助】</p> <p>60 補綴治療時の各種治療・検査の手順を説明できる。 (補綴アシスト p2・34・36)</p> <p>61 補綴治療時の各種治療・検査で用いる器材の準備ができる。 (ポケットマニュアル p174～193)</p> <p>62 補綴治療における印象採得の手順を説明できる。【139～140】 (歯科材料の基礎の本 p127～148・163～168)(ポケットマニュアル p194～205)</p> <p>63 補綴治療における印象採得で用いる器材の準備ができる。 【139・140】(補綴アシスト p6・18～23・38～46)(歯科機器 p112～117)</p> <p>(4)【口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助】2年・3年</p> <p>(5)【矯正歯科治療の診療補助】3年</p> <p>(6)【小児歯科治療時の診療補助】3年</p> <p>(7)【高齢者歯科治療時の診療補助】3年</p> <p>(8)【障害児者歯科治療時の診療補助】3年</p> <p>(9)【エックス線写真撮影時の診療補助】</p> <p>123 エックス線撮影装置の準備ができる。【90～95】</p> <p>124 歯科用・パノラマ用撮影装置・デジタル画像システムの取り扱いを説明できる。【90～95】</p> <p>125 口内法撮影における頭部の固定ができる。【95】(歯科放射線の本 p58)</p> <p>126 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。 【91】(ポケットマニュアル p82～83)</p> <p>127 パノラマエックス線撮影の準備ができる。 【90】(歯科放射線の本 p98)(ポケットマニュアル p86～87)</p> <p>128 エックス線写真の処理と画像管理ができる。 【95】(歯科放射線の本 p85)(歯科材料の基礎の本 p211)(ポケットマニュアル p88)</p> <p>129 放射線防護の準備ができる。(歯科放射線の本 p167)</p> <p>130 患者や術者の放射線防護ができる。(歯科放射線の本 p165・167)</p> <p>131 被爆量の測定準備ができる。(歯科放射線の本 p169)</p> <p>132 放射線の人体への影響を説明できる。(歯科放射線の本 p164)</p> <p>133 二等分法と咬翼法の観察項目を概説できる。【186】</p> <p>(10)【救命救急処置】3年</p>
--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科材料学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	1年次/後期
			高崎校	1年次/後期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	町田美穂	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	皆川香		
一般目標	主要歯科材料の種類、取り扱いと管理：歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。			
使用教材・教具	(テキスト) イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 [永末書店] 【ページ数】 (サブテキスト) 「歯科診療補助論」《ページ数》			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて実習を行う。			

歯型をとったり、欠けた歯を修復したり、入れ歯を作ったり、とにかく各種の材料を使う。樹脂など有機材料・セラミックなど無機材料・セラミックと樹脂をミックスした複合材料・金属材料などいろいろな材料を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	(*は実習予定項目)
第2回	①②	イラスト歯科材料の基礎の本【ページ数】・診療補助の本《ページ数》
第3回	③④	① 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。【45】
第4回	⑤	*② 模型用材料の取り扱いができる。【50】《214～221》(ホケットマニュアル p206～209)
第5回	⑥⑦	③ 合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる。【53】《222～235》 粉末/液タイプ《225～226》・ペーストタイプ《227～229》・筆積法・混合法《229～230》・リン酸亜鉛セメント《231》セメントの練和 (ホケットマニュアル p134・236)
第6回	⑧	*④ 合着・接着材・仮着用材料を操作できる。【56】【58】【59】【60】【62】【86】
第7回	⑨	⑤ 印象材の種類と基本的性質を説明できる。【26】アルジネート印象《197》・寒天印象《203》・シリコンゴム印象《204》・個人トレー/個歯トレー《209～210》 モデリングコンパウンド印象【211】・酸化亜鉛ユージノール印象【212～213】
第8回	⑩	*⑥ 各種印象材を練和できる。【30】【36】【41】《199・204～210》
第9回	⑪⑫	*⑦ 概形印象の採得ができる。【127】《200》(ホケットマニュアル p194～199)
第10回	⑬⑭	⑧ 各種印象法が説明できる。【138】【141】【146】(ホケットマニュアル p200～205)
第11回	⑮	⑨ 歯冠修復材(歯冠修復用材料)の種類と基本的性質を説明できる。【66】
第12回	⑯	*⑩ 歯冠修復材の取り扱いができる。【68】【70】【75】《236～243》
第13回	⑰	⑪ 仮封材(仮封用材料)の種類と基本的性質を説明できる。【80・81】(ホケット p239)
第14回	⑱	*⑫ 仮封材の取り扱いができる。【82】【83】【84】【85】【86】《245～250》
第15回	まとめ	⑬ ワックスの基本的性質を述べることができる。【209】《251～253》(ホケット p234) ⑭ 義歯用材料・義歯関連材料の基本的性質を説明できる。【176～183】 ⑮ インプラント用材料の使用目的を説明できる。(補綴アシスト p66～68) ⑯ ホワイトニングについて説明できる。【91～95】【197～201】 ⑰ ファイバーポストについて概説できる。【96】【202】 ⑱ CAD/CAM冠について概説できる。【105】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	看護学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	1年次／後期
			高崎校	1年次／後期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	岡村裕美	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	木村早苗		
一般目標	歯科衛生業務に必要なあらゆる発達段階における主な全身疾患とその対応、モニタリング、救急救命処置のために必要な知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 歯科衛生士のための看護学大意 [医歯薬出版] (サブテキスト1) 検査値の読み方ポケット事典 [成美堂出版] (サブテキスト2) 「歯科診療補助論」Ⅱ編 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて実習を実施する。			

看護では、あらゆる発達段階において、その人が持っている生命力を引き出して自分らしく生きるサポートをする。患者さんの多くは、血圧が高い・糖尿・コレステロールが高いなど全身疾患を有する。歯科治療にあたっては全身の病気の理解が重要となる。医科医療現場の看護師の先生から全身疾患の概要や看護師との連携について学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 歯科衛生士のための看護学大意【ページ数】
第2回	②	(サブテキスト) 「歯科診療補助論」《ページ数》
第3回	③	① 役割・業務・訪問など、看護の概要について概説できる。【19・21～22・106】
第4回	④⑤	② バイタルサイン・栄養摂取・与薬・吸引など看護技術について概説できる。
第5回	⑥	【24～32・49・53・55・56・58】
第6回	⑦	③ 全身状態の患者観察、臨床検査値の見方を概説できる。【61】《307》
第7回	⑧	④ 主な全身疾患と歯科治療と関係の深い内服薬について概説できる。【67】《256》
第8回	⑨	⑤ 高血圧症の患者の来院時の対応を概説できる。【66】《263》
第9回	⑩	⑥ 糖尿病の患者の来院時の対応を概説できる。【66】《257》
第10回	⑪	⑦ 心疾患の患者の来院時の対応を概説できる。【65】《262》
第11回	⑫⑬	⑧ 脳血管障害や神経疾患の患者の来院時の対応を概説できる。【65・67・45～46】
第12回	⑭⑮	⑨ ステロイド薬を内服している患者の来院時の対応を概説できる。【67】
第13回	⑯	⑩ 抗血栓療法を受けている患者の来院時の対応を概説できる。【67】
第14回	⑰	⑪ 妊婦の来院時の対応を概説できる。【45】《283》
第15回	まとめ	⑫ 肝炎など感染症の来院時の対応を概説できる。【65】《261》《273》
		⑬ 一次救命処置・二次救命処置について概説できる。【78～79】《12》《15》
		⑭ 治療中、患者の具合が悪くなった時の対応を概説できる。【79～80】
		⑮ 医療安全対策(ヒヤリ・ハット)について概説できる。【92～96】
		⑯ がん・心臓血管手術など周術期の口腔衛生管理が合併症予防に有効であることを理解する。【73・77】《280》《286》
		⑰ 看護師と歯科衛生士の連携について説明できる。【9～13・101～111】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床検査学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	1年次/後期
			高崎校	1年次/後期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	健康づくり財団講師	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	健康づくり財団講師		
一般目標	検査データの表す意味や正常値を理解し患者の全身状態をよく把握するために臨床検査に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「臨床検査」 (サブテキスト) 検査値の読み方ポケット事典 [成美堂出版]			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて実習を行う。			

多くの患者さんはいろいろな持病を抱えている。血圧が高い・糖尿で血糖が高い・肝臓の機能がちょっと悪いなど見えない身体の中身を数値で示するのが検査である。臨床検査技師の先生より検査と病気の関連や概要を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(実習予定) 血圧測定・骨密度・肺機能検査・血管年齢・脳年齢・腹部超音波 (サブテキスト) 検査値の読み方ポケット事典【ページ数】 (テキスト)「臨床検査」《ページ数》 ① 臨床検査の必要性を理解して、検査方法による種類を説明できる。《12》 ② 生体機能検査の概要・体温・脈拍・血圧・呼吸を理解し測定できる。《8》【278】 ③ 心機能検査・心電図の基本波形について説明できる。《18～19》【282】 ④ 肺機能検査・肺活量検査について説明できる。《20》 ⑤ 検体検査(血液・凝固・生化学・免疫血清・血液型・赤血球・白血球・血小板)について説明できる。《24～43》 ⑥ 血液成分、血球の種類や役割について説明できる。《26・27》【46・58・74】 ⑦ 貧血の分類と検査方法を説明できる。《27・71》【46】【47】【48】 ⑧ 出血性素因の分類・スクリーニング検査を説明できる。《30～32》【62・64】 ⑨ 血液生化学検査(肝機能・腎機能・糖代謝)について説明できる。《32～36》 ⑩ 肝機能検査方法、項目について説明できる。《32・71》【132・136・137】 ⑪ 糖尿病の種類と検査方法、項目について説明する。《36・70》【90・92】 ⑫ 免疫血清学的検査(炎症・アレルギー)について説明できる。《37～38》 ⑬ 血液型(抗原抗体反応)について説明できる。《24・41》【175】 ⑭ 細菌検査・感染症検査について説明できる。《43～44》 ⑮ 歯科領域で関わりの深い肝炎等の感染症の種類、検査方法、検査項目について説明できる。《32・71》【182・184・186】 ⑯ 尿検査の意義、検査法・項目について説明できる。《4》【14・18・20・28・30】 ⑰ 病理組織学的検査について説明できる。《46～49》 ⑱ 口腔領域の臨床検査(味覚・金属アレルギー・唾液)を説明できる。《50～53》 ⑲ 画像検査(超音波検査など)について概説できる。《6～8》
第2回	②	
第3回	③	
第4回	④	
第5回	⑤⑥	
第6回	⑦	
第7回	⑧	
第8回	⑨	
第9回	⑩	
第10回	⑪⑫	
第11回	⑬	
第12回	⑭	
第13回	⑮⑯⑰	
第14回	⑱⑲⑳	
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	秘書概論		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／ 学期	太田校	1年次／前期・後期
				高崎校	1年次／前期・後期
授業時数	30時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	吉田洋子・荻野美恵子・堤梢江	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	高橋範久・中村高広			
一般目標	社会人として必要な心構え・能力・人柄に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。 和裁の基本的な技能を通して歯科衛生士として必要な細かな作業に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	太田校	(テキスト) ビジネス能力検定ジョブパス 3級公式テキスト			
	高崎校	(テキスト) 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて、グループワークや演習を実施する。				

3年後には資格を持った社会人として新たに出発する。現代のビジネス社会で生きることに必要な社会常識を学ぶ。自分の手を使って針と糸で縫うことが少なくなった。裁縫は手先の器用さと集中力を養うのにとっても役立つ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	① 運針ができる。 ② 三角巾が作成できる。 ③ 白衣の裾上げができる。 ④ 仕事の基本となる8つの意識を概説できる。 ⑤ 指示の受け方と報告、連絡、相談について概説できる。 ⑥ コミュニケーションとビジネスマナーの基本について説明できる。 ⑦ 来客応対と訪問の基本マナーについて説明できる。 ⑧ ビジネス文書の基本について概説できる。 ⑨ 電話応対について概説できる。 ⑩ 統計・データの読み方、まとめ方について概説できる。 ⑪ 情報収集とメディアの活用について概説できる。
第3回～第4回	②	
第5回～第6回	③	
第7回～第8回	③	
第9回～第10回	③	
第11回～第12回	④	
第13回～第14回	⑤	
第15回～第16回	⑥	
第17回～第18回	⑦	
第19回～第20回	⑧	
第21回～第22回	⑨	
第23回～第24回	⑩	
第25回～第26回	⑪	
第27回～第28回	まとめ	
第29回～第30回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	コミュニケーション論		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次/学期	太田校	1年次/前期・後期
				高崎校	1年次/前期・後期
授業時数	30時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	堤梢江	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	中村高広・関口さおり			
一般目標	<p>支援が必要な医療現場での「話す」「聞く」「伝える」の基本的なコミュニケーションに関する知識・技術・態度を修得する。</p> <p>情報の授受に効果的なコンピュータの利用法を理解して、インターネットを利用した情報の収集、開示などに関する基本的知識、技能および態度を習得する。</p>				
使用教材・教具	<p>(テキスト) 心をつなぐコミュニケーション - 歯科医院あるあるお悩み解決ヒント集 - [ヒョーロンパブリッシャーズ]</p> <p>(テキスト) ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー [実教出版]</p>				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	<p>一斉授業を基本とする。必要に応じて演習を行う。</p> <p>テキストから必要なところをセレクトしてレクチャーする。</p>				

歯科衛生士は、専門的で難しいことを患者や対象者に伝えて、理解しあうことも大切な仕事である。相手の思いをうまく引き出すにはどうしたらよいか？ わかりやすく伝えるにはどんな言葉を選んだらよいのか？ を学ぶ。また、IT社会ではパソコンを操ることがコミュニケーションに欠かせない。情報の取り扱いについても学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③	<p>【コミュニケーション】(人間が互いに意思・感情・思考を伝達し合うこと)</p> <p>① 心と心でつながるコミュニケーションを理解できる。</p> <p>② 苦手な人とうまく接する方法を概説できる。</p> <p>③ 言いにくいことをうまく伝える方法を概説できる。</p> <p>④ クレームや不満が出ないようにする方法を概説できる。</p> <p>⑤ 話がすれ違うことが多い解決法を概説できる。</p> <p>⑥ 話が脱線する人や話が長い人への対応を概説できる。</p> <p>⑦ うまく説明する方法を概説できる。</p> <p>⑧ モチベーションを上げるヒントを概説できる。</p> <p>⑨ 話が聞いてもらえないときの解決法を概説できる。</p> <p>⑩ 言い訳が多い患者さんに困ったときの対応法を概説できる。</p> <p>【情報リテラシー】(目的に応じて情報を読み書きする能力)</p> <p>⑪ ワープロのソフトを用いることができる。</p> <p>⑫ 表計算のソフトを用いることができる。</p> <p>⑬ インターネットのブラウザ検索を用いて、ホームページを閲覧できる。</p> <p>⑭ 電子メール、添付ファイルの送信、受信および転送ができる。</p> <p>⑮ ネットワークセキュリティと使用上のマナーを概説できる。</p> <p>⑯ ソフトウェア使用上のルールとマナーを述べることができる。</p> <p>⑰ コンピュータを構成する基本的装置を列記できる。</p>
第3回～第4回	④⑤⑥	
第5回～第6回	⑦⑧⑨	
第7回～第8回	⑩	
第9回～第10回	⑪	
第11回～第12回	⑪	
第13回～第14回	⑪	
第15回～第16回	⑪	
第17回～第18回	⑪	
第19回～第20回	⑫	
第21回～第22回	⑫	
第23回～第24回	⑫	
第25回～第26回	⑫	
第27回～第28回	⑫	
第29回～第30回	⑬⑭⑮⑯⑰	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	ビジネス実務		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次 / 学期	太田校 高崎校
授業時数	30 時間		単位数	2 単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	林希巳与・岡庭千代乃・堤梢江	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	中村高広・林希巳与		
一般目標	ビジネスや経済の仕組みに関する知識・技術・態度を身に着ける。 豊かな人間性を育むために世界無形文化遺産に登録された魅力ある和食に関する知識・技術・態度を身に着ける。			
使用教材・教具	(テキスト) 経済記事の読み方検定テキスト「OIKOS-NOMOS」 (テキスト) 郷土に根ざし伝承の技と味に学ぶ和食の基本がわかる本			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。適時、演習や実習を実施する。			

社会人として世の中をより良く生きるには幅広い教養が必要である。教養とは自分の幅を広げることである。社会はいろいろな人の集まりだから、専門分野だけでなく専門外の分野を学び幅広い人間になることも大切である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標	
第1回～第2回	①	「経済記事の読み方検定3級」 ① 経済記事を読むことができる。 ② 経済記事のキーワードを説明できる。 ③ 経済記事を読んで実践的に活用できる。	
第3回～第4回	①		
第5回～第6回	①		
第7回～第8回	②		
第9回～第10回	②		
第11回～第12回	②		
第13回～第14回	③		
第15回～第16回	③		
第17回～第18回	③		
第19回～第20回	まとめ		
第21回～第22回	④⑤		「和食アドバイザー検定2級」 ④ 地域に根差した和食の体系を説明できる。 ⑤ 食材の調達ができる。 ⑥ 日本の郷土料理について説明できる。 ⑦ 祝いと行事の郷土料理を説明できる。 ⑧ 郷土料理の調理や加工技術を説明できる。
第23回～第24回	⑤		
第25回～第26回	⑥		
第27回～第28回	⑦		
第29回～第30回	⑧		

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床・臨地実習Ⅰ	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	1年次／前期・後期
授業時数	45時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	各実習施設の指導教官	実務経験のある教員科目	該当
一般目標	<p>歯科医院・病院など歯科臨床の場、保健センター・高齢者施設・保育園など地域保健の場を通して、歯科衛生士として業務を行うために必要な知識を習得し、技術及び態度を身につける。</p>		
使用教材・教具	(配布資料) 臨地・臨床実習ノート		
成績評価の方法・基準	<p>各実習施設の指導教官の評価をもとに出欠状況・遅刻早退状況・実習態度・実習業務に関する理解力・実践力について総合的に評価する。</p> <p>但し歯科衛生士国家試験受験資格に必修の所定時間に満たない場合は不可とする。</p>		
履修に当たっての留意点	<p>実習は原則として指定された臨床・臨地実習施設にて校外実習とする。</p> <p>実習にあたっては、施設長、指導教官、歯科医師、歯科衛生士の指示の下に行う。</p> <p>貴重な実習時間であることを自覚し、責任をもって臨むこと。</p> <p>実習先は校外であり、髪型・清潔感・服装・ハキハキした挨拶・遅刻しない・健康管理・分からないことは尋ねる・敬語など社会人としてビジネスマナーも求められる。</p>		

授業回数	授業予定	○ 到達目標
全 45 時間共通	校外実習	<p>① 施設等のルール・診療室のルールを理解した行動ができる。</p> <p>② 安全管理・医療安全管理に配慮した行動ができる。</p> <p>③ 感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる。</p> <p>④ 歯科医師・歯科衛生士・施設職員等からの指示内容を踏まえた対応ができる。</p> <p>⑤ 多職種スタッフと協働し、共同動作、連携のとれた対象者へのサービスができる。</p> <p>⑥ プライバシーを配慮した態度で応接できる。</p> <p>⑦ 対象者の守秘義務を遵守できる。</p>

齒科衛生士学科

2年

科目名	化学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	2年次/前期
			高崎校	2年次/前期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	三輪明	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	三輪明		
一般目標	生命現象、生体の構造・機能を知るために化学に関する知識を習得する。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「化学」			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

栄養指導に必要な生化学の基礎であり、化学反応で固まる歯科材料、消毒液やムシバ予防洗口液を薄めて作るなど化学はいっぱい関係する。化学記号や計算があるが分かると楽しい。友とともに教えて教えられ勉強してほしい。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「化学」【ページ数】
第3回～第4回	③	① 物質の構成要素(原子・分子・イオン)について概説できる【2～6・9～13】
第5回～第6回	④	② 原子の構造(原子の構成・周期表・分子量)について説明できる。
第7回～第8回	⑤	【4～11～15】
第9回～第10回	⑥	③ 化学結合(原子間結合・分子間結合)について概説できる。【17～18・22～23】
第11回～第12回	⑦	④ 物質の三態(気体・液体・固体)について説明できる。【26】
第13回～第14回	⑧	⑤ モル・物質を数える単位について説明できる。【42～47・48・50～52】
第15回～第16回	⑨	⑥ 水溶液(浸透圧【57】・コロイド【59】・酸とアルカリ【67・71】)について概説できる。
第17回～第18回	⑩	⑦ 化学反応について説明できる。【71】
第19回～第20回	⑪	⑧ 酸・塩基・中和について説明できる。【71～74・75～76】
第21回～第22回	⑫	⑨ 酸化還元反応について説明できる。【80～83・84～86】
第23回～第24回	⑬	⑩ 有機化合物の特徴を説明できる。
第25回～第26回	⑭	【98～101・102・104・111・112・113・114・117・119・121・122・123～126】
第27回～第28回	⑮	⑪ 無機化合物の特徴を説明できる。【133～134】
第29回～第30回	まとめ	⑫ アミノ酸とタンパク質の基本的な構造、機能を説明できる。
		【143～145・148～150】
		⑬ 糖質の基本的な構造、機能を説明できる。【135～136・139～143】
		⑭ 脂質の基本的な構造、機能を説明できる。【151～153・154～155】
		⑮ 核酸の構造と機能を説明できる。【155～160・162～163】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	外国語Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	2年次/前期
			高崎校	2年次/前期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	CHUO Global Village 講師	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	CHUO Global Village 講師		
一般目標	歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。			
使用教材・教具	(テキスト) デンタルクリニック英会話 1年次購入済 (配布資料) such as Prophylaxis (病気の予防など)			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。 テキストから必要なところをセレクトしてレクチャーする。			

英語は話せるとわかりあえることも増えるし喜びも友達も広がる。苦手な人も多いと思うけど、「メイアイヘルピュ?」「アイグラットウシユ(^)/」「トゥアンキュウ(^♪)」から広げていこう。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	※ テキストからセレクトしてレクチャーする。 (テキスト) デンタルクリニック英会話 【ページ数】 ① デンタルチャートについて概説できる。【44・45・46】 ② 治療について説明できる。【47】 ③ 歯科用語のボキャブラリーをあげることができる。【49～56】 ④ よくある歯科疾患について説明できる。【57】 ⑤ 易しい外国語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。【58～64】 ⑥ 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。 ⑦ 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。 ⑧ 自己紹介文、手紙文などを外国語で書くことができる。 ⑨ 自然科学各分野における基本的単位、数値、現象の外国語表現を列記できる。 ⑩ 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。 ⑪ 外国語による日常会話での質疑応答ができる。
第2回	①	
第3回	②	
第4回	③⑥	
第5回	③⑥	
第6回	③⑥	
第7回	③⑥	
第8回	④	
第9回	④	
第10回	⑤	
第11回	⑤	
第12回	⑦⑧	
第13回	⑨	
第14回	⑩⑪	
第15回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔衛生学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校 2年次／前期・後期
				高崎校 2年次／前期・後期
授業時数	45時間		単位数	3単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	戸田英樹・堤梢江	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	関口さおり・渡邊英明		
一般目標	<p>【口腔衛生学】 保健生態学(健康と予防に関わる人間と社会の仕組み)の一分野 歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【歯科統計学】 保健情報と衛生統計 個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。</p>			
使用教材・教具	(テキスト1) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」1年次購入済 (テキスト2) 最新歯科衛生士教本「保健情報統計学」 (サブテキスト) よくデル！歯科衛生士国試の必修知識「社会歯科」			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。			

【口腔衛生学】「保健生態学」Ⅱ編：歯・口腔の健康と予防

口腔衛生学は、口の中を健康にすることで、生命をまもる学問である。口の中の健康にすることは身体の健康につながる。歯や口を病気にしないようにするにはどうすればいいのか？何ができるのか？などを学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第3回	①	(テキスト1)「保健生態学」【ページ数】
第4回～第6回	②	(サブテキスト)よくデル！国試の必修知識「社会歯科」(よくデルp ページ数)
第7回～第9回	③	① 歯周病の種類と発病のメカニズムを説明できる。【185】(よくデル p54)
第10回～第12回	④	② 歯周病の炎症の広がりや症状を説明できる。【182】
第13回～第15回	⑤	③ 歯周病のリスクファクターを列挙できる。【188】
第16回～第18回	⑥⑦	④ 歯周病の全身に与える影響を説明できる。【188】(よくデル p57)
第19回～第21回	⑧⑨	⑤ 歯周疾患の予防法を説明できる【189】(よくデル p57)
第22回～第24回	⑩⑪⑫	⑥ 口内炎の分類、要因および予防を説明できる。【194】
第25回～第27回	⑬⑭	⑦ 口腔癌の実態と予防を説明できる。【195】
第28回～第30回	まとめ	⑧ 不正咬合の要因とその予防を説明できる。【196】(よくデル p60)
		⑨ 顎関節症の分類と症状を説明できる。【198】
		⑩ 歯の着色・変色の要因を列挙できる。【199】
		⑪ 口臭の要因と予防を説明できる。【200】(よくデル p62)
		⑫ 口腔乾燥症の要因と予防を説明できる。【202】
		⑬ 歯の損耗(Tooth wear)の要因と予防を説明できる。 【293】(保存修復の本 p16 ページ)
		⑭ 歯・口腔の外傷の要因と予防を説明できる。(保存修復の本 p181 ページ)

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

【歯科統計学】

健康づくりをするといっても、漠然としていて、形になって見えてこない。そこでムシ歯・歯周病の実態はどうかを数字で表すなどして、多いのか少ないのか調べたり、図表にしたり分析したりするのが歯科統計学である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 31 回	はじめに	(テキスト 2) 最新歯科衛生士教本「保健情報統計学」【ページ数】
第 32 回	①②③	(サブテキスト) よくデル国試の必修知識「社会歯科」(よくデル p ページ数)
第 33 回	④⑤⑥	① データと情報の違いを説明できる。【1~6】
第 34 回	⑦⑧	② EBM (evidence-based medicine) を説明できる。【7】
第 35 回	⑨	③ 国家保健統計 (歯科疾患実態調査等) を説明できる。【13・17】
第 36 回	⑩	④ 疫学の目的を説明できる。【18】 (よくデル p106)
第 37 回	⑪	⑤ 因果関係を説明できる。【20】
第 38 回	⑫	⑥ 調査方法・研究方法を分類し、説明できる。【22】
第 39 回	⑬⑭⑮	⑦ 有病率・罹患率・累積罹患率 (発病率) を計算できる。【23】
第 40 回	⑯⑰⑱⑲	⑧ スクリーニング検査を説明できる。【33】 (よくデル p106)
第 41 回	⑳㉑㉒	⑨ 敏感度・特異度を計算できる。【34】
第 42 回	㉓㉔	⑩ 歯科疾患の指標を列挙できる。【36~】
第 43 回	㉕㉖㉗㉘㉙	⑩ う蝕の指標を説明できる。【37】 (よくデル p64)
第 44 回	㉚㉛㉜	⑪ 歯周疾患の指標を説明できる。【44】 (よくデル p67)
第 45 回	まとめ	⑫ 口腔清掃状態の指標を説明できる。【54】 (よくデル p69)
		⑬ 保健情報の収集方法を説明できる。【73】
		⑭ 保健調査の基本を説明できる。【77】
		⑮ 質問紙作成法の基本を説明できる。【78】
		⑯ 母集団と標本を説明できる。【84】 (よくデル p75)
		⑰ 標本抽出法を説明できる。【85】 (よくデル p75)
		⑱ データの数値のもつ特徴を説明できる。【89】 (よくデル p75)
		⑲ 数値に応じた代表値や散布度を選択できる。【91】 (よくデル p76)
		⑳ 数値の特徴や分布に応じた検定法を選択できる。【96】 (よくデル p76)
		㉑ 交絡因子 (こうらくいんし) が結果に大きな影響を与えることを知り、その影響を避ける分析法を選択できる。【109】
		㉒ 保健情報の分析において検定の流れを説明できる。【115】
		㉓ 標本平均値の差の検定 (t 検定) を説明できる。【116】
		㉔ カイ二乗検定 (χ^2 検定) を説明できる。【121】
		㉕ 図表の種類と特徴を列挙できる。【124】
		㉖ 図表作成の基本事項を列挙できる。【126】
		㉘ 図表を作成できる。【127~136】
		㉙ 情報の特性・情報リテラシーを概説できる。【137】
		⑳ 情報を得る手順を列挙できる。【142】
		㉑ 個人情報の扱い (個人情報保護) を説明できる。【144】
		㉒ インターネットと情報モラル・倫理的課題について概説できる。【147】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	衛生学・公衆衛生学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／前期
			高崎校	2年次／前期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	武藤政美・戸田恵理	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	武藤政美・関口さおり		
一般目標	<p>【衛生学】保健生態学（健康と予防に関わる人間と社会の仕組み）の一分野である。健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する。</p> <p>【公衆衛生学】最近では「地域保健学」といわれる、保健生態学の一分野である。生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養うために、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。</p>			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」1年次購入済 (サブテキスト) よくデル歯科衛生士国試の必修知識「社会歯科」			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

生きることを衛（まもる）学問・いのちをまもる勉強が衛生学。病気をしないで生きるための暮らし・空気や水などの環境・少子高齢で大丈夫？・感染症の流行・食品の安全・街づくりなど私たちを取り巻くことを勉強する。

【衛生学】「保健生態学」I編：健康を左右する環境

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①②	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」【ページ数】 (サブテキスト) よくデル歯科衛生士国試の必修知識「社会歯科」(よくデル p) ① 健康の定義と国民の権利を説明できる。【3】(よくデル p84) ② 健康づくりの理念を説明できる。【3】【228】 ③ 社会環境 (QOL 【3】、ノーマライゼーション 【229】(よくデル p88)、バリアフリー、国際生活機能分類 (ICF) 【230】) の理念を説明できる。 ④ 第一次予防、第二次予防および第三次予防を説明できる。【5】(よくデル p86) ⑤ 疫学の定義を説明できる。【8】(よくデル p105) ⑥ 疾病や異常の発生要因 (因子) を列挙できる。【8】 ⑦ 健康・疾病・異常・流行を表す指標を列挙できる。【10】【264】 ⑧ 疫学研究の方法を説明できる。【11】(よくデル p106) ⑨ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる。【17】 ⑩ わが国と世界における人口の現状と推移を概説できる。【18】 ⑪ 人口統計における静態統計と動態統計を説明できる。 【21】(よくデル p91・94)
第2回	③④	
第3回	⑤⑥	
第4回	⑦⑧	
第5回	⑨⑩	
第6回	⑪⑫	
第7回	⑬⑭	
第8回	⑮⑯	
第9回	⑰⑱	
第10回	⑲⑳	
第11回	㉑㉒	
第12回	㉓㉔	
第13回	㉕㉖	
第14回	㉗㉘	
第15回	まとめ	

		<p>⑫ 人口構造を人口ピラミッドや各種指標を用いて説明できる。 【22】（よくデル p92）</p> <p>⑬ 人口の高齢化を概説できる。【23】</p> <p>⑭ 生命表の概要を理解して、日本人の平均寿命の動向を説明できる。【32】</p> <p>⑮ 人間と環境の関係を説明できる。【34～49】（よくデル p100）</p> <p>⑯ 健康と環境の関係を説明できる。【34～49】（よくデル p110）</p> <p>⑰ 地球環境の変化とその対応を説明できる。【49】（よくデル p98）</p> <p>⑱ 公害問題とその原因物質を列挙できる。【51】</p> <p>⑲ 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。【56】（よくデル p103）</p> <p>⑳ 感染症の概念と感染成立の三要因を説明できる。【60・61】（よくデル p108）</p> <p>㉑ 感染予防・流行防止の基本的考え方と対策を説明できる。【63】</p> <p>㉒ 感染症対策上の問題点を説明できる。【64】</p> <p>㉓ 感染症の分類とその内容を説明できる。【67】（よくデル p110）</p> <p>㉔ 主な感染症とその動向を説明できる。【70】</p> <p>㉕ 食品と健康の面からわが国の食中毒の発生状況を説明できる。【76】</p> <p>㉖ 食中毒の分類と特徴を説明できる。【79】（よくデル p117）</p> <p>㉗ 食品の安全性確保のための方策を列挙できる。【81】</p> <p>㉘ 健康日本 21（第二次）における食に関するわが国の政策（食事バランスガイドなど）を説明できる。【83・86】（よくデル p120）</p>
--	--	--

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

【公衆衛生学】「保健生態学」3編：健康に関わる地域の役割（地域保健学）

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第16回	①②③	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」【ページ数】
第17回	④⑤⑥	(サブテキスト) よくデル! 国試の必修知識「社会歯科」(よくデル p)
第18回	⑦⑧⑨	① 地域保健を担う組織の仕組みと特徴を概説できる。【216】
第19回	⑩⑪⑫⑬	② ヘルスプロモーションやノーマライゼーションなどの地域保健の概念を概説できる。【227・229】
第20回	⑭⑮⑯⑰⑱	③ 「健康日本 21 (第二次)」【240・243, 274】と「健康増進法」【83・219・240・242】を概説できる。(口衛:165) (よくデル p120・125)
第21回	⑲⑳㉑㉒㉓	④ 地域保健活動の基本的な進め方を概説できる。【232】
第22回	㉔㉕㉖	⑤ 地域歯科保健に関係する保健福祉関係施策の変革を概説できる。【224・239・240】(口衛:151・160) (よくデル p129)
第23回	㉗㉘㉙	⑥ ライフステージごとの口腔保健施策を概説できる。【245】
第24回	㉚㉛	⑥ 国民健康・栄養調査を説明できる。【83】
第25回	㉜㉝㉞	⑦ わが国の母子保健の概略を説明できる。【77】
第26回	㉟㊱㊲㊳㊴	⑧ 母子健康手帳に記載された口腔に関係した質問項目を列挙できる。【260】
第27回	㊵㊶㊷㊸	⑨ 妊産婦への歯科保健指導の要点を説明できる。【256】(よくデル p139)
第28回	㊹㊺	⑩ 1歳6か月児・3歳児健康診査の目的を説明できる。【257】
第29回	㊻㊼㊽㊾	⑪ 1歳6か月児・3歳児健康診査の結果からう蝕罹患型を正確に分類できる。【258】【259】(よくデル p135)
第30回	まとめ	⑫ う蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を列挙できる。【258】
		⑬ 妊産婦期と乳幼児期の口腔保健管理を説明できる。【256】
		⑭ 学校保健の対象者を列挙し、意義を説明できる。【266】
		⑮ 学校において被患率の高い疾病異常を列挙できる。【264】(よくデル p44)
		⑯ 学校保健関係職員を列挙し、その役割を説明できる。【266】(よくデル p181)
		⑰ 学校保健の保健教育と保健管理を概説できる。【269】(よくデル p138)
		⑱ 学校における健康診断を概説できる。【274】
		⑲ 学校保健委員会の構成と活動を概説できる。【272】(口衛:182)
		⑳ 学校歯科健康診断の検査項目を列挙し、事後措置内容を説明できる。【274・276・278】(よくデル p142)
		㉑ 学校歯科健康診断の記号を列挙し、基準を説明できる【277】
		㉒ 学校歯科健康診断後の C0 と G0 の事後措置を説明できる。【278】
		㉓ 成人保健における生活習慣病のリスクファクターを列挙できる。【281】
		㉔ 成人期の口腔保健管理を説明できる。【285・286】
		㉕ 成人保健対策を説明できる。【283】【281】
		㉖ 産業保健の目的を説明できる。【288】
		㉗ 産業衛生に関する法規を列挙できる。【289】
		㉘ 職業性疾病を起こす要因を列挙できる。【290】(よくデル p146・150・155)
		㉙ 労働安全衛生法を概説できる。【298】

		<p>③① 保健管理体制と作業環境管理、作業管理および健康管理を説明できる。 【293・295】（よくデル p153）</p> <p>③② 職域における健康診断の種類を説明できる。【295】</p> <p>③③ 口腔領域に関連のある職業性疾病とそれに対する特殊健康診断を説明できる。【292・296】（よくデル p148）</p> <p>③④ トータルヘルスプロモーションプラン（THP）を説明できる。【297・298】 （よくデル p160）</p> <p>③⑤ 高齢者の保健福祉対策について説明できる。【299・301】</p> <p>③⑥ 介護保険制度の概要を説明できる。【303】</p> <p>③⑦ 介護予防を説明できる。【304】（よくデル p164）</p> <p>③⑧ 要介護者の保健福祉対策（認知症施策推進総合戦略・新オレンジプランを含む）を説明できる。【305】</p> <p>③⑨ 地域包括ケアシステム（地域における保健・医療・福祉・介護の連携）を概説できる。【305】（口衛:159・162）</p> <p>④⑩ 精神保健の定義を説明できる。【310】</p> <p>④⑪ 健康に関わる精神保健の意義を概説できる。【310】</p> <p>④⑫ 精神障害者の歯科保健の問題を概説できる。【315】</p> <p>④⑬ 精神保健活動の現状を概説できる。【311～315】</p> <p>④⑭ 大規模災害時の保健医療対策を概説できる。【317】 （ポケットマニュアル p214～215）</p> <p>④⑮ 被災地での歯科保健活動を概説できる。【320】</p> <p>④⑯ 国際保健の面から国や地域により健康水準や保健医療の発達程度が異なっていることを概説できる。【325】</p> <p>④⑰ 国際協力に関わる機関を列挙できる。【327】</p> <p>④⑱ WHO や JICA の活動を概説できる。【327】</p> <p>④⑲ 世界の歯科疾患の状況と口腔保健従事者を説明できる。【328】</p>
--	--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	衛生行政・社会福祉		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校 2年次／前期・後期
				高崎校 2年次／後期
授業時数	30 時間		単位数	2 単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	村田隆子・戸田恵理・堤梢江	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	設樂昌博		
一般目標	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科衛生士の法律・制度」[医歯薬出版]			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

健康、医療、子ども、子育て、福祉、介護、雇用、労働、年金などの仕組みや法を勉強する。憲法[最高法規]>>法律[国会で作る]>政令[内閣が出す法施行令]>省令[各省の大臣が出す法施行規則]>条例[地方公共団体]。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②③④	(テキスト)「歯科衛生士の法律・制度」【ページ数】
第3回～第4回	⑱⑲⑳㉑	① 歯科衛生士資格の成り立ちと目的を説明できる。【1～6】
第5回～第6回	⑤⑥	② 歯科衛生士、歯科医師および歯科技工士の業務を説明できる。【7・39・45】
第7回～第8回	⑦⑧	③ 歯科衛生士業務とその法的根拠を説明できる。【7～17】
第9回～第10回	⑨⑩	④ 歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列挙できる。【10・11】
第11回～第12回	⑪⑫	⑤ 歯科衛生士の試験・免許に関する手続きを説明できる。【17～34】
第13回～第14回	⑬⑭	⑥ 歯科衛生士法に規定されている義務・責務を説明できる。【35～39】
第15回～第16回	⑮⑯⑰	⑦ 医療施設、医療従事者の現況を説明できる。【126】
第17回～第18回	㉒㉓㉔	⑧ 国民医療費など、医療経済の動向を説明できる。【126～129】
第19回～第20回	⑱⑲⑳㉑	⑨ 歯科医師法・歯科技工士法に規定される義務と責務を説明できる。【39～49】
第21回～第22回	㉒㉓㉔⑦⑧	⑩ 医療法の成り立ちと目的を説明できる。【50】
第23回～第24回	⑮⑯⑰	⑪ 医療法に規定されている遵守事項を説明できる。【51～58】
第25回～第26回	⑨⑩⑪⑬⑭	⑫ 保健師助産師看護師法の概要と診療の補助を概説できる。【59～65】
第27回～第28回	①②③④	⑬ 診療放射線技師と言語聴覚士の業務の概略を概説できる。【65～67】
第29回～第30回	まとめ	⑭ 医師法・薬剤師法・その他職種の概略を概説できる。【67～74】
		⑮ 薬事衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。【76～81】
		⑯ 保健衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。【81～91】
		⑰ 予防衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。【91～94】
		⑱ 憲法第25条で示す社会保障制度の種類を列挙できる。【94～95】
		⑲ 日本の医療制度を概説できる。【95・98】
		⑳ 社会保険の種類とその特徴を説明できる。【95】
		㉑ 医療保険の種類とその法律を説明できる。【95～106】
		㉒ 介護保険制度の仕組みを概説できる。【108～113】
		㉓ 障害児者の保健・医療・福祉制度を説明できる。【121～122】
		㉔ 歯科衛生士が関わる社会福祉を説明できる。【115～123】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	保存修復学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	2年次／前期
				高崎校	2年次／前期
授業時数	30時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	濱野英也	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	中野善夫			
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法、治療法、保存治療の補助のために必要な治療手順、薬剤、器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法」[医歯薬出版] (サブテキスト) 歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック [学建書院]				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

抜かないで歯を残すことを「歯を保存する」という。歯科保存治療の分野で、ムシ歯で歯が溶けて穴ができたムシ歯を取り除き、そのムシ歯の穴を補修する分野の治療を保存修復という。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法」【ページ数】
第3回～第4回	②③	① 保存修復学について概説できる。【14】
第5回～第6回	④⑤	② ミニマル・インターベンション・デンティストリ (MID) を説明できる。 【5・36・63】
第7回～第8回	⑥⑦	③ 歯の硬組織疾患の種類と原因を説明できる。【4・14】【6】
第9回～第10回	⑦⑧	④ 歯の硬組織疾患 (う蝕) の概要について説明できる。【14】
第11回～第12回	⑧⑨⑩	⑤ 歯の硬組織疾患の診断の概要について説明できる。【20】
第13回～第14回	⑪	⑥ 歯・歯髄に必要な器具・検査の意義を説明できる。【8～12】
第15回～第16回	⑫⑬	⑦ 歯・歯髄・歯周組織検査に必要な器具・検査の意義を説明できる。
第17回～第18回	⑭⑮	⑧ う蝕治療の流れ、また前準備の概要を説明できる。【25～30】【88・96】
第19回～第20回	⑯⑰	⑨ 歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。【31・34】
第21回～第22回	⑱⑲	⑩ 窩洞形成に必要な切削用器械、器具の準備ができる。【99】
第23回～第24回	⑳㉑㉒	⑪ 歯肉排除法に用いる器材の操作ができる。【29】【99】
第25回～第26回	㉓㉔㉕	⑫ 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。【29】【99】
第27回～第28回	㉖	⑬ ラバーダム防湿ができる。【99】
第29回～第30回	まとめ	⑭ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。【26】【86】【105・106】
		⑮ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。【30】【107】
		⑯ 歯髄を保護する方法について概説できる。【35】【89】【99】
		⑰ 直接覆髄について説明できる。【35】【132】
		⑱ 間接覆髄について説明できる。【35】【130】
		⑲ 暫間的間接覆髄 (IPC法) について説明できる。【35】【134】
		⑳ 裏層法について説明できる。【35】【89・99】
		㉑ 仮封について説明できる。【30】【101・102・103】
		㉒ 窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。【22・23】

		<p>②③ 修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴を説明できる。【36】【85・95】</p> <p>②④ 象牙質知覚過敏症の症状と原因、処置法を説明できる。【19】【114】【195】 （ポケットマニュアル p221～222）</p> <p>②⑤ 修復処置後の不快事項を説明できる。【27】</p> <p>②⑥ 歯の硬組織疾患のメンテナンスと予防法について概説できる。【104】</p> <p>②⑦ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。【53】</p> <p>②⑧ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる。【92】</p> <p>②⑨ 直接修復であるコンポジットレジン修復の手順を説明できる。【85】</p> <p>②⑩ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。【85】</p> <p>②⑪ 歯面処理材料の準備ができる。【42・43】【89・90】</p> <p>②⑫ 間接修復としてのインレー修復の手順を説明できる。【96】</p> <p>②⑬ インレー修復の準備ができる。【95】</p> <p>②⑭ 合着後の余剰セメントの除去ができる。【68】【104】</p> <p>②⑮ 修復処置に使用する器材の概要を説明できる。【25】</p> <p>②⑯ 歯の変色の原因と処置法（歯の漂白）を説明できる。【217】</p>
--	--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯内療法学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／前期
			高崎校	2年次／前期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	白石友子	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	清水英之		
一般目標	歯科衛生業務に必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法、治療法、保存治療の補助のために必要な治療手順、薬剤、器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法」[医歯薬出版] (サブテキスト) 歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック[学建書院]			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

抜かないで歯を残すことを「歯を保存する」という。歯科保存治療の分野で、ムシ歯などにより歯の病気が歯の神経（歯髄）まで進んだ場合に歯髄を痛みの出ないように処置して歯を残す方法が歯内療法である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法」【ページ数】
第3回～第4回	②③	① 歯内療法学の意義と目的について概説できる。【114】
第5回～第6回	④⑤⑥	② 歯の硬組織疾患の概要について説明できる。【4・14・114】
第7回～第8回	⑦	③ 歯髄疾患の分類と症状を説明できる。【118】【119】【121】
第9回～第10回	⑧⑨	④ 歯髄電気診断器の準備【10】・歯髄疾患の検査法を説明できる。【126】【192】
第11回～第12回	⑩	⑤ 歯髄処置の薬剤や機材の準備ができる。【222】(ポケットマニュアル p218～219)
第13回～第14回	⑪	⑥ 歯髄の保存療法(覆髄法)を説明できる。【200】【130】【35】【194】
第15回～第16回	⑫	⑦ 歯髄の除去療法を説明できる。【137～】【123】【194】
第17回～第18回	⑬	⑧ 根管長測定器の準備ができる。【152】【192】
第19回～第20回	⑭	⑨ 根尖性歯周組織疾患(感染根管)の分類と症状を説明できる。【121】
第21回～第22回	⑮⑯	⑩ 根尖性歯周組織疾患の検査法を説明できる。【】
第23回～第24回	⑰	⑪ 根尖性歯周組織疾患の治療について説明できる。【82～93】
第25回～第26回	⑱⑲	⑫ 根管充填法を説明できる。【161～169】
第27回～第28回	⑳㉑	⑬ 根未完成歯の処置法を説明できる。【170】
第29回～第30回	まとめ	⑭ 外科的歯内療法の種類・適応症および処置法を説明できる。【172】 ⑮ 外科的歯内療法の器材の準備ができる。【172】 ⑯ 外傷歯の治療法を説明できる。【181】 ⑰ 歯内療法における偶発的事故とその防止策を説明できる。【185】 ⑱ 根管処置の薬剤や器材の準備ができる。【159】【194】【222】 ⑲ 歯の漂白法の器材・薬剤の準備ができる。(診療補助論の本 p121～123) ⑳ 歯の漂白法の種類・適応症・手順・術後指導を説明できる。【217】 (歯科材料の本 p155～156)

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯周治療学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／前期
			高崎校	2年次／前期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	竹内康雄	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	高井貞浩		
一般目標	歯科衛生業務に必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法、歯周治療の補助に必要な検査や治療手順および器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯周病学」[医歯薬出版] 1年次購入済 (サブテキスト) 歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック[学建書院]			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

抜かないで歯を残すことを「歯の保存」という。歯科保存治療の分野で、歯を抜けないよう支える歯肉や骨が溶けて歯がグラグラするのが歯周病。歯が抜けないように歯の周りの炎症をコントロールするのが歯周治療である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯周病学」【ページ数】
第2回	②	① 歯周外科治療の薬剤や器具の準備ができる。【92～102】
第3回	③	② 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。【103】
第4回	④	③ フラップ手術について概説できる。【105～106】
第5回	⑤	④ 根分岐部病変の診察と治療法を説明できる。【115】
第6回	⑥	⑤ 歯・歯肉・口腔の検査ができる。【138～145】【55～72】
第7回	⑦	⑥ 対象者の情報をもとに歯周病治療計画が説明できる。【136～138】
第8回	⑧	⑦ SPT(歯周病安定期治療)の目的を説明できる。【138】
第9回	⑨	⑧ 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。【128～133】
第10回	⑩	⑨ 歯・歯周組織検査におけるプローブの種類と操作方法を説明できる。【139～144】
第11回	⑪	⑩ 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。【145～148】
第12回	⑱⑲⑳	⑪ 歯周病と全身疾患との関連を説明できる。【148～154】
第13回	⑪⑫⑬	⑫ 歯周病と生活習慣の関連を説明できる。【154～158】
第14回	⑮⑯⑰	⑬ スケーリング・ルートプレーニング(SRP)を説明できる。【159～177】
第15回	まとめ	⑭ 歯周外科手術の手順・介助の概要を説明できる。【178～187】
		⑮ 歯周用パックの取り扱いができる。【188～190】
		⑯ 歯周治療における補綴・歯科インプラント治療について概説できる。
		⑰ 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。【191】
		⑱ メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。【191～195】
		⑲ SPT(歯周病安定期治療)の処置内容・実施時の注意点を説明できる。【191～195】
		⑳ 歯周病に関連する指標を説明できる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科補綴学Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／後期
			高崎校	2年次／前期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	仁木孝行	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	金井孝之		
一般目標	歯科衛生業務に必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」第2版 [医歯薬出版] (サブテキスト1) 歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック (サブテキスト2) 最新歯科衛生士教本「歯科機器」1年次購入済			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

身体の欠損した部位の形態と機能を人工物で補うことを補綴という。歯科補綴は、歯が欠けたり抜けたりした場合に入れ歯・かぶせの歯などの人工物で補うこと。見た目のかたちを補うだけでなく食べる機能も回復する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」第2版【ページ数】
第2回	②	(サブテキスト1) 補綴科アシストハンドブック (補綴アシスト p ページ数)
第3回	③	(サブテキスト2) 「歯科機器」(歯科機器 p ページ数)
第4回	④	① 歯科補綴治療の意義と目的を説明できる。【3】(補綴アシスト p34・p64・p65)
第5回	⑤	② クラウン治療の概要を説明できる。【12】【68】【73】【92】
第6回	⑥	③ ブリッジ治療の概要を説明できる。【15】【70】
第7回	⑦	④ プロビジョナルレストレーション (テンポラークラウン・ブリッジ)の概要を説明できる。
第8回	⑧	【84】【96】(補綴アシスト p15～16)
第9回	⑨	⑤ 可撤式補綴装置・全部床義歯治療の概要を説明できる。【15】【109】
第10回	⑩	⑥ 可撤式補綴装置・部分床義歯治療の概要を説明できる。【18】【145】
第11回	⑪	⑦ インプラント治療の概要を説明できる。【23】【175】
第12回	⑫	⑧ 顎顔面補綴・鼻咽腔補綴・舌接触補助床を用いる補綴治療の概要を説明できる。
第13回	⑫	【24・25】【209】
第14回	⑬	⑨ 歯科補綴治療における歯科衛生士の役割について概説できる。【26】
第15回	まとめ	⑩ 歯および歯列の形態と位置関係・咬合・咬合様式・顎運動・補綴学的基準平面などの顎口腔系の機能について概説できる。【29～37】 ⑫ 咀嚼・嚥下・構音・発語・口腔感覚・唾液・嘔吐・歯ぎしりについて概説できる。 【39～42】 ⑬ 顎関節の構造と機能・顎関節症について概説できる。【43～45】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔外科学Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／前期
			高崎校	2年次／前期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	大木晴伸	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	井田順子		
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法、治療法および口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤、器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」[医歯薬出版]			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

外科とは「手で仕事をする」が語源。ふつう外科というと手術をすること。口の中・アゴ・顔面の病気をおもに手術によって治療するのが口腔外科である。抜歯はじめ、生まれつきの奇形・交通事故・がんなどの病気を診る。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」【ページ数】
第2回	②	① 顎・口腔領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。【2～9】
第3回	③	② 先天異常(口唇・口蓋裂など)と発育異常(顎変形症など)の症状と治療法を概説できる。【19～33】
第4回	④	③ 歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法を概説できる。【34～43】
第5回	④	④ 各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる。【50～79】
第6回	⑤	⑤ 歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症(歯性感染)の原因、感染経路と症状および治療法を概説できる。【80～88】
第7回	⑥	⑥ 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法を概説できる。【89～96】
第8回	⑦	⑦ 顎・口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を概説できる。【97～108】
第9回	⑧	⑧ 顎関節疾患(脱臼、顎関節症、顎関節強直症など)の症状と治療法を概説できる。【45～49】
第10回	⑨	⑨ 唾液腺疾患(唾液腺炎、流行性耳下腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍)の症状と治療法を概説できる。【112～121】
第11回	⑩	⑩ 顎・口腔領域の神経疾患(三叉神経痛、三叉神経麻痺、顔面神経麻痺、舌痛症、オーラルディスキネジアなど)の症状を概説できる。【122～129】
第12回	⑪	⑪ 口腔に症状を現す血液疾患(貧血、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固亢進症候群[DIC]など)の特徴を概説できる。【70～74】
第13回	⑫⑬	⑫ 抜歯【234】・口腔外科小手術(消炎手術【232】、止血処置【252】、歯槽骨整形術【246】、根尖切除術【244】、嚢胞摘出術【240】・嚢胞開窓術、骨折手術【40】、口腔インプラント手術【161】)の手順を説明できる。
第14回	⑮⑯	
第15回	まとめ	

		<p>⑬ 抜歯の適応と禁忌を概説できる。【234～240】</p> <p>⑭ 抜歯・口腔外科小手術の術中・術後の局所的偶発症および術後の注意を説明できる。【220】</p> <p>⑮ 顎口腔領域の周術期（放射線治療、化学療法を含む）の口腔衛生管理を説明できる。【263～268】（診療補助論の本 p286～291・p321）</p> <p>⑯ がん手術・心臓・循環器手術や臓器移植等の手術の前後の口腔衛生管理による手術時のトラブル防止、誤嚥性肺炎や局所感染の予防方法を説明できる。【9～14】</p> <p>⑰ 清潔と不潔について概説できる。【135～136】</p> <p>⑱ 歯科診療で問題となる全身疾患について概説できる。【9～18】</p>
--	--	--

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	小児歯科学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校 2年次／前期・後期
				高崎校 2年次／後期
授業時数	30時間		単位数	2単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	小山敦	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	相馬美恵・柳澤友子		
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療に関する知識、小児歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 歯科衛生士講座「小児歯科学」[永末書店]			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて中間試験を行う。			

子どもは新しく歯が生えたり、アゴの骨が成長したり、上下の歯が伸びてきて噛み合わせができたりなど成長する点が大人とは異なる。生まれてから中学生くらいまで成長に合わせた歯科治療をおこなうのが小児歯科である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	(テキスト) 歯科衛生士テキスト「小児歯科学」【ページ数】
第3回～第4回	②③	① 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。【1～3】
第5回～第6回	④	② 小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる。【4～12】【17～40】
第7回～第8回	⑤⑥	③ 各年齢における小児の正常な心理的成長発達とその障害を説明できる。
第9回～第10回	⑦	【12～13】
第11回～第12回	⑧	④ 乳歯と幼若永久歯の解剖学的特徴を説明できる。【24～27】
第13回～第14回	⑨	⑤ 歯列および咬合の正常発育とその障害を説明できる。【41～58】
第15回～第16回	⑩⑪	⑥ 小児の歯科治療における小児の状態把握と対応ができる。【60～69】
第17回～第18回	⑫	⑦ 小児う蝕の特徴について説明できる。【70～80】
第19回～第20回	⑬	⑧ 小児の口腔外科的疾患を説明できる。【81～87】【89～98】
第21回～第22回	⑭	⑨ 診察・治療に必要な器材を準備できる。【99～112】【114～120】
第23回～第24回	⑮	⑩ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法を説明できる。【121～141】
第25回～第26回	⑯	⑪ 乳歯と幼若永久歯の歯内療法を説明できる。【142～157】
第27回～第28回	⑰⑱	⑫ 小児の歯の外傷の種類と処置法を説明できる。【158～167】【169～177】
第29回～第30回	まとめ	⑬ 咬合誘導の概念、保隙装置の種類、適応症、留意点を説明できる。【179～187】
		⑭ う蝕予防および進行抑制法を説明できる。【190～214】
		⑮ 小児の先天性疾患を説明できる。【224～237】
		⑯ 小児歯科治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。
		⑰ ラバーダム防湿ができる。【122】
		⑱ 構音機能検査の意義を説明できる。(口腔解剖・組織発生・生理学 p124)

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科矯正学Ⅰ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校 2年次／前期
				高崎校 2年次／前期
授業時数	15時間		単位数	1単位
授業方法	講義		企業等との連携	
担当教員	太田校	青山欣也	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	北山義隆		
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状、治療法、矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科矯正」[医歯薬出版] (サブテキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科機器」1年次購入済			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

正しくない状態に対して、力を加えて正しい状態にすることを矯正という。歯科矯正は、歯の大きさとあごの骨の大きさのバランスが合わない不正咬合をきちんと噛み合うようにして、きれいな歯ならびにする歯科治療である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科矯正」【ページ数】
第2回	①	(サブテキスト)「歯科機器」矯正歯科用機器 (歯科機器の本 p150～166)
第3回	②	① 顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる。【13～22】
第4回	③	② 成長発育に伴う正常咬合(乳歯列から永久歯列)を説明できる。【23～28】
第5回	④	③ 不正咬合の原因を列挙できる。【33～36】
第6回	⑤	④ 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる。【2～11】
第7回	⑥	⑤ 矯正検査記録における口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。【38～51】
第8回	⑦	⑥ 歯科矯正学的診断の概要が説明できる。【38～51】
第9回	⑧	⑦ 頭部エックス線規格写真を説明できる。【48】
第10回	⑨	⑧ 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。【53～58】
第11回	⑩	⑨ 矯正歯科用器材の種類を説明できる。【127～138】(歯科機器の本 p150～166)
第12回	⑪	⑩ 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。
第13回	⑫	⑪ 矯正装置の種類、構造および機能を説明できる。【138・139・148・150・151】
第14回	⑬	⑫ 不正咬合の種類を列挙できる。【82～89】
第15回	まとめ	⑬ 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔衛生管理法を説明できる。 【155～168】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科予防処置論Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／前期・後期
			高崎校	2年次／前期・後期
授業時数	75時間	単位数	3単位	
授業方法	講義・実習	企業等との連携		
担当教員	太田校	米岡葉月	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	吉井さか枝		
一般目標	歯・口の疾患を予防して健康状態を維持・増進させるために必要な専門的理論に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。 (1)【歯科予防処置論・総論】 歯科予防処置の目的と意義 (2)【歯周病予防処置論】 歯周病の予防 (3)【う蝕予防処置論】 う蝕の予防			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」1年次購入済			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。			

歯や口の病気を予防することは歯科衛生士としてやりがいが見えやすい仕事である。歯科の病気を予防するにはどうするのか、歯科の2大疾患である歯周病・う蝕をどうやって予防するのか？予防するための方法と技術を学ぶ。

【歯科予防処置論】2年 (主要3科目の到達目標 p112～●2年生)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	②	(※は実習予定項目)
第3回～第4回	③	(テキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」の本【ページ数】
第5回～第6回	⑥	(1)【 歯科予防処置論・総論 】
第7回～第8回	⑨	② 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。【3】
第9回～第10回	⑨	③ 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。【4】
第11回～第12回	⑪	⑥ 歯科予防処置を実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる。【64・78】
第13回～第14回	⑪	⑨ プラークの形成過程と成分を説明できる。【23】
第15回～第16回	⑭	⑪ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる。【25】【27】
第17回～第18回	⑰	(2)【 歯周病予防処置論 】
第19回～第20回	⑱	⑭ 歯周病と全身疾患との関連を説明できる。【30・277・281】
第21回～第22回	⑱	⑰ プローブの種類と操作方法を説明できる。【95】【91～99】
第23回～第24回	⑲	*⑱ プローブ操作を実施できる。【93～99】(ポケットマニュアル p112～115)
第24回～第26回	⑲	⑲ 歯周病に関連する指標(BOP・OHI・P1I・GIなど)を説明できる。【94】【126】
第25回～第28回	⑳	*⑳ キュレットタイプスケーラーを操作できる。【154】【142～153】【324】
第29回～第30回	㉑	*㉑ 超音波スケーラーを操作できる。 【161～171】(保存アシスト p42・46)(ポケットマニュアル p124～125)
第31回～第32回	㉑	⑳ 歯面清掃・歯面研磨の意義が説明できる。【174・178】
第33回～第34回	㉑	㉒ 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。【181～183】
第35回～第36回	㉓	㉓ 歯面研磨剤の種類と用途を説明できる。【175・176・326】(ポケットマニュアル p232)
第37回～第38回	㉔	*㉔ 歯面清掃ができる。【178～183】
第39回～第40回	㉔	

第 41 回～第 42 回	㉔	*㉕ 歯面研磨ができる。【174～179】【326】
第 43 回～第 44 回	㉔	㉙ 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。【309】
第 45 回～第 46 回	㉔	(3) 【う蝕予防処置論】
第 47 回～第 48 回	㉕	㉙ フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる。【191】
第 49 回～第 50 回	㉕	㉚ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる。【193～195】
第 51 回～第 52 回	㉕	54 対象年齢と洗口方法を説明できる。【197】
第 53 回～第 54 回	㉙	55 フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる。【198】
第 55 回～第 56 回	㉚	56 フッ化物配合歯磨剤の配合フッ化物の種類と特徴を説明する。【212】
第 57 回～第 58 回	㉚	57 年齢に応じた使用量を説明できる。【213】
第 59 回～第 60 回	54	58 フッ化物配合歯磨剤の使用方法を説明できる。【212】
第 61 回～第 62 回	55	
第 63 回～第 64 回	56	
第 65 回～第 66 回	57	
第 67 回～第 68 回	57	
第 69 回～第 70 回	58	
第 71 回～第 72 回	58	
第 73 回～第 74 回	まとめ	
第 75 回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科保健指導論Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	2年次/前期・後期
			高崎校	2年次/前期・後期
授業時数	45時間	単位数	2単位	
授業方法	講義・実習	企業等との連携		
担当教員	太田校	戸田恵理	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	渡木里佳		
一般目標	<p>個人・集団を対象として生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動にするために必要なプロフェッショナルケア（専門家の行う世話）・セルフケア（自分でする世話）・コミュニティケア（地域で行う世話）の基本となる知識を修得し、技術、態度を身につける。歯科保健指導は、総論はじめいくつかの分野がある。</p> <p>(1)【歯科保健指導・総論】行動変容・保健指導・食生活指導・健康管理 (2)【歯科衛生過程論】情報収集・評価・歯科衛生診断・歯科衛生介入プログラム (3)【口腔健康管理論】歯口清掃など口腔健康管理 (4)【生活習慣指導論】生活習慣病の予防 (5)【食生活指導論】ライスステージと機能障害に応じた食生活指導 (6)【口腔機能管理論】口腔機能の低下と障害に応じた機能向上 (7)【健康教育活動論】健康教育活動の場での指導</p>			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」1年次購入済			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。			

保健とは健康を守ること、あるいは健康を育てていくことである。歯科保健とは、歯や口の健康を守っていくにはどのようにすればよいのか？生涯通して健康を守る方法は何か？など健康志向にする方法と技術について学ぶ。

【歯科保健指導論】2年（主要3科目の到達目標 p114～●2年生）

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	④	(※は実習予定項目)
第3回～第4回	⑤	(テキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」の本【ページ数】
第5回～第6回	⑥	(1)【 歯科保健指導論・総論 】
第7回～第8回	⑦	④ 歯科保健指導における書面化（業務記録）の意義を説明できる。
第9回～第10回	⑧	【71・72・73・74・75・76】【345～349】
第11回～第12回	⑪	⑤ 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。【33～39】
第13回～第14回	⑫	⑥ カウンセリングの基本を説明できる。(ポケットマニュアル p14～37)
第15回～第16回	⑮	⑦ 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる。【5】【35】【38】【33～38】
第17回～第18回	⑯	⑧ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明できる。【6】
第19回～第20回	⑰	(2)【 情報収集・歯科衛生過程論 】
第21回～第22回	⑳	⑪ 医療面接として問診票について説明できる。【79】
第23回～第24回	㉑	*⑫ 医療面接の際に対象者に応じたコミュニケーションがとれる。【80～82】
第25回～第26回	㉓	⑮ 歯科衛生アセスメントを説明できる。【63～66】【70・72】【345～347】
第27回～第28回	㉔	⑯ 歯科衛生計画を説明できる。【67】【74・75】【348～349】

第 29 回～第 30 回	④③	⑳ 歯科衛生診断を説明できる。【66】【71・73・74】【348】
第 31 回～第 32 回	52	㉑ 歯科衛生介入を説明できる。【69】【75】【349】
第 33 回～第 34 回	53	㉒ 歯科衛生業務記録の意義を説明できる。【70】
第 35 回～第 36 回	54	㉓ 歯科衛生過程における評価を説明できる。【74】【76】【349】
第 37 回～第 38 回	55	(3) 【口腔健康管理論】
第 39 回～第 40 回	99	㉔ 口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。【67】
第 41 回～第 42 回	100～106	*㉕ 口臭に関する指導ができる。【87】【100】【271】
第 43 回～第 44 回	まとめ	(4) 【生活習慣指導論】
第 45 回	まとめ	52 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 53 非感染性疾患 (NCDs) の種類と特徴および口腔との関連を説明できる。 *54 対象者の生活習慣の把握ができる。 *55 非感染性疾患 (NCDs) を有する対象者の指導ができる。
		(5) 【食生活指導論】 (6) 【口腔機能管理論】 (7) 【健康教育活動論】 99 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。【329】 100 地域歯科保健事業における健康教育ができる。【331】 101 保育所、幼稚園 (乳幼児) の口腔保健の実態が把握できる。 *102 保育所、幼稚園 (乳幼児) を対象とした健康教育ができる。 *103 保育所、幼稚園の保育士、教員および保護者を対象とした健康教育ができる。 104 小学校、中学校、高校 (児童・生徒) の口腔保健の実態が把握できる。【332】 *105 小学校、中学校、高校 (児童・生徒) を対象とした健康教育ができる。 【333～337】 *106 小学校、中学校、高校の教員および保護者を対象とした健康教育ができる。

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	栄養指導学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／前期
			高崎校	2年次／前期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	井野文枝	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	井野文枝		
一般目標	人間が生命を維持するために重要な栄養、食生活、栄養指導に関する基本的知識を習得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト1) 最新歯科衛生士教本「代謝と栄養」1年次購入済 (テキスト2) 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」1年次購入済			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

人間のからだの血や肉を作り、からだを動かすエネルギーのもととなる栄養について学ぶ。食物から得られる栄養は、人間にとって不可欠である。栄養不足・栄養の取りすぎ・偏った食事は、健康を損ね、病気の原因にもなる。肥満や生活習慣病を予防するには食事に気を配ることが大切である。歯科衛生士による保健指導に栄養指導がある。

栄養指導学では食事摂取・消化や吸収のしくみ・食品に含まれる栄養素を学習する。健康な身体をつくるための栄養のとり方を含めた歯や口の健康づくりを食事面からサポートする方法を学ぶ。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①②	(テキスト1) 最新歯科衛生士教本「代謝と栄養」《ページ数》
第3回～第4回	③④	① 食生活と健康との関連を概説できる。《116》
第5回～第6回	⑤	② 食生活と口腔の健康との関連を説明できる。《117》
第7回～第8回	⑥	③ 国民健康・栄養調査を概説できる。《118》
第9回～第10回	⑦	④ 食育と食育基本法を概説できる。《188》
第11回～第12回	⑩	⑤ 栄養・食生活についてわが国の施策を概説できる。《184》
第13回～第14回	⑩	⑥ 食生活指針および食事バランスガイドを説明できる。《185》
第15回～第16回	⑩	⑦ ライフステージ別の食生活の特徴を説明できる。《195》
第17回～第18回	⑧⑨	
第19回～第20回	⑩⑪⑫	(テキスト2) 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」【ページ数】
第21回～第22回	⑬⑭	⑧ 栄養指導法における食生活・食習慣の背景を説明できる。【229】
第23回～第24回	⑮⑯⑰⑱	⑨ 健康を維持するための栄養情報を説明できる。【55】
第25回～第26回	⑲⑳㉑	⑩ 食品とう蝕の関連性を説明できる。【44】【98】
第27回～第28回	㉒㉓	⑪ 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。【54】【350】【351】
第29回～第30回	まとめ	⑫ う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。【231】
		⑬ 咀嚼の働きを説明できる。《199》【55】
		⑭ 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。【229】【242】
		⑮ 栄養状態を把握し問題点を評価できる。【230】
		⑯ 食支援のための介入計画が立案できる。【230】
		⑰ 食支援に必要な歯科衛生介入ができる。【231】
		⑱ 食生活改善の取組みとして口腔衛生と口腔機能の関連を説明できる。【229】
⑲ 食生活指導介入のための書面化（業務記録）ができる。【345】【345～349】		

		<p>⑩ 各ライフステージ別の食生活指導ができる。《195》【245】【246】【252】【261】 【265】【272】【279】</p> <p>⑪ 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。【286】</p> <p>⑫ 障害児者、要介護者の食事介助の指導ができる。【296】【292】</p> <p>⑬ 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。《200》【293】</p>
--	--	--

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科診療補助論Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	2年次／前期・後期
			高崎校	2年次／前期・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	町田美穂	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	皆川香		
一般目標	<p>さまざまなライフステージ（人の一生における年齢による段階）における専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療補助論は、総論はじめいくつかの分野に分かれる。 ・ 歯科臨床各科の診療補助論では各科における歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。 ・ 高齢者・障害児者歯科治療の補助では摂食嚥下の検査および訓練法を習得する。 ・ エックス線写真撮影時の補助では必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。 ・ 救命救急処置では必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。 <p>(1)【歯科診療補助論・総論】 (2)【保存診療時の診療補助論】 (3)【補綴診療時の診療補助論】 (4)【口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助論】。 (5)【矯正歯科診療時の診療補助論】 (6)【小児歯科診療時の診療補助論】 (7)【高齢者診療時の診療補助論】 (8)【障害児者診療時の診療補助論】 (9)【エックス線写真撮影療時の診療補助論】 (10)【救命救急処置時の診療補助論】</p>			
使用教材・教具	<p>(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」1年次購入済 (サブテキスト1) 最新歯科衛生士教本「歯科機器」1年次購入済 ・・・矯正治療器具・補綴治療機器・外科手術器具など写真や図説で確認すること。 (サブテキスト2) 歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック (サブテキスト3) 歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック</p>			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。			

歯科診療の補助とは、歯科医師の指示のもとに行う直接に患者への対面行為である医療行為である。歯科診療の際に歯や口など口腔領域に直接触れる医療行為は歯科衛生士の資格が必要となる行為である。

【歯科診療補助論】2年（主要3科目の到達目標 p118～●2年生）

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	<p>(※は実習予定項目)</p> <p>(1)【歯科診療補助論・総論】1年 (2)【保存治療時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】 ⑳ 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。【99】</p>
第2回	⑳	
第3回	㉑	
第4回	㉒	

第5回	④⑩	*③⑧ ラバーダム防湿ができる。
第6回	④⑪	【99～105】【186】(歯科機器 p92) (保存アシスト p19～21・24～25)
第7回	④⑫	*③⑨ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。【113】(保存アシスト p17～18)
第8回	④⑬	*④⑩ 歯肉排除法に用いる器材の操作ができる。
第9回	④⑭	【106～108】(補綴アシスト p17) (歯科機器 p118～120)
第10回	④⑮	*④⑪ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。【112】(保存アシスト p8・12)
第11回	④⑯	④⑫ 窩洞形成における切削用器械、器具の準備ができる。
第12回	④⑰	【113】(保存アシスト p23) (歯科機器 p77～85) (ポケットマニュアル p98～105)
第13回	④⑱	④⑬ 直接修復であるコンポジットレジン修復の手順を説明できる。
第14回	④⑲	【112～114】(歯科機器 p86～91) (ポケットマニュアル p144～147)
第15回	⑤①	④⑭ コンポジットレジン修復における歯面処理材料の準備ができる。
第16回	51	【113】【237】(保存アシスト p2～16)
第17回	52	④⑮ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。
第18回	53	【112～114】(歯科材料 p90～93・p96～104)
第19回	54	④⑯ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。【238～239】
第20回	55	④⑰ 歯の漂白法の器材・薬剤の準備ができる。【121】(歯科材料 p155～156)
第21回	56	④⑱ 歯の漂白後の術後指導の内容を説明できる。【122】
第22回	57	④⑲ 歯髄処置の手順を説明できる。
第23回	58	【125～128】(保存アシスト p22～33) (ポケットマニュアル p148～161)
第24回	59	⑤② 歯髄処置の薬剤や器材の準備ができる。【127・128】(ポケットマニュアル p218～219)
第25回	64～66	51 電気歯髄診断器の準備ができる。(補綴アシスト p3) (歯科機器の本 p68)
第26回	67	52 根管処置の薬剤や器材の準備ができる。
第27回	85～86	【125～128】(保存アシスト p31) (歯科機器 p92～102)
第28回	87	53 根管長測定器の準備ができる。【130】(保存アシスト p27) (歯科機器 p67)
第29回	88～90	54 根管充填の薬剤や器材の準備ができる。
第30回	まとめ	【129～132】(歯科機器の本 p100～102) (保存アシスト p34～35)
		55 外科的歯内療法の器材の準備ができる。
		56 歯周外科治療の手順を説明できる。【133～137】(保存アシスト p66～69)
		57 歯周外科治療の薬剤や器具の準備ができる。(ポケットマニュアル p126～129)
		【135・136・137】(保存アシスト p52～58・54・72・73) (歯科機器 p106～110)
		*58 歯周用パックの取り扱いができる。
		【137】(歯科材料 p152～155) (保存アシスト p74) (ポケットマニュアル p132・p232)
		59 暫間固定について説明できる。(保存アシスト p50～51)
		(3) 【補綴治療時の診療補助】
		64 咬合採得(顎間関係の記録)の手順を説明できる。
		【141】(補綴アシスト p9・48～52) (歯科機器の本 p125～132)
		65 咬合採得(顎間関係の記録)で用いる器材の準備ができる。【141】
		66 咬合床作製の手順・咬合床用材料の性質を説明できる。(補綴アシスト p48)
		67 歯冠補綴物の合着・接着について説明できる。(補綴アシスト p25～32)
		(4) 【口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助】
		85 縫合用器材の種類を説明できる。(歯科機器の本 p140～143)
		【160】(保存アシスト p70～71) (歯科機器 p140～143) (ポケットマニュアル p130～131)

		<p>86 縫合用器材の準備と取り扱いができる。 (歯科機器 p141～143) (ホケットマニュアル p130～131)</p> <p>87 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。 【161～164】(保存アシスト p48～49) (補綴アシスト p4～5) (ホケットマニュアル p90～96)</p> <p>88 精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。 【165～168】(歯科機器 p147～149)</p> <p>89 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助ができる。 【168～172】(歯科機器 p56～60)</p> <p>90 顎口腔領域の周術期(放射線治療、化学療法を含む)の口腔衛生管理を説明できる。 【149】(歯科診療補助論の本 p286～291・p321)</p> <p>(5)【矯正歯科治療の診療補助】3年</p> <p>(6)【小児歯科治療時の診療補助】3年</p> <p>(7)【高齢者歯科治療時の診療補助】3年</p> <p>(8)【障害児者歯科治療時の診療補助】3年</p> <p>(9)【エックス線写真撮影時の診療補助】1年</p> <p>(10)【救命救急処置】3年</p>
--	--	---

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	障害者歯科学		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	2年次／前期
				高崎校	2年次／前期
授業時数	30時間		単位数	2単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	下山和弘	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	稲川元明			
一般目標	歯科衛生業務に必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療の概要、障害児者歯科治療の補助に必要な患者対応、摂食嚥下の検査および訓練法に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「障害者歯科」[医歯薬出版]				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

日常生活、または社会生活に相当な制限を受けるものを障害児者という。障害に対してコミュニケーション方法・姿勢の保持・診療内容・保健指導・リハビリの訓練など特別な対応や配慮が必要となる。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「障害者歯科」【ページ数】
第3回～第4回	②	① 障害の概念が説明できる。【1～2】
第5回～第6回	③	② 障害の種類・歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる。【3～】
第7回～第8回	④	③ 障害児者の歯科治療を説明できる。【134～】
第9回～第10回	⑤	④ 障害児者歯科における医療安全を説明できる。【100～107】
第11回～第12回	⑥	⑤ 障害児者の保健・医療・福祉制度を説明できる。【10～12】
第13回～第14回	⑦	⑥ 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。【109～132】
第15回～第16回	⑧	⑦ 障害児者の状態把握と対応ができる。【13～50】
第17回～第18回	⑨	⑧ 治療前の導入法を説明できる。【51】
第19回～第20回	⑩	⑨ 治療中時の患者コントロール法を説明できる。【51～76】
第21回～第22回	⑪	⑩ 外来診療と訪問診療の補助を説明できる。【145～146】
第23回～第24回	⑫	⑪ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。【134～133】
第25回～第26回	⑬	⑫ 口腔衛生管理の概要が説明できる。【78～98】【142～144】
第27回～第28回	まとめ	⑬ 摂食嚥下障害への対応ができる。【109～132】
第29回～第30回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床・臨地実習Ⅱ	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	2年次／前期・後期
授業時数	360時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	各実習施設の指導教官	実務経験のある教員科目	該当
一般目標	歯科医院・病院など歯科臨床の場、保健センター・高齢者施設・保育園など地域保健の場を通して、歯科衛生士として業務を行うために必要な知識を習得し、技術及び態度を身につける。		
使用教材・教具	(配布資料) 臨地・臨床実習ノート (サブテキスト) 新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル		
成績評価の方法・基準	各実習施設の指導教官の評価をもとに出欠状況・遅刻早退状況・実習態度・実習業務・レポートに関する理解力・実践力について総合的に評価する。 但し歯科衛生士国家試験受験資格に必修の所定時間に満たない場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	実習は原則として指定された臨床・臨地実習施設にて校外実習とする。 実習にあたっては、施設長、指導教官、歯科医師、歯科衛生士の指示の下に行う。 貴重な実習時間であることを自覚し、責任をもって臨むこと。 実習先は校外であり、髪型・清潔感・服装・ハキハキした挨拶・遅刻しない・健康管理・分からないことは尋ねる・敬語など社会人としてビジネスマナーも求められる。		

授業回数	授業予定	○ 到達目標
全 360 時間共通	校外実習	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設等のルール・診療室のルールを理解した行動ができる。 ② 安全管理・医療安全管理に配慮した行動ができる。 ③ 感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる。 ④ 歯科医師・歯科衛生士・施設職員等からの指示内容を踏まえた対応ができる。 ⑤ 多職種スタッフと協働し、共同動作、連携のとれた対象者へのサービスができる。 ⑥ プライバシーを配慮した態度で応接できる。 ⑦ 対象者の守秘義務を遵守できる。 ⑧ 対象者からのニーズを理解した対応ができる。 ⑨ 対象者に応じて配慮した対応ができる。 ⑩ 器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる。 ⑪ 対象者のデータ資料の管理方法を理解した行動ができる。 ⑫ 対象者からのニーズや相談内容を判断し、対象者に応じた対応ができる。 ⑬ 歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる。 ⑭ 対象者に応じた保健管理指導ができる。 ⑮ 集団を対象に健康教育が実践できる。

齒科衛生士学科

3 年

科目名	歯科医療倫理学		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	3年次/後期
			高崎校	3年次/後期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	村田隆子	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	村田隆子		
一般目標	<p>【歯科医療倫理】倫理問題に配慮して医療、歯科医療、研究を行うために、生命と医療に関わる倫理の重要性を理解する。</p> <p>【歯科衛生過程】歯科衛生業務の遂行に必要な対象者の情報収集・評価し、歯科衛生診断をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。</p>			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」1年次購入済 (サブテキスト) よくわかる歯科衛生過程			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

「そうすべき」「そうしてはいけない」など「物事の善悪を考え、正しく行動するための基準」は道徳。
「そうしたい」「そうしたくない」など「物事の善悪を考え、正しく行動するための**守るべき道**」が倫理。
「倫」は人の輪・仲間 + 「理」は物事の筋道 = 「倫理」は、人間としての在り方・生き方といえる。
「医療倫理」は、「医療の恩恵を受けて無害である」・「患者自身の意思決定を尊重する」・「患者にとって有益であり人生を充実させる」・「患者に対して公平で誠実な対応」など患者に接する際の医療人としての在り方といえる。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	※テキストの中からセレクトしてレクチャーする。
第2回	②	【歯科医療倫理】最新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」【ページ数】
第3回	③	① 生命の尊厳【66】、患者の権利【68】を説明できる。
第4回	④	② 臨床、研究、情報に関わる倫理的問題を説明できる。【67】
第5回	⑤	③ 生命倫理・医の倫理に関する規範・歴史経過を概説できる。【67・68・99】
第6回	⑥	④ 延命治療と尊厳死に関わる患者の自己決定権を概説できる。【71】
第7回	⑦	⑤ インフォームド・コンセント、セカンドオピニオン、EBMを説明できる。
第8回	⑧	【73・75】
第9回	⑨	【歯科衛生過程】よくわかる歯科衛生過程《ページ数》
第10回	⑩	⑥ 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。【32】《2～10》
第11回	⑪	⑦ 歯科衛生過程を概説できる。【34】《12～18》
第12回	⑫	⑧ 歯科衛生アセスメントを説明できる。【37】《19》
第13回	⑬	⑨ 歯科衛生診断を説明できる。【37】《28》
第14回	⑭	⑩ 歯科衛生計画・立案を説明できる。【37】《33》
第15回	まとめ	⑪ 歯科衛生介入を説明できる。【39】《38》 ⑫ 歯科衛生過程における評価を説明できる。【38】《40》 ⑬ 歯科衛生業務記録の意義を説明でき、歯科衛生過程において書面化（記録）できる。《43》

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科矯正学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次／学期	太田校	3年次／前期
				高崎校	3年次／後期
授業時数	15時間		単位数	1単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	青山欣也	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	北山義隆			
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状、治療法、矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科矯正」2年次購入済				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

正しくない状態に対して、力を加えて正しい状態にすることを矯正という。歯科矯正は、歯の大きさとあごの骨の大きさのバランスが合わない不正咬合をきちんと噛み合うようにして、きれいな歯ならびにする歯科治療である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科矯正」【ページ数】
第2回	②	① 先天性疾患・顎変形症による矯正治療を説明できる。【96～104】【117～118】
第3回	③	② 歯の埋伏・歯数の異常による矯正治療を説明できる。【105～112】
第4回	③	③ 矯正装置装着後の指導ができる。
第5回	④	【113～116】【138・139・148・150～154】【168～172】
第6回	④	④ 矯正検査記録における口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。【120～121】
第7回	⑤	⑤ 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。【120】【48～50】
第8回	⑥	⑥ 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。【122】
第9回	⑦	⑦ 矯正歯科用器材の取り扱いを説明できる。
第10回	⑧	【127～138】【182～188】(歯科機器の本 p150～166)
第11回	⑨	⑧ ワイヤーの種類・用途・取り扱いが説明できる。【133～134】【144～146】
第12回	⑩	⑨ ブラケットの種類・用途・取り扱いを説明できる。【135～136】
第13回	⑪	⑩ 接着材の種類・用途・取り扱いを説明できる。【139～144】
第14回	⑫	⑪ 結紮の方法を説明できる。【144～146】
第15回	まとめ	⑫ 矯正装置の撤去に必要な器具の種類・取り扱いを説明できる。【146～148】 ⑬ 帯環(バンド)の種類・取り扱いを説明できる。【148】 ⑭ 矯正装置装着時の口腔衛生・歯面清掃ができる。【155～168】 ⑮ 口腔筋機能療法(MFT)について説明できる。【173～181】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科補綴学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	3年次／前期
			高崎校	3年次／後期
授業時数	15時間	単位数	1単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	大石和彦	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	金井孝行		
一般目標	補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」2年次購入済 (サブテキスト) 歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

身体の欠損した部位の形態と機能を人工物で補うことを補綴という。歯科補綴は、歯が欠けたり抜けたりした場合に入れ歯・かぶせの歯などの人工物で補うこと。見た目のかたちを補うだけでなく食べる機能も回復する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」【ページ数】
第2回	②	① 歯列・咬合、下顎運動、筋機能、咀嚼機能検査の意義を説明できる。 【66～75・144～147】
第3回	③④	
第4回	⑤⑥	② 固定性義歯補綴の治療法の概要・治療の流れを説明できる。【76～85・148～160】
第5回	⑦⑧	③ 全部床義歯補綴の治療法の概要・治療の流れを説明できる。【86・92～100・161】
第6回	⑨⑩	④ 部分床義歯補綴の治療法の概要・治療の流れを説明できる。【86・101～103】
第7回	⑪⑫	⑤ インプラント義歯補綴の治療法の概要・治療の流れを説明できる。【104～113】
第8回	⑬	⑥ 補綴治療時における各種検査の手順を説明できる。【67・69・71】
第9回	⑭	⑦ 補綴治療時における各種検査で用いる器材の準備ができる。
第10回	⑮	⑤ 歯冠・欠損補綴における印象採得の手順を説明できる。【151・163・168】
第11回	⑮	⑨ 歯冠・欠損補綴における印象採得で用いる器材の準備ができる。【121～124】
第12回	⑮	⑩ 歯冠・欠損補綴における咬合採得(顎間関係の記録)の手順を説明できる。【164】
第13回	⑯	<フェイスボー・ゴシックアーチ・チェックバイト>
第14回	⑰	⑪ 歯冠・欠損補綴における咬合採得で用いる器材の準備ができる。【125～133】
第15回	まとめ	⑫ 咬合床用材料の性質・咬合床作製の手順を説明できる。【126】【138】
		⑬ プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン、ブリッジ] の作製手順・調整方法を説明できる。【148・153】
		⑭ クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる。【176】
		⑮ 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。【166・172】
		⑯ 各種補綴物の装着後の患者指導ができる。【175～193】
		⑰ 補綴装置の補修について説明できる。【141】
		⑰ 特殊な補綴装置の概要について説明できる。
		⑰ 補綴関連検査にて概説できる。【164】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	口腔外科学Ⅱ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校
				高崎校
授業時数	15 時間	単位数	1 単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	大木晴伸	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	井田順子		
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法、治療法、口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」2 年次購入済			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が 70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。			

外科とは「手で仕事をする」が語源。ふつう外科というと手術をすること。口の中・アゴ・顔面の病気をおもに手術によって治療するのが口腔外科である。抜歯はじめ、生まれつきの奇形・交通事故・がんなどの病気を診る。手術に際して痛みを制御するのが麻酔である。手術に応じた各種の麻酔法についても勉強する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」【ページ数】
第 2 回	②	① 抜歯・口腔外科小手術に際して手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。【130～136】
第 3 回	③	
第 4 回	④⑤	② 抜歯用器材の準備と取り扱い・抜歯後の注意ができる。【141～151・234～240】
第 5 回	⑥⑦⑧	③ 各種小手術に用いる器材の準備と取り扱いができる。【136～138・152～163】
第 6 回	⑨⑩	④ 小手術後の注意を説明できる。【234・239・242・247・248・250・253・257】
第 7 回	⑪	⑤ 止血法・止血薬の種類の説明、止血薬の取り扱いができる。
第 8 回	⑫	【163～167】(ポケットマニュアル p226)
第 9 回	⑬	⑥ 縫合用器材の種類を説明と器材の準備と取り扱いができる。
第 10 回	⑬	【168～172】(ポケットマニュアル p130～131)
第 11 回	⑭	⑦ 麻酔の目的を説明できる。【174～175】
第 12 回	⑮	⑧ 術前・術中・術後管理における バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度 [SpO ₂] を説明できる。【175～184】 【218～222】 【223～225】
第 13 回	⑯	⑨ 局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる。【185～186】 【225～228】
第 14 回	⑰	⑩ 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。【187～193】
第 15 回	まとめ	⑪ 精神鎮静法の適応症と種類、精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。【194～199】 【229～234】
		⑫ 全身麻酔の適応症・種類・器材・薬剤の準備と補助ができる。【200～205】
		⑬ 歯科治療時の全身的偶発症(神経性ショック 【206】、過換気症候群 【206】、アナフィラキシーショック 【207】) とその対応を説明できる。【206～215】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科予防処置論Ⅲ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	3年次／前期・後期
			高崎校	3年次／前期・後期
授業時数	75時間	単位数	3単位	
授業方法	講義・実習	企業等との連携		
担当教員	太田校	米岡葉月	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	吉井さか枝		
一般目標	歯・口の疾患を予防して健康状態を維持・増進させるために必要な専門的理論に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。 (1)【歯科予防処置論・総論】歯科予防処置の目的と意義 (2)【歯周病予防処置論】歯周病の予防 (3)【う蝕予防処置論】う蝕の予防			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」1年次購入済 (サブテキスト1) 最新歯科衛生士教本「歯周病学」1年次購入済 (サブテキスト2) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」1年次購入済			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。			

歯や口の病気を予防することは歯科衛生士としてやりがいが見えやすい仕事である。歯科の病気を予防するにはどうするのか、歯科の2大疾患である歯周病・う蝕をどうやって予防するのか？予防するための方法と技術を学ぶ。

【歯科予防処置論】3年 (主要3科目の到達目標 p112～■3年生)

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	はじめに	(※は実習予定項目)
第3回～第4回	⑮	(テキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」の本【ページ数】
第5回～第6回	⑯	(サブテキスト1) 最新歯科衛生士教本「歯周病学」(歯周病学の本 p ページ数)
第7回～第8回	⑲	(1)【歯科予防処置論・総論】
第9回～第10回	⑲	(2)【歯周病予防処置論】
第11回～第12回	⑲	⑮ 歯周病のリスクファクターについて説明できる。
第13回～第14回	⑳	(歯周病学の本 p145～158) (歯周病学の本 p28～36・p37～39)
第15回～第16回	⑳	⑯ 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。【82】【351】
第17回～第18回	㉑	*⑲ エアースケーラーを操作できる。
第19回～第20回	㉑	【171～174】(歯周病学の本 p162)
第21回～第22回	㉒	*⑳ シャーピングができる。【155～161】
第23回～第24回	㉓	㉑ SPT (歯周病安定期治療) の目的を説明できる。(歯周病学の本 p129)
第24回～第26回	㉓	㉒ SPT (歯周病安定期治療) の処置内容を説明できる。(歯周病学の本 p131)
第25回～第28回	㉔	㉓ SPT (歯周病安定期治療) 実施時の注意点を説明できる(歯周病学の本 p132)
第29回～第30回	㉔	㉒ メインテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。
第31回～第32回	㉕	【314】(歯周病学の本 p128)
第33回～第34回	㉕	㉑ 歯周病のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる。
第35回～第36回	㉕	【314】(歯周病学の本 p130)
第37回～第38回	㉖	(3)【う蝕予防処置論】

第 39 回～第 40 回	④⑦	④⑥ う蝕活動性試験を実施できる。【119～126】（保健生態学の本 p146～148）
第 41 回～第 42 回	51	④⑦ 対象者のう蝕活動性を評価して、う蝕予防プログラムを立案できる。【9・300】
第 43 回～第 44 回	51	*51 フッ化物歯面塗布を実施できる。【193～195】
第 45 回～第 46 回	51	52 フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。【195】【184～189】
第 47 回～第 48 回	51	53 フッ化物洗口法使用薬剤の種類、濃度および取り扱い方法を説明できる。
第 49 回～第 50 回	52	【196】（ポケットマニュアル p220）
第 51 回～第 52 回	53	59 小窩裂溝充填材の種類と特徴を説明できる。【200】
第 53 回～第 54 回	53	60 小窩裂溝充填の適応歯を説明できる。【200】
第 55 回～第 56 回	59	61 小窩裂溝充填の術式を説明できる。【201～204】
第 57 回～第 58 回	60	*62 小窩裂溝充填を実施できる。【321】【201～204】
第 59 回～第 60 回	61	63 小窩裂溝充填実施上の注意点を説明できる。【204～205】
第 61 回～第 62 回	62	64 う蝕予防処置におけるメンテナンスの目的を説明できる。
第 63 回～第 64 回	62	65 う蝕予防メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。
第 65 回～第 66 回	62	66 う蝕のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。
第 67 回～第 68 回	63	（保健生態学の本 p148）
第 69 回～第 70 回	64	
第 71 回～第 72 回	65	
第 73 回～第 74 回	66	
第 75 回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科保健指導論Ⅲ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校
				高崎校
授業時数	75 時間		単位数	3 単位
授業方法	講義・実習		企業等との連携	
担当教員	太田校	戸田恵理	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	渡木里佳		
一般目標	<p>個人・集団を対象として生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動にするために必要なプロフェッショナルケア（専門家の行う世話）・セルフケア（自分でする世話）・コミュニティケア（地域で行う世話）の基本となる知識を修得し、技術、態度を身につける。歯科保健指導は、総論はじめいくつかの分野がある。</p> <p>(1)【歯科保健指導・総論】行動変容・保健指導・食生活指導・健康管理 (2)【歯科衛生過程論】情報収集・評価・歯科衛生診断・歯科衛生介入プログラム (3)【口腔健康管理論】歯口清掃など口腔健康管理 (4)【生活習慣指導論】生活習慣病の予防 (5)【食生活指導論】ライスステージと機能障害に応じた食生活指導 (6)【口腔機能管理論】口腔機能の低下と障害に応じた機能向上 (7)【健康教育活動論】健康教育活動の場での指導</p>			
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」1年次購入済 (サブテキスト) よくわかる歯科衛生過程 (サブテキスト) 口腔機能へのアプローチ			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。			

保健とは健康を守ること、あるいは健康を育てていくことである。歯科保健とは、歯や口の健康を守っていくにはどのようにすればよいのか？生涯通して健康を守る方法は何か？など健康志向にする方法と技術について学ぶ。

【歯科保健指導論】3年（主要3科目の到達目標 p114～■3年生）

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	*は実習予定項目) (テキスト)「歯科予防処置論・歯科保健指導論」の本【ページ数】 (1)【歯科保健指導論・総論】 (2)【情報収集・歯科衛生過程論】 ⑩ 情報収集として認知状態・精神状態を把握できる。【64】 ⑪ 情報収集として虐待の種類を説明できる。【64】 ⑫ 情報収集として服薬の把握ができる。【64】【79】 ⑬ 情報収集としてストレスの評価ができる。【64・65】 ⑭ 生活機能の把握として対象者の生活習慣と生活環境を把握できる。【64】 ⑮ 生活機能の把握として対象者の日常生活動作を把握できる。 *⑰ 歯・口腔状態の把握として歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる。【82】 歯【82】 歯肉【84】
第2回	⑩	
第3回	⑪	
第4回	⑫	
第5回	⑬	
第6回	⑮	
第7回	⑰	
第8回	⑰	
第9回	⑰	
第10回	⑰	
第11回	⑱	
第12回	⑱	
第13回	⑱	

第 14 回	①9	舌【86】
第 15 回	①9	口腔粘膜・唾液【87】
第 16 回	②0	歯面付着物【89】
第 17 回	④4	歯周ポケット【93】
第 18 回	④7	動揺度【99】
第 19 回	④8	口臭【100】
第 20 回	④9	*①8 口腔清掃状態の指標を基に検査できる。【101】
第 21 回	⑤0	*①9 口腔機能のスクリーニングテストができる。
第 22 回	⑤0	②0 虐待の歯科的特徴を説明できる。
第 23 回	⑤0	(3)【口腔健康管理論】
第 24 回	51	*④4 口腔乾燥に関する指導ができる。【18】【87】【284】
第 25 回	56	*④7 特別配慮を要する妊産婦に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。【244】
第 26 回	57	*④8 特別配慮を要する全身疾患患者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。
第 27 回	58	*④9 特別配慮を要する障害児者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。
第 28 回	59	【296】
第 29 回	60	*⑤0 特別配慮を要する要介護者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。
第 30 回	60	【290～292】
第 31 回	61	*51 特別配慮を要する大規模災害被災者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。(保健生態学の本 p317～324)
第 32 回	62	(4)【生活習慣指導論】
第 33 回	63	56 生活習慣指導において対象者のストレスマネジメントができる。
第 34 回	64	*57 非感染性疾患 (NCDs) の症例に合わせた歯科保健指導が説明できる。
第 35 回	65	*58 対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる。
第 36 回	66	*59 配慮を要する対象者の生活習慣指導ができる。
第 37 回	66	60 禁煙指導と支援ができる。【231～235】
第 38 回	67	(5)【食生活指導論】(栄養指導学でも学習する)
第 39 回	68	61 食生活・食習慣の背景を説明できる。【39～44】
第 40 回	68	62 健康を維持するための栄養情報を説明できる。【40】
第 41 回	69	63 食品とう蝕の関連性を説明できる。【44～53】【231】
第 42 回	70	64 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。【56】【229】
第 43 回	70	65 う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。【54】
第 44 回	71	66 咀嚼の働きを説明できる。【55～58】
第 45 回	72	67 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。【57】
第 46 回	79	*68 食生活指導に際して栄養状態を把握し問題点を評価できる。
第 47 回	80	【230～231】(栄養と代謝の本 p117～119・p133～139)
第 48 回	82	69 食支援のための介入計画が立案できる。【75】
第 49 回	82	*70 食支援に必要な歯科衛生介入ができる。【73】
第 50 回	83	71 食生活改善の取組みとして口腔衛生と口腔機能の関連を説明できる。【229】
第 51 回	83	72 食生活指導介入のための書面化(業務記録)ができる。【70～76】【345～349】
第 52 回	83	(6)【口腔機能管理論】
第 53 回	84	79 口腔機能リハビリテーションを概説できる。【337～344】
第 54 回	84	

第 55 回	85	80 口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる。
第 56 回	85	81 チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携の在り方を説明できる。
第 57 回	85	*82 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。
第 58 回	86	【283～284】（歯科診療補助論の本 p319・320・321）
第 59 回	87	*83 対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる。
第 60 回	87	【293】【18～20】（歯科診療補助論の本 p322）
第 61 回	87	*84 対象者の歯科治療の要否を概説できる。
第 62 回	88	*85 機能障害の対応として口腔機能訓練ができる。
第 63 回	88	86 食事指導・支援や摂食介助ができる。【296～297】
第 64 回	88	*87 専門的口腔ケアができる。【296】
第 65 回	88	*88 各ライフステージ別の口腔機能管理と指導ができる。
第 66 回	88	妊産婦期 【241】
第 67 回	88	新生児・乳児期 【249・255】、
第 68 回	88	幼児期 【258】
第 69 回	88	学齢期 【263】
第 70 回	88	青年期 【271】
第 71 回	89	成人期 【276】
第 72 回	107	老年期 【282】
第 73 回	108	要介護高齢者 【289・291・293】
第 74 回	109	障害者 【295】
第 75 回	まとめ	*89 配慮を有する人への口腔機能管理と指導ができる。（障害者歯科・高齢 s） (7) 【健康教育活動論】 107 事業所（労働者）の口腔保健の実態が把握できる。 *108 事業所の従業者・衛生管理者を対象とした健康教育ができる。 *109 要介護者の家族・介護者・施設職員の健康教育ができる。【337～344】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	栄養指導学Ⅲ (生化学)		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次 / 学期	太田校	3年次 / 後期
				高崎校	3年次 / 後期
授業時数	15 時間		単位数	1 単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	三輪明	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	三輪明			
一般目標	栄養指導学Ⅲ【生化学・口腔生化学】 栄養指導の基礎となる人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、 人体の代謝と機能に関する基本的知識を修得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「代謝と栄養」1年次購入済				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

食べたものは消化され吸収され身体に取り込まれる。さらに分解されて身体の血や肉、エネルギーになる。体内でのエネルギーはATPである。心臓が動くのも脳で感じるのもATPのエネルギーで細胞が働く。栄養がどんな分子でできていて、どんな化学反応が起きてエネルギーを作るのかなどを勉強するのが生化学である。

また、歯・歯周組織・プラークなどがどんな分子でできているかなどを学ぶのが口腔生化学である。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	①②	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「代謝と栄養」《ページ数》 【生化学】 ① 生体の構成要素として細胞の役割を説明できる。《6》 ② 生体の反応に必要な水の働きを説明できる。《9》 ③ 生体構成成分と栄養素の種類および作用を説明できる。《12》 ④ 栄養素の消化と吸収を説明できる。《23》 ⑤ 酸素の運搬と二酸化炭素の排出を説明できる。《25》 ⑥ 細胞内での代謝(エネルギー代謝、分解、合成)を説明できる。《26》 ⑦ エネルギー代謝を説明できる。《29》 ⑧ 糖質の代謝を説明できる。《30》 ⑨ 脂質の代謝を説明できる。《36》 ⑩ タンパク質の代謝を説明できる。《38》 ⑪ アミノ酸からタンパク質が合成される過程を説明できる。《40》 ⑫ 主要な酵素の種類と作用を説明できる。《26》 ⑬ 生体の恒常性(ホメオスタシス)を、血液の緩衝能と血糖値の調節で概説できる。《44》 ⑭ 恒常性を保つ仕組みのホルモン系と自律神経系を概説できる。 (解剖学の本 p227~233・p165~170) 【口腔生化学】 ⑮ 歯と歯周組織における結合組織の組成と機能を説明できる。《50》 ⑯ 主な細胞外マトリックスの構造と機能、合成と分解を説明できる。《56》 ⑰ ヒドロキシアパタイトなどを含む歯の無機成分を説明できる。《57》
第2回	③④	
第3回	⑤⑥	
第4回	⑦⑧	
第5回	⑨⑩	
第6回	⑪⑫	
第7回	⑬⑭	
第8回	⑮⑯	
第9回	⑰⑱	
第10回	⑲⑳	
第11回	㉑㉒	
第12回	㉓㉔㉕	
第13回	㉖	
第14回	㉗	
第15回	まとめ	

		<ul style="list-style-type: none"> ⑱ 歯の有機成分を説明できる。《61》 ⑲ 血清中のカルシウムとリン酸の濃度を説明できる。《65》 ⑳ 歯と骨の石灰化の仕組みを概説できる。《66》 ㉑ 血清カルシウム調節を説明できる。《73》 ㉒ 歯の脱灰と再石灰化を説明できる。《76》 ㉓ 唾液中の無機質と有機質の種類を列挙できる。《81》 ㉔ 唾液中の無機質の作用を説明できる。《82》 ㉕ 唾液中の有機質の作用を説明できる。《85》 ㉖ う蝕におけるプラークの関わりを説明できる。《90》 ㉗ 歯周疾患におけるプラークの関わりを説明できる。《105》
--	--	--

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	歯科診療補助論Ⅲ		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	太田校	3年次／前期・後期
			高崎校	3年次／前期・後期
授業時数	75時間	単位数	3単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	町田美穂	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	皆川香		
一般目標	<p>さまざまなライフステージ（人の一生における年齢による段階）における専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療補助論は、総論はじめいくつかの分野に分かれる。 ・ 歯科臨床各科の診療補助論では各科における歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。 ・ 高齢者・障害児者歯科治療の補助では摂食嚥下の検査および訓練法を習得する。 ・ エックス線写真撮影時の補助では必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。 ・ 救命救急処置では必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。 <p>(1) 【歯科診療補助論・総論】 (2) 【保存診療時の診療補助論】 (3) 【補綴診療時の診療補助論】 (4) 【口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助論】。 (5) 【矯正歯科診療時の診療補助論】 (6) 【小児歯科診療時の診療補助論】 (7) 【高齢者診療時の診療補助論】 (8) 【障害児者診療時の診療補助論】 (9) 【エックス線写真撮影療時の診療補助論】 (10) 【救命救急処置時の診療補助論】</p>			
使用教材・教具	<p>(テキスト) 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」1年次購入済 (サブテキスト1) 歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック (サブテキスト2) 歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック (サブテキスト3) 最新歯科衛生士教本「歯科機器」の本・・・特に矯正・補綴・口腔外科などの機器を写真でよく確認しておくこと。</p>			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本として実習も行う。必要に応じて中間試験、実習試験を行う。			

歯科診療の補助とは、歯科医師の指示のもとに行う直接に患者への対面行為である医療行為である。歯科診療の際に歯や口など口腔領域に直接触れる医療行為は歯科衛生士の資格が必要となる行為である。

【歯科診療補助論】3年（主要3科目の到達目標 p118～■3年生）

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回	はじめに	(*は実習予定項目)
第2回	68	(1) 【歯科診療補助論・総論】1年
第3回	68	(2) 【保存治療時の診療補助】2年
第4回	68	(3) 【補綴治療時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

第5回	68	68 プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン、ブリッジ] の作製手順を説明できる。【145】(補綴アシスト p15)
第6回	69	
第7回	70	69 プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン、ブリッジ] の調整方法を説明できる。【145】
第8回	71	
第9回	72	70 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。【142～143】
第10回	73	71 クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる。【147】(歯科機器 p120～123)(歯科材料 p72～89)
第11回	74	
第12回	75	72 義歯装着後の指導ができる。【143】(補綴アシスト p59)
第13回	76	73 インプラント装着後の指導ができる。【152】(歯科機器 p172～181)
第14回	77	74 ファイバーポストについて概説できる。(補綴アシスト p13)
第15回	78	75 CAD/CAM 冠について概説できる。(歯科材料 p146)(補綴アシスト p33)
第16回	79	(4) 【口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助】
第17回	80	76 抜歯手術に際して手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。
第18回	81	
第19回	82	77 抜歯用器材の準備と取り扱いができる。【156】(歯科機器 p133～147)(ポケットマニュアル p162～173)
第20回	83	
第21回	84	78 抜歯後の注意を説明できる。【157】(ポケットマニュアル p169)(口腔外科学の本 p238～240・259)
第22回	90	
第23回	91	79 口腔内小手術に際して手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。
第24回	92	
第25回	93	80 各種小手術に用いる器材の準備と取り扱いができる。(歯科機器 p133～147)
第26回	94	81 各種小手術後の注意を説明できる。【160】(口腔外科学の本 p259)
第27回	95	82 止血法を説明できる。【157】【160】
第28回	96	83 止血薬の種類を説明できる。(薬理学の本 p84～85)(補綴アシスト p17)
第29回	97	84 止血薬の取り扱いができる。(ポケットマニュアル p226)
第30回	98	(5) 【矯正歯科治療の診療補助】
第31回	99	91 矯正歯科用器材の種類を説明できる。(矯正歯科 p127～148)(歯科機器 p150～166)
第32回	100	
第33回	101	92 矯正検査記録における口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。(歯科矯正 p41～43)(補綴アシスト p71)(歯科機器 p38～40)
第34回	102	93 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。(歯科矯正 p48～50)
第35回	103	94 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。(歯科矯正 p46～48)
第36回	104	*95 矯正装置装着時の歯面清掃ができる。(歯科矯正 p162～168)
第37回	105	96 接着材の種類と用途を説明できる。(歯科矯正 p142～144)(歯科機器 p157～159)
第38回	106	
第39回	107	97 接着材の取り扱いができる。(歯科矯正 p142～144)
第40回	108	
第41回	109	98 帯環(バンド)の種類を説明できる。(歯科材料の基礎の本 p216:セパレーション)
第42回	110	99 帯環(バンド)の取り扱いができる。【175～177】(歯科機器 p150)
第43回	110	100 ワイヤの種類と用途を説明できる。(歯科矯正 p68・134～135)(歯科材料 p159)
第44回	110	
第45回	110	101 ワイヤの取り扱いができる。(歯科矯正 p134～135)(歯科機器 p159～164)

第 46 回	110	102 ブラケットの種類と用途を説明できる。(歯科矯正 p135)
第 47 回	110	103 ブラケットの取り扱いができる。【177～180】(歯科材料 p158)
第 48 回	111	104 結紮の方法を説明できる。
第 49 回	112	【177】【179】【180】(歯科矯正 p144～146) (歯科機器 p163～164)
第 50 回	113	105 矯正装置装着後の指導ができる。【173～174】(歯科矯正 p168～172)
第 51 回	114	106 矯正装置の撤去に必要な器具の種類を説明できる。
第 52 回	115	(歯科矯正 p146～148) (歯科機器 p165)
第 53 回	116	107 矯正装置の撤去に必要な器具の取り扱いができる。【180～182】
第 54 回	117	(6) 【小児歯科治療時の診療補助】
第 55 回	118	108 歯科治療に際して小児の状態把握と対応ができる。【184～185】
第 56 回	119	109 治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。
第 57 回	120	乳歯冠 【186～188】(歯科機器 p168～170)・
第 58 回	121	CR 冠 【188】・生活歯髄切断 【189】・外傷 【189】
第 59 回	122	*110 ラバーダム防湿ができる。【186】
第 60 回	134	(7) 【高齢者歯科治療時の診療補助】
第 61 回	134	111 高齢者の状態把握と対応ができる。
第 62 回	134	(高齢者歯科学の本 p98～113) (歯科機器 p70～76)
第 63 回	134	112 高齢者の外来診療と訪問診療の補助を概要できる。
第 64 回	134	訪問診療 【316～317】(高齢者歯科学の本 p114～137)
第 65 回	134	113 高齢者の治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。
第 66 回	135	114 高齢者の口腔衛生管理の概要を説明できる。【319】【320～321】【322】
第 67 回	136	115 高齢者摂食嚥下障害への対応ができる。(高齢者歯科学の本 p162～191)
第 68 回	137	(8) 【障害児者歯科治療時の診療補助】
第 69 回	138	116 歯科治療に際して障害児者の状態把握と対応ができる。
第 70 回	139	(障害者歯科学の本 p100～107)
第 71 回	140	117 障害児者の歯科治療に際して治療前の導入法を説明できる。
第 72 回	141	(障害者歯科学の本 p51～57)
第 73 回	142	118 障害児者の治療中の患者コントロール法を説明できる。
第 74 回	まとめ	(障害者歯科学の本 p59～76)
第 75 回	まとめ	119 障害児者の外来診療と訪問診療の補助を概要できる。
		(障害者歯科学の本 p147～154)
		120 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。
		121 障害児者における口腔衛生管理の概要が説明できる。
		(障害者歯科学の本 p78～98)
		122 障害児者における摂食嚥下障害への対応ができる。
		(障害者歯科学の本 p109～132)
		(9) 【エックス線写真撮影時の診療補助】
		(10) 【救命救急処置】
		*134 救急救命処置に際してバイタルサインの測定ができる。
		(歯科機器 p50～65)
		135 救急救命処置に際して意識レベルの把握ができる。
		136 血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができる。(歯科機器 p52～55)

		<p>137 一次救命処置の手順を説明できる。【15～17】</p> <p>138 一次救命処置に用いる器材の準備ができる。【14】</p> <p>139 二次救命処置の手順を説明できる。【14】</p> <p>140 二次救命処置に用いる器材の準備ができる。</p> <p>*141 AED の取り扱いができる。【16】（歯科機器 p59）</p> <p>142 全身的偶発症への対応ができる。</p> <p>【9・12】（ポケットマニュアル p212～213）（予防処置の本の p323～324）</p>
--	--	--

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	基礎介護技術		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次／学期	太田校
				高崎校
授業時数	35 時間	単位数	1 単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	戸田恵理・特別講師	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	関口さおり・特別講師		
一般目標	専門科目歯科診療補助論の領域として基礎介護技術を学ぶ。 基礎介護技術・介護予防に関する基本的な知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	(テキスト) 介護予防指導士テキスト (サブテキスト 1) 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 1 年次購入済 (サブテキスト 2) 「歯科診療補助論」 1 年次購入済 (サブテキスト 3) 「口腔機能へのアプローチ」			
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が 70%を下回る場合は不可とする。			
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。必要に応じて、実習を行う。			

高齢者は 65 歳以上。高齢者が人口の 7%超で高齢化社会・14%超で高齢社会・21%超で超高齢社会である。日本は高齢化率 28%を超えている。平均寿命 (0 歳の赤ちゃんが生きられる期間) は女 87 歳・男 81 歳である。健康寿命 (健康で日常生活が制限されない期間) は、女 75 歳・男 72 歳である。平均寿命－健康寿命＝女性 12 年・男性 9 年である。この期間は、寝たきりなど介護が必要となる要介護期間となる。寝たきりにならないためには予防が大切である。口腔ケアは介護予防の鍵を握っている。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第 1 回	①	【介護予防指導士認定資格取得】 (日本介護予防協会) ① 介護予防のための口腔ケアについて実践できる。 ② 介護予防について概説できる。 ③ 筋力訓練指導について説明できる。 ④ ストレッチング理論について説明できる。 ⑤ 転倒予防教室について概説できる。 ⑦ 介護予防のための体力測定を説明できる。 ⑧ ケアマネージャーの役割について説明できる。 ⑨ 救急蘇生法 (1 次救命処置) について一連の流れが実践できる。 ⑩ 口腔ケアを分類して説明できる。 ⑪ 基本的な介護技術を概説できる。 ⑫ 車いすの使い方について概説できる。(ポケットマニュアル p17) ※介護予防プログラムは日本介護予防協会特別講師に指導いただく。
第 2 回	①	
第 3 回	②	
第 4 回	③	
第 5 回	④	
第 6 回	⑤	
第 7 回	⑥	
第 8 回	⑦	
第 9 回	⑧	
第 10 回	⑨	
第 11 回	⑩	
第 12 回	⑩	
第 13 回	⑪	
第 14 回	⑫	
第 15 回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	臨床・臨地実習Ⅲ	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次／学期	3年次／前期・後期
授業時数	495時間	単位数	11単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	各実習施設の指導教官	実務経験のある教員科目	該当
一般目標	歯科医院・病院など歯科臨床の場、保健センター・高齢者施設・保育園など地域保健の場を通して、歯科衛生士として業務を行うために必要な知識を習得し、技術及び態度を身につける。		
使用教材・教具	臨地・臨床実習ノート (サブテキスト) 新人歯科衛生士・ポケットマニュアル 2年次購入済		
成績評価の方法・基準	各実習施設の指導教官の評価をもとに出欠状況・遅刻早退状況・実習態度・実習業務・レポートに関する理解力・実践力について総合的に評価する。 但し歯科衛生士国家試験受験資格に必修の所定時間に満たない場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	実習は原則として指定された臨床・臨地実習施設にて校外実習とする。 実習にあたっては、施設長、指導教官、歯科医師、歯科衛生士の指示の下に行う。 貴重な実習時間であることを自覚し、責任をもって臨むこと。 実習先は校外であり、髪型・清潔感・服装・ハキハキした挨拶・遅刻しない・健康管理・分からないことは尋ねる・敬語など社会人としてビジネスマナーも求められる。		

授業回数	授業予定	○ 到達目標
全 495 時間共通	校外実習	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設等のルール・診療室のルールを理解した行動ができる。 ② 安全管理・医療安全管理に配慮した行動ができる。 ③ 感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる。 ④ 歯科医師・歯科衛生士・施設職員等からの指示内容を踏まえた対応ができる。 ⑤ 多職種と協働して、共同動作、連携のとれた対象者へのサービスができる。 ⑥ プライバシーを配慮した態度で応接できる。 ⑦ 対象者の守秘義務を遵守できる。 ⑧ 対象者からのニーズを理解した対応ができる。 ⑨ 対象者に応じて配慮した対応ができる。 ⑩ 器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる。 ⑪ 対象者のデータ資料の管理方法を理解した行動ができる。 ⑫ 対象者からのニーズや相談内容を判断し、対象者に応じた対応ができる。 ⑬ 歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる。 ⑭ 歯科衛生に必要なスクリーニングと検査ができる。 ⑮ 歯科衛生のサービスを行うにあたって、その必要性を科学的に説明できる。 ⑯ 資料・データから歯科衛生業務の内容を判断し、内容に応じた行動ができる。 ⑰ 対象者に応じた保健管理指導ができる。 ⑱ 現場に応じた業務記録の記述ができる。 ⑲ カンファレンスの必要性を理解した発言ができる。 ⑳ 集団を対象に健康教育が実践できる。

科目名	高齢者歯科学 (関連医学)		学科名	歯科衛生士学科	
分類	必修		配当年次/学期	太田校	3年次/後期
				高崎校	3年次/前期
授業時数	30 時間		単位数	2 単位	
授業方法	講義		企業等との連携		
担当教員	太田校	下山和弘	実務経験のある教員科目	該当	
	高崎校	紋谷光徳			
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。 高齢者歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法に関する知識を習得し、技術、態度を身につける。				
使用教材・教具	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」[医歯薬出版]				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。出席率が70%を下回る場合は不可とする。				
履修に当たっての留意点	一斉授業を基本とする。				

65歳以上は高齢者、75歳以上は後期高齢者。高齢になれば持病も増えるし、眼も耳も遠くなるし、足腰も弱るし、腎臓も心臓も免疫もホルモンも血流も二十歳と同じなわけではない。感覚も鈍るし物忘れや認知症も増えてくる。高齢者の歯科診療にあたっては特別な配慮が必要となる。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	①	(テキスト) 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」【ページ数】
第3回～第4回	②	① 人口の超高齢化による社会環境の変化を述べるができる。【6～30】
第5回～第6回	③	② 全身および口腔の加齢と老化を説明できる。【34～49】
第7回～第8回	④⑤	③ 高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。【50～71】
第9回～第10回	⑥	④ 高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる。
第11回～第12回	⑦⑧	⑤ 高齢者の口腔衛生管理と口腔機能管理を説明できる。【110～147】
第13回～第14回	⑨	⑥ 歯科訪問診療の意義と目的を説明できる。【206～213】
第15回～第16回	⑩⑪	⑦ 高齢者の摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる。
第17回～第18回	⑫⑬	⑧ 高齢者の摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。【156～178】
第19回～第20回	⑭⑮	⑨ 高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。【14～22】
第21回～第22回	⑯⑰	⑩ サルコペニアとフレイルを説明できる。【34、114】
第23回～第24回	⑱	⑪ 高齢者の終末期ケアを説明できる。
第25回～第26回	⑲	⑫ 高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔衛生管理を説明できる。【168】
第27回～第28回	⑳㉑	⑬ 高齢者の状態把握と対応ができる。【74～109】
第29回～第30回	まとめ	⑭ 外来診療と訪問診療の補助を説明できる。【200】 ⑮ 高齢者治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。(歯科機器の本 p182) ⑯ 口腔衛生管理の概要を説明できる。【183】 ⑰ 摂食嚥下障害への対応ができる。【182】 ⑱ 咀嚼機能検査、摂食嚥下機能検査の意義を説明できる。【156】 ⑳ 舌運動・舌圧検査、唾液検査の意義を説明できる。【144、157】 ㉑ 構音機能検査、味覚検査、口臭検査の意義を説明できる。【38、137、173】

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

科目名	卒業研究		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次/学期	太田校	3年次/前期・後期
			高崎校	3年次/前期・後期
授業時数	30時間	単位数	2単位	
授業方法	講義	企業等との連携		
担当教員	太田校	渡邊英明	実務経験のある教員科目	該当
	高崎校	渡邊英明		
一般目標	<p>【研究の取り組み】問題発見・問題解決を基本とした歯科衛生学に関する研究をするための基本的な内容を学び、研究へ取り組むことにより、テーマ設定から論文作成、発表までの手法を習得する。また、歯科衛生士としての研究活動の必要性を理解し、科学的思考能力に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。</p> <p>【プレゼンテーション】聞き手の立場になり、相手に行動してもらうための技術をプレゼンテーションという。必要な情報、意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。</p>			
使用教材・教具	<p>配布資料</p> <p>※USBメモリーを各自準備する。(スライド10枚で約2MB。1GB(1000MB)なら余裕)</p>			
成績評価の方法・基準	<p>研究レポート、発表、取組状況等により総合評価する。</p> <p>出席率が70%を下回る場合は不可とする。</p>			
履修に当たっての留意点	<p>一斉授業を基本とする。必要に応じて、演習を行う。</p> <p>父兄の皆さん・講師の先生方・在校生に対してホールにて研究発表会を行う。</p>			

クリニック内での症例発表、地域での健康教育、歯科衛生士会での研究発表など、自分で調べてまとめて、人前で発表したり、情報を発信することの機会はどんどん増えてくる。その基本的な手順と方法を学び実践する。

授業回数	授業予定	○ 到達目標
第1回～第2回	はじめに	<p>【研究の取り組み】</p> <p>① 研究の背景・参考文献調査/目的・作業仮説の立案/方法/結果・データのまとめ・図表/考察/引用文献といった論文構成を理解できる。</p> <p>② 研究テーマの検討から結論までの作業仮説を立案し、実際に研究を進めることができる。研究データの収集と分析ができる。</p> <p>① 研究論文の原稿をまとめ、発表用の研究集録を作製することができる。</p> <p>② 口演発表用のスライドを作成することができる。発表原稿の作成ができる。</p> <p>③ 研究結果を適切な表現で発表できる。</p> <p>④ 研究発表において研究結果を口頭発表し、質疑応答ができる。</p> <p>【プレゼンテーション】</p> <p>⑦ 課題に対する自分の意見を決められた時間内と字数で発表できる。</p> <p>⑧ グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。</p> <p>⑨ 質問に対して的確な応答ができる。</p> <p>⑩ 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点と改良点を指摘できる。</p> <p>⑪ 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。</p>
第3回～第4回	①	
第5回～第6回	①	
第7回～第8回	①	
第9回～第10回	②	
第11回～第12回	②	
第13回～第14回	②	
第15回～第16回	③	
第17回～第18回	③⑦	
第19回～第20回	④⑪	
第21回～第22回	④⑧	
第23回～第24回	⑤⑨	
第25回～第26回	⑤⑩	
第27回～第28回	⑥	
第29回～第30回	まとめ	

※テキストの構成・授業の進行状況により内容が前後することがある。

9 実務経験のある教員による授業科目一覧 太田校

学科名 (歯科衛生士学科)

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁
生物学	三輪明	薬剤師	16
一般薬理学	三輪明	薬剤師	30
歯科薬理学	三輪明	薬剤師	32
化学	三輪明	薬剤師	56
栄養指導学Ⅲ (生化学)	三輪明	薬剤師	95
心理学	塚越祐子	カウンセラー	17
外国語Ⅰ	CHUO Global Village 講師	英語講師	18
外国語Ⅱ	CHUO Global Village 講師	英語講師	57
解剖学	寺島達夫	歯科医師・大学非常勤講師	19
解剖学	太田正人	歯科医師・大学准教授	19
生理学	清水信雄	歯科医師	22
歯牙解剖学	宗村裕之	歯科技工士	25
病理学	勝部憲一	医師・大学教授	26
微生物学	天田雅人	歯科医師	28
口腔衛生学Ⅰ・Ⅱ	堤梢江	歯科衛生士	33/58
口腔衛生学Ⅱ (歯科統計学)	戸田英樹	歯科医師	59
歯科衛生士概論	村田隆子	歯科衛生士	35
衛生行政・社会福祉	村田隆子	歯科衛生士	64
歯科医療倫理学	村田隆子	歯科衛生士	86
歯科臨床概論	備前島俊行	歯科医師	36
歯周治療学Ⅰ・Ⅱ	竹内康雄	歯科医師・大学講師	37/68
歯科放射線学	亀山正	歯科医師	38
歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	米岡葉月	歯科衛生士	39/74/90
歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	戸田恵理	歯科衛生士	41/76/92
栄養指導学Ⅰ・Ⅱ	井野文枝	管理栄養士	44/78
歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	町田美穂	歯科衛生士	45/80/97
歯科材料学	町田美穂	歯科衛生士	48
コミュニケーション論	堤梢江	歯科衛生士	52
看護学	岡村裕美	看護師・歯科衛生士	49
臨床検査学	健康づくり財団講師	臨床検査技師	50
秘書概論	吉田洋子	和裁専門学校講師	51
秘書概論	荻野美恵子	和裁専門学校講師	51
ビジネス実務	堤梢江	歯科衛生士	53
衛生学・公衆衛生学	武藤政美	農学博士	60
衛生学・公衆衛生学	戸田恵理	歯科衛生士	60
衛生行政・社会福祉	戸田恵理	歯科衛生士	64
衛生行政・社会福祉	堤梢江	歯科衛生士	64
保存修復学	濱野英也	歯科医師	65

歯内療法学	白石友子	歯科医師	67
歯科補綴学Ⅰ	仁木孝行	歯科医師	69
歯科補綴学Ⅱ	大石和彦	歯科医師	88
口腔外科学Ⅰ・Ⅱ	大木晴伸	歯科医師	70/89
小児歯科学	小山敦	歯科医師	72
歯科矯正学Ⅰ・Ⅱ	青山欣也	歯科医師	73/87
障害者歯科学	下山和弘	歯科医師	83
基礎介護技術	戸田恵理	歯科衛生士・ヘルパー2級	101
関連医学・高齢者歯科学	下山和弘	歯科医師	103
卒業研究	渡邊英明	歯科医師	104

実務経験のある教員による授業科目一覧 高崎校
 学科名 (歯科衛生士学科)

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁
生物学	三輪明	薬剤師	16
一般薬理学	三輪明	薬剤師	30
歯科薬理学	三輪明	薬剤師	32
化学	三輪明	薬剤師	56
栄養指導学Ⅲ (生化学)	三輪明	薬剤師	95
心理学	塚越祐子	カウンセラー	17
外国語Ⅰ	CHUO Global Village 講師	英語講師	18
外国語Ⅱ	CHUO Global Village 講師	英語講師	57
解剖学	寺島達夫	歯科医師・大学非常勤講師	19
生理学	大井田新一郎	歯科医師・大学非常勤講師	22
歯牙解剖学	萩原輝雄	歯科技工士	25
病理学	勝部憲一	医師・大学教授	26
微生物学	天田雅人	歯科医師	28
口腔衛生学Ⅰ・Ⅱ	関口さおり	歯科衛生士	33/58
口腔衛生学Ⅱ (歯科統計学)	渡邊英明	歯科医師	59
歯科衛生士概論	村田隆子	歯科衛生士	35
歯科医療倫理学	村田隆子	歯科衛生士	86
歯科臨床概論	黒田真右	歯科医師	36
歯科臨床概論	渡邊英明	歯科医師	36
歯周治療学Ⅰ・Ⅱ	高井貞浩	歯科医師	37/68
歯科放射線学	小野徹	歯科医師	38
歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	吉井さか枝	歯科衛生士	39/74/90
歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	渡木里佳	歯科衛生士	41/76/92
栄養指導学Ⅰ・Ⅱ	井野文枝	管理栄養士	44/78
歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	皆川香	歯科衛生士	45/80/97
歯科材料学	皆川香	歯科衛生士	48
コミュニケーション論	関口さおり	歯科衛生士	52
コミュニケーション論	中村高広	ビジネス実務講師	52
看護学	木村浩美	看護師	49
臨床検査学	健康づくり財団講師	臨床検査技師	50
秘書概論	高橋範久	和裁専門学校講師	51
ビジネス実務	中村高広	ビジネス実務講師	53
衛生学・公衆衛生学	武藤政美	農学博士	60
衛生学・公衆衛生学	渡木里佳	歯科衛生士	60
衛生行政・社会福祉	設楽昌博	歯科医師	64
保存修復学	中野善夫	歯科医師	65
歯内療法学	清水英之	歯科医師	68
歯科補綴学Ⅰ・Ⅱ	金井孝行	歯科技工士	69/88

口腔外科学Ⅰ・Ⅱ	井田順子	歯科医師	70/89
小児歯科学	相馬美恵	歯科医師	72
小児歯科学	柳澤友子	歯科医師	72
歯科矯正学Ⅰ・Ⅱ	北山義隆	歯科医師	73/87
障害者歯科学	稲川元明	歯科医師	83
基礎介護技術	関口さおり	歯科衛生士	101
関連医学・高齢者歯科学	紋谷光徳	歯科医師	103
卒業研究	渡邊英明	歯科医師	104

テキスト・サブテキスト一覧と関連する科目

<1年>

書籍名	関連する科目
歯科衛生士のための歯科臨床概論 [医歯薬出版]	歯科臨床概論 歯周治療・放射線学など臨床各科目
歯科衛生学総論 [医歯薬出版]	歯科衛生学概論 歯科医療倫理学
生物学 [医歯薬出版]	生物学・解剖学・生理学・発生学
解剖学・組織発生学・生理学 [医歯薬出版]	解剖学・生理学・生物学
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 [医歯薬出版]	口腔解剖学・口腔生理学・歯牙解剖学
病理学・口腔病理学 [医歯薬出版]	病理学・口腔病理学
微生物学 [医歯薬出版]	微生物学・口腔衛生学
薬理学 [医歯薬出版]	一般薬理学・歯科薬理学
栄養と代謝 [医歯薬出版]	栄養指導学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (生化学)
歯周病学 [医歯薬出版]	歯周治療学
イラストでわかる歯科医学の基礎 [永末書店]	解剖学・生理学・栄養指導学・生化学・病理学・薬理学・微生物学
歯科予防処置論・歯科保健指導論 [医歯薬出版]	歯科予防処置論 歯科保健指導論
歯科診療補助論 [医歯薬出版]	歯科診療補助論
歯科機器 [医歯薬出版]	歯科診療補助論 歯科矯正・歯科補綴など臨床各科目
イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 [永末書店]	歯科材料学 保存修復・歯科補綴など臨床各科目
歯科放射線 [医歯薬出版]	歯科放射線学
検査値の読み方ポケット事典 [成美堂出版]	臨床検査学・看護学
臨床検査 [医歯薬出版]	臨床検査学
心理学 [医歯薬出版]	心理学・コミュニケーション論
歯科衛生士のための看護学大意 [医歯薬出版]	看護学・臨床検査学
保健生態学 [医歯薬出版]	口腔衛生学・衛生学・公衆衛生学
ビジネス能力検定ジョブパス 3級公式テキスト (太田校)	秘書概論
社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 (高崎校)	秘書概論
経済記事の読み方検定テキスト	ビジネス実務
歯科衛生学事典 [永末書店]	わからないことはどんどん調べよう
基礎からはじめる情報リテラシー [実教出版]	コミュニケーション論
心をつなぐコミュニケーション [ヒョーロン]	コミュニケーション論
デンタルクリニック英会話 [日本実務教育協会]	外国語Ⅰ・Ⅱ

<2年>

書籍名	関連する科目
化学 [医歯薬出版]	化学・栄養指導学Ⅲ(生化学)
歯科衛生士と法律・制度 [医歯薬出版]	衛生行政・社会福祉・口腔衛生学
障害者歯科学 [医歯薬出版]	障害者歯科学・歯科診療補助論
小児歯科 [永末書店]	小児歯科学・歯科診療補助論
歯科補綴 [医歯薬出版]	歯科補綴学・歯科診療補助論
口腔外科学 [医歯薬出版]	口腔外科学・歯科麻酔学・歯科診療補助論
歯科矯正 [医歯薬出版]	歯科矯正学・歯科診療補助論
保存修復・歯内療法 [医歯薬出版]	歯内療法学・保存修復学・歯科診療補助論
保健情報統計学 [医歯薬出版]	歯科統計学
よくデル国試の必修知識「社会歯科」 [医歯薬出版]	衛生学・公衆衛生学・口腔衛生学
保存科アシストハンドブック [学建書院]	歯科診療補助論 保存修復学・歯内療法学・歯周治療学
補綴科アシストハンドブック [学建書院]	歯科診療補助論 歯科補綴学
年度別国試対策問題集 [医歯薬出版]	期末試験対策・国家試験対策
新人歯科衛生士ポケットマニュアル [医歯薬出版]	臨床・臨地実習・歯科診療補助論

※1年次購入済はリストにしていない。

<3年>

書籍名	関連する科目
よくわかる歯科衛生過程 [医歯薬出版]	歯科医慮倫理学 歯科予防処置論・歯科保健指導論ほか
高齢者歯科学 [医歯薬出版]	高齢者歯科学
口腔機能へのアプローチ [医歯薬出版]	介護予防技術 歯科保健指導論・高齢者歯科学
保存科アシストハンドブック [学建書院]	歯科診療補助論・歯周病学
補綴科アシストハンドブック [学建書院]	歯科診療補助論・歯科補綴学
よくデル国試の必修知識「社会歯科」 [医歯薬出版]	歯科保健指導論 衛生学・公衆衛生学・口腔衛生学
年度別国試対策問題集 [医歯薬出版]	過去5年度分の国家試験問題と解説
科目別国家試験解説 [日本医歯薬研修協会]	科目別の国家試験対策

※1年次・2年次購入済はリストにしていない。

国家試験に向けた勉強

国家試験（国試）は毎年2月末または3月初めの日曜日に実施される。午前110問＋午後110問＝220問が出題される。60%以上の得点で合格となる。220点×60%＝132点以上で合格となる。

国試の出題は専門基礎10科目から60問＋専門科目22科目から160問＝32科目から220問出題される。

1年で新しい科目26科目＋2年で新しい科目10科目＋3年で新しい4科目＝40科目を学習する。問題数にすると1年の専門基礎8科目＋専門12科目＝20科目から約73問の出題。2年の専門基礎2科目＋専門7科目まで＝約170問の出題。3年の専門3科目まで＝220問の出題となる。

3年では卒業試験（卒試）が行われる。卒業するには国試に準じた卒試に合格することが必要となる。つまり1年から学生生活を国試受験生としての意識を持ち、3年間を乗り切ってほしい。

授業の受け方

授業は1コマ50分であるが1時間と数える。その理由は1コマあたり10分不足となるが、自主学習も含んで1時間と数える。毎日4～6コマの授業なので毎日最低でも1時間前後の復習が必要である。

再試験について

期末試験で60点以上得点できない場合は再試験となる。再試でぎりぎり60点では国試で合格点につながらない。国試で60%の合格点に達するために、再試で90点以上取れるように勉強してもらいたい。また、期末試験で60点ぎりぎり合格では勉強不足である。試験後に各科目の復習を必ずしてほしい。

テキスト・サブテキスト・配布資料について

（テキスト）その教科のメインとなるテキスト。他の教科のテキスト・サブテキストのこともある。

（サブテキスト）その教科でも勉強を深める参考書になるし、他の教科のテキストのこともある本。

（配布資料）授業の際に配布される印刷物。科目別に整理してファイリングしておくこと。

各科目の到達目標について

到達目標は、歯科衛生士教育協議会が示す学習目標に準拠している。学校での講義・実習で学ぶとしても学生個々によって習熟度が異なる。到達目標を参考にして学習が足りないなと思うところは各自復習してほしい。

学習の段階と学びの姿勢

学習には「知識」「技術」「態度」の3つの領域がある。

- ・知識とは、新しく知る、それを理解する、知識をもとに考えられる。この段階の学習を知識という。
- ・技術とは、知識を使える、それをもとに指示できる、評価できる。この段階の学習を技術という。
- ・態度とは、知識・技術を基に問題意識を持てる、自発的に行動できる。この段階の学習を態度という。

学習は、知っている段階・知識を使える技術の段階・技術が習慣になる態度の段階へと成熟していく。これから「新しく」学びが始まり、学びが広く増えていく。毎日新しい学習を少しずつ「広げて」、将来医療人として活躍するときに生かせるよう「深めて」ほしい。

うれしい・つらい・さびしい・たのしいを分かち合い、皆さんの日々の絶え間ない健闘を祈る。

主要3科目の到達目標（再掲）

【歯科予防処置論】 ▲1年生 75時間／●2年生 75時間／■3年生 75時間（*は実習予定項目）

(1) 【歯科予防処置論・総論】

「歯科予防処置論・歯科保健指導論」の本【ページ数】：2年・3年

※「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版の本《※ページ数》：1年

- ▲① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。《2》【2】
- ② 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。《3》【3】
- ③ 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。《3～8》【4】
- ▲④ 歯周病予防を概説できる。《37～43》【9・351】
- ▲⑤ う蝕予防を概説できる。《32～36》【9・350】
- ⑥ 歯科予防処置を実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる。《120》【64・78】
- ▲⑦ 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる。《16～27・133・134》【12～16・17～20】
- ▲⑧ 歯・口腔の健康状態を把握するための項目が列挙できる。《131～182》【72・318～319】
- ⑨ プラークの形成過程と成分を説明できる。《29・138》【23】
- ▲⑩ 歯石の形成過程と成分を説明できる。《31・137》【24】
- ⑪ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる。《32・229》【25】【27】
- ▲⑫ 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。《42》【28・282】

(2) 【歯周病予防処置論】

- ▲⑬ 歯周病と生活習慣の関連を説明できる。《42・348・356》【30・277・281・351】
- ⑭ 歯周病と全身疾患との関連を説明できる。《41・77》【30・277・281】
- ⑮ 歯周病のリスクファクターについて説明できる。《41》【351】（歯周病学の本 p28～36・p37～39）
- ⑯ 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。《348・77》【82】
- ⑰ プローブの種類と操作方法を説明できる。《144・145》【95・91～99】
- *⑱ プローブ操作を実施できる。《145》【93～99】（ポケットマニュアル p112～115）
- ⑲ 歯周病に関連する指標（BOP・OHI・PLI・GI など）を説明できる。
《142・156・158》【94・126】
- ▲⑳ 歯《16》【83】・歯肉《19》【84】・口腔《17・131》【86～】の検査ができる。
- ▲㉑ 歯《131》【83】・歯周組織《142》【85】の診査の結果を説明できる。
- ▲㉒ エックス線画像における正常像と歯周病画像の概説ができる。
《168》（放射線学の本 p86・p104）（ポケットマニュアル p46～47・p108）
- ▲㉓ 対象者の情報を分析し、歯周病予防計画が立案できる。《107・108・142》【9・74・305・351】
- ▲㉔ スケーラーの種類と使用目的を説明できる。《202》【131・139・140】（歯科機器 p103～106）
- ▲*㉕ シックルタイプスケーラーを操作できる。《184・194・203》【131】【132】【142～153】【324】【325】
- *㉖ キュレットタイプスケーラーを操作できる。《190～》【154】【142～153】【324】
- *㉗ 超音波スケーラーを操作できる。
《207～》【161～171】（保存アシスト p42・46）（歯科機器 p44）（ポケットマニュアル p124～125）
- ▲㉘ スケーリング時の偶発症とその対応について説明できる。
《188～193・216～217》（診療補助の本 p9）（ポケットマニュアル p212～213）（予防処置の本の p323～324）
- *㉙ エアースケーラーを操作できる。《211》【171～174】（歯科機器 p46）

- *⑩ シャープニングができる。《200》【155～161】
- ⑪ 歯面清掃・歯面研磨の意義が説明できる。《218》【174・178】
- ⑫ 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。《219》【181～183】（歯科機器 p47～49）
- ⑬ 歯面研磨剤の種類と用途を説明できる。《219》【175・176・326】（ポケットマニュアル p232）
- *⑭ 歯面清掃ができる。《223・225》【178～183】
- *⑮ 歯面研磨ができる。《218・223》【174～179】【326】
- ⑯ SPT（歯周病安定期治療）の目的を説明できる。（歯周病学の本 p128～133）
- ⑰ SPT（歯周病安定期治療）の処置内容を説明できる。（歯周病学の本 p128～133）
- ⑱ SPT（歯周病安定期治療）実施時の注意点を説明できる（歯周病学の本 p128～133）
- ⑲ 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。【309】
- ⑳ メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。【314】（歯周病学の本 p128）
- ㉑ 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。【314】（歯周病学の本 p130）

(3) 【う蝕予防処置論】

- ▲㉒ う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明する。
《307・317・328・336・340・347》【117・189・242・251・266・302】【350】
- ▲㉓ う蝕と全身疾患の関連を説明する。《68・413》【116・284】
- ▲㉔ う蝕予防処置（フッ化物応用・シーラント）の臨床的効果、作用機序、安全性、および便宜性を説明できる。
- ▲㉕ フッ化物応用《229・237・243》【184・185・188・189・190】シーラント《254》【200】（ポケットマニュアル p140～141）を説明できる。
- ▲㉖ う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。《172》【89・114・116】
- ㉗ う蝕活動性試験を実施できる。《174》【119～126】（歯科材料の基礎の本 p222）
- ㉘ 対象者のう蝕活動性を評価して、う蝕予防プログラムを立案できる。《180》【9・300】【350】
- ▲㉙ フッ化物歯面塗布法の使用薬剤の種類と濃度、その取り扱い方法を説明できる。《229》【190～192】
- ㉚ フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる。《230》【191】
- ㉛ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる。《232》【193～195】【319～320】
- *51 フッ化物歯面塗布を実施できる。《232》【193～195】
- 52 フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。《236》【195】【184～189】
- 53 フッ化物洗口法使用薬剤の種類、濃度および取り扱い方法を説明できる。《237》【196】（ポケットマニュアル p220）
- 54 対象年齢と洗口方法を説明できる。《239》【197】
- 55 フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる。《240》【198】
- 56 フッ化物配合歯磨剤の配合フッ化物の種類と特徴を説明する。《243》【212】
- 57 年齢に応じた使用量を説明できる。《243》【213】
- 58 フッ化物配合歯磨剤の使用方法を説明できる。《245》【212】
- 59 小窩裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる。《254》【200】
- 60 小窩裂溝填塞の適応歯を説明できる。《255》【200】
- 61 小窩裂溝填塞の術式を説明できる。《257》【201～204】（イラスト歯科材料の基礎の本 p220）
- *62 小窩裂溝填塞を実施できる。《257》【321】【201～204】【321～323】
- 63 小窩裂溝填塞実施上の注意点を説明できる。《257》【204～205】
- 64 う蝕予防処置におけるメンテナンスの目的を説明できる。《》【350】
- 65 う蝕予防メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。【350】
- 66 う蝕のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。【350】

【歯科保健指導論】 ▲1年生 75時間／●2年生 45時間／■3年生 75時間（*は実習予定項目）

「歯科予防処置論・歯科保健指導論」の本【ページ数】

※「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版の本《※ページ数》

(1) 【歯科保健指導論・総論】

- ▲① 歯科保健指導の意義と特性を説明できる。《2～7》【2】
- ▲② 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。《3》【5】
- ▲③ 歯科保健指導のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる。《392・394》【330】
- ④ 歯科保健指導における書面化（業務記録）の意義を説明できる。
《117》【71・72・73・74・75・76】【345～349】【350】【351】
- ⑤ 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。《5～8・86～95》【33～39】
- ⑥ カウンセリングの基本を説明できる。《94》（ポケットマニュアル p14～37）
- ⑦ 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる。《86～95》【5】【35】【38】【33～38】
- ⑧ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明できる。【6】

(2) 【情報収集・歯科衛生過程論】 歯科衛生士が論理的に介入する手法

- ▲⑨ 情報収集として全身的な健康状態を把握できる。
《106・120・42・44～49・125～131・289～》【78・79・63～66・72・81】
- ⑩ 情報収集として認知状態・精神状態を把握できる。《126・106・120・421・427》【64】
- ⑪ 情報収集として虐待の種類を説明できる。《129》【64】
- ⑫ 情報収集として服薬の把握ができる。《126》【64】【79】
- ⑬ 情報収集としてストレスの評価ができる。《130》【64・65】
- ⑭ 生活機能の把握として対象者の生活習慣と生活環境を把握できる。《129》【64】
- ⑮ 生活機能の把握として対象者の日常生活動作を把握できる。《304》（高齢者歯科の本 p115）
- *⑰ 歯・口腔状態の把握として歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる。
歯《132》【82】、歯肉《134》【84】、舌《135》【86】、口腔粘膜・唾液《136》【87】、歯面付着物《137》【89】、
歯周ポケット《147》【93】、動揺度《147》【99】、口臭《149》【100】、う蝕予防の観察ポイント《305》【350】、
歯周病の観察ポイント《38・170》【351】
- *⑱ 口腔清掃状態の指標を基に検査できる。《156～159》【101】
- *⑲ 口腔機能のスクリーニングテストができる。《162》（高齢者歯科の本 p168～175）
- ⑳ 虐待の歯科的特徴を説明できる。《129》
- ㉑ 医療面接として問診票について説明できる。《121》【79】
- *㉒ 医療面接の際に対象者に応じたコミュニケーションがとれる。《120・122》【80～82】（ポケットマニュアル p14～37）
- ▲㉓ 歯科衛生過程における論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。《100》【62】
- ▲㉔ 歯科衛生過程を概説できる。《98・106》【63】
- ㉕ 歯科衛生アセスメントを説明できる。《98》【63～66・70・72・345～347】
- ㉖ 歯科衛生計画を説明できる。《113》【67】【74・75】【348～349】
- ㉗ 歯科衛生診断を説明できる。《108》【66】【71・73・74】【348】
- ㉘ 歯科衛生介入を説明できる。《115》【69】【75】【349】
- ㉙ 歯科衛生業務記録の意義を説明できる。《117》【70】
- ㉚ 歯科衛生過程における評価を説明できる。《116》【74】【76】【349】

(3) 【口腔健康管理論】 歯口清掃など口腔衛生の管理

- ③① 口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。【67】
- ▲③② 口腔健康管理に関する清掃用具を説明できる。《264》【205】
- ▲③③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。《282・284》【210】
- ▲③④ 口腔健康管理にあたり口腔衛生状態が説明できる。《131～149》【67】
- ▲*③⑤ 口腔清掃方法の選択と指導ができる。《264》【205～210・214～227・328】
- ▲*③⑥ 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。
《264・272・274》【214～224】(ポケットマニュアル p116～121)
- ▲*③⑦ 舌・口腔粘膜の清掃用具の選択と使用法の指導ができる。《278》【224～227】
- ▲*③⑧ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の選択と使用法の指導ができる。《282・284》【210～214・227～228】
- ▲*③⑨ う蝕のリスクに応じた口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《169》【216～222】
- ▲*④⑩ 歯周病のリスクに応じた口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《169》【216～222】
- ▲*④⑪ 不正咬合に応じた口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《132》【216～222】
- ▲*④⑫ 義歯装着に応じた口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《281》【216～222・226】
- *④⑬ 口臭に関する指導ができる。【87】【100】【271】
- *④⑭ 口腔乾燥に関する指導ができる。【18】【87】【284】
- ▲④⑮ 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。
妊産婦《306》【241～243】、新生児・乳児《311》【248～249】、幼児《324》【258】、学齢《332》【263～264】、
青年《339》【270～271】、成人《344》【275～277】、老年《354》【282～283】、要介護高齢者《369》【288～290】、
障害者《376》【294～295】
- ▲*④⑯ 各ライフステージ別の口腔清掃法と口腔管理指導ができる。
妊産婦《334》【244】、新生児・乳児《316》【250～251】、幼児《325》【258～261】、学齢《334》【264～265】、
青年《340》【271～272】、成人《346》【277～278】、老年《355》【283～284】、要介護高齢者《372》【290～292】、
障害者《379》【295～296】
- *④⑰ 特別配慮を要する妊産婦に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《307～310》【244】
- *④⑱ 特別配慮を要する全身疾患患者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《346～349》
- *④⑲ 特別配慮を要する障害児者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《377～380》【296】
- *④⑳ 特別配慮を要する要介護者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。《370～376》【290～292】
- *⑤⑰ 特別配慮を要する大規模災害被災者に対する口腔清掃法と口腔管理指導ができる。
《382～386》(保健生態学の本 p317～324)

(4) 【生活習慣指導論】 生活習慣を改善するための対応

- 52 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。《289・305》
- 53 非感染性疾患 (NCDs) の種類と特徴および口腔との関連を説明できる。《289》
- *54 対象者の生活習慣の把握ができる。《289～293》
- *55 非感染性疾患 (NCDs) を有する対象者の指導ができる。《289～293》
- 56 生活習慣指導において対象者のストレスマネジメントができる。《299》
- *57 非感染性疾患 (NCDs) の症例に合わせた歯科保健指導が説明できる。《289～293》
- *58 対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる。《283～293》
- *59 配慮を要する対象者の生活習慣指導ができる。《307・354・357・369・376・382》
- ▲60 禁煙指導と支援ができる。《293～299》【231～235】

(5) 【食生活指導論】 栄養面・食生活の指導（栄養指導学でも学習する）

- ▲61 食生活・食習慣の背景を説明できる。《44》【39～44】
- ▲62 健康を維持するための栄養情報を説明できる。《46》【40】
- ▲63 食品とう蝕の関連性を説明できる。《68・71》【44～53・231】
- ▲64 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。《68》【56・229】
- ▲65 う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。《75》【54】
- ▲66 咀嚼の働きを説明できる。《80・154・285》【55～58】
- ▲67 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連を説明できる。《80》【57】
- *68 食生活指導に際して栄養状態を把握し問題点を評価できる。
《311・321・331・337・343・350・360》【230～231】（栄養と代謝の本 p117～119・p133～139）
- 69 食支援のための介入計画が立案できる。《》【75】
- *70 食支援に必要な歯科衛生介入ができる。【73】
- 71 食生活改善の取組みとして口腔衛生と口腔機能の関連を説明できる。【229】
- 72 食生活指導介入のための書面化（業務記録）ができる。【70～76】【345～349】
- ▲*73 各ライフステージ別の食生活指導ができる。
妊産婦《309》【245～247】、新生児・乳児《318》【252～257】、幼児《330》【261～262】、学齢《335》【265～270】、
青年《341》【272～275】、成人《349》【278～282】、老年《358》【285～287】、
要介護高齢者《373》【292～294】、障害者《380》【296～298】
- ▲*74 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。《289》【229～239】
- ▲*75 障害児者《381》【296～298】、要介護者《373》【292～294】の食事介助の指導ができる。
- ▲76 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。《286》【18～20・292～293】

(6) 【口腔機能管理論】 口腔機能の低下や障害に対する対応

- ▲77 人体の加齢と老化の特性と機序及び寿命を概説できる。《285～288》【282】
- ▲78 発達と加齢に伴う細胞、組織、器官の形態的および機能的な変化を概説できる。《304・354》
- 79 口腔機能リハビリテーションを概説できる。《10・13》【337～344】
- 80 口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる。《285》
- 81 チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携の在り方を説明できる。《》
- *82 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。
《285》【283～284】（歯科診療補助論の本 p319・320・321）
- *83 対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる。
《23～27・362》【293】【18～20】（歯科診療補助論の本 p322）
- *84 対象者の歯科治療の要否を概説できる。《13・376》
- *85 機能障害の対応として口腔機能訓練ができる。《23～・285～289》
- 86 食事指導・支援や摂食介助ができる。《287～288》【296～297】
- *87 専門的口腔ケアができる。《183》【296】
- *88 各ライフステージ別の口腔機能管理と指導ができる。
妊産婦《306》【241】、新生児・乳児《315・320》【249・255】、幼児《325・330》【258】、学齢《332・335》【263】、
青年《339・341》【271】、成人《344・347》【276】、老年《354・357》【282】、要介護高齢者《370・372・376》【289・
291・293】、障害者《377・380》【295】
- *89 配慮を有する人への口腔機能管理と指導ができる。《369》

(7) 【健康教育活動論】 地域・学校・職場における歯科保健活動

- ▲90 健康教育活動における健康教育の対象と場の特徴を説明できる。《390》【329】【332】
- ▲91 健康教育に必要な情報を収集できる。《392》【331】【341】
- ▲92 健康教育の計画立案ができる。《394・399・400・405》【331】【342】
- ▲93 健康教育の内容を説明できる。《395・408》【331・335・337・342】
- ▲94 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。《395》【332・343】
- ▲95 健康教育活動の方法を説明できる。《395》【331・342】
- ▲96 健康教育の評価を説明できる。《395・396》【334・343】
- ▲97 対象別健康教育として集団・組織・地域の実態が把握できる。《398》【329】
- ▲98 対象者の特性とニーズの把握ができる。《399》【338】
- 99 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。《397》【329】
- 100 地域歯科保健事業における健康教育ができる。【331】
- 101 保育所、幼稚園（乳幼児）の口腔保健の実態が把握できる。《397》
- *102 保育所、幼稚園（乳幼児）を対象とした健康教育ができる。《398》
- *103 保育所、幼稚園の保育士、教員および保護者を対象とした健康教育ができる。
- 104 小学校、中学校、高校（児童・生徒）の口腔保健の実態が把握できる。《401》【332】
- *105 小学校、中学校、高校（児童・生徒）を対象とした健康教育ができる。《404》【333～337】
- *106 小学校、中学校、高校の教員および保護者を対象とした健康教育ができる。
- 107 事業所（労働者）の口腔保健の実態が把握できる。《406》
- *108 事業所の従業者・衛生管理者を対象とした健康教育ができる。《407》
- *109 要介護者の家族・介護者・施設職員の健康教育ができる。《407》【337～344】

(再掲) 各ライフステージ別の特徴・歯科保健行動・口腔清掃法・食生活指導・口腔機能管理
「歯科予防処置論・歯科保健指導論」の本【ページ数】

	特徴・歯科保健行動	口腔清掃法	食生活指導	口腔機能管理
妊産婦	241～243	244	245～247	241
新生児・乳児	248～249	250～251	252～257	249・255
幼児	258	258～261	261～262	258
学齢	263～264	264～265	265～270	263
青年	270～271	271～272	272～275	271
成人	275～277	277～278	278～282	276
老年	282～283	283～284	285～287	282
要介護高齢者	288～290	290～292	292～294	289・291・293
障害者	294～295	295～296	296～298	295

(再掲) 各ライフステージ別の特徴・歯科保健行動・口腔清掃法・食生活指導・口腔機能管理
※「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版の本《ページ数》

	特徴・歯科保健行動	口腔清掃法	食生活指導	口腔機能管理
妊産婦	306	307	309	306
新生児・乳児	311	316	318	315・320
幼児	324	325	330	325・330
学齢	332	334	335	332・335
青年	339	340	341	339・341
成人	344	346	349	344・347
老年	354	355	358	354・357
要介護高齢者	369	372	373	370・372・376
障害者	376	379	380	377・381
大規模災害被災者	381	382	383	384・385

【歯科診療補助論】 ▲1年生 45時間／●2年生 30時間／■3年生 75時間（*は実習予定項目）

(1) 【歯科診療補助論・総論】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- ▲① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを述べることができる。【2・5・6】
 - ▲② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列举できる。【3】
 - ▲③ チーム歯科医療の必要性を述べることができる。【63】
 - ▲④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる。【292・318】
 - ▲⑤ 情報収集として全身および口腔の自覚症状(主観的情報)を読み取ることができる。【57・58】(問診票の記入)
 - ▲⑥ 情報収集として全身疾患の症状(客観的情報)を読み取ることができる。【256～285】
 - ▲⑦ 情報収集として生体検査の方法と結果を読み取ることができる。【78～89】
 - ▲⑧ 情報収集として血液検査の結果を読み取ることができる。【307～315】
 - ▲⑨ 情報収集としてモニター検査の結果を読みとることができる。【76・150・171】
 - ▲⑩ 情報収集として心身の成長・発達の状態を把握できる。【183】(小児歯科の診療補助)
 - ▲⑪ 服薬の状態を把握できる。(薬理学の本 p175 服薬指導)
 - ▲⑫ 歯科治療に必要な検査で他覚症状(客観的情報)を読み取ることができる。
 - ▲⑬ 全身疾患を考慮した患者への対応ができる(身体機能含む)。【256～285】
 - ▲⑭ 高齢者に配慮した患者への対応ができる。【60】
 - ▲⑮ 妊産婦に配慮した患者への対応ができる。【67】
 - ▲⑯ 通院困難者に配慮した患者への対応ができる。【60】
 - ▲⑰ 障害に配慮した患者への対応ができる。【61～62】
 - ▲⑱ 感染に配慮した患者への対応ができる。【18～21】【22～43】
 - ▲*⑲ 診療時の共同動作としてフォーハンドシステムの基本動作ができる。【67】
 - ▲*⑳ 診療時の共同動作として診療に応じた器具の受け渡しができる。【69】(ポケットマニュアル p80～81)
 - ▲*㉑ 診療に応じたバキューム操作ができる。【71】(ポケットマニュアル p76～77)
 - ▲㉒ 診療設備が整えられる。【51～52】【324】(歯科機器 p6～18)
 - ▲㉓ エアーコンプレッサーの管理ができる。【52】(機械室)(歯科機器 p19)
 - ▲㉔ 歯科用ユニットの管理ができる。【55】(歯科機器 p6～18)
 - ▲㉕ 口腔外バキュームの管理ができる。【54】(補綴アシスト p7)(歯科機器 p19)
 - ▲㉖ エックス線撮影装置の管理ができる。【53・90～95】(歯科機器 p26～38)
 - ▲㉗ 酸素吸入器の管理ができる。【54】【165】(酸素ポンプ)(歯科機器 p147～148)
 - ▲㉘ レーザー装置の管理ができる。【54】(保存アシスト p77～85)(歯科機器 p110～111)
 - ▲㉙ 歯科診療室における薬品、歯科材料の管理ができる。【96～98】
 - ▲㉚ 医療安全管理として感染に応じた対応ができる。【22～27】
 - ▲*㉛ スタンダードプレコーションができる。【19】(ポケットマニュアル p69～75)
 - ▲㉜ 医療廃棄物の取り扱いができる。【44～47】
 - ▲㉝ 偶発事故に適切な対応ができる。【9】【24～28】(ポケットマニュアル p212～213)(予防処置の本の p323～324)
 - ▲㉞ 消毒・滅菌に際して消毒薬、各種滅菌器械・器具の準備ができる。【32～43】(歯科機器 p23～25)
 - ▲*㉟ 消毒・滅菌に関して消毒薬、各種滅菌器械・器具の取り扱いができる。(保存アシスト p40～41)
 - ▲㊱ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の管理ができる。
- 消毒薬【39】(ポケットマニュアル p228)(薬理学の本 p123～131・表 8-4・表 8-5) 滅菌【41～43】(ポケットマニュアル p62～69)

(2) 【保存治療時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- ③⑦ 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。【99】
- *③⑧ ラバーダム防湿ができる。【99～105】【186】（歯科材料の基礎の本 p108）（保存アシスト p19～21・24～25）
- *③⑨ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。【113】（歯科材料の基礎の本 p110）（保存アシスト p17～18）
- *④⑩ 歯肉排除法に用いる器材の操作ができる。【106～108】（補綴アシスト p17）（歯科機器 p118～120）
- *④⑪ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。【112】（保存アシスト p8・12）
- ④⑫ 窩洞形成における切削用器械、器具の準備ができる。
【113】（保存アシスト p23）（歯科機器 p77～85）（ポケットマニュアル p98～105）
- ④⑬ 直接修復であるコンポジットレジン修復の手順を説明できる。
【112～114】（歯科機器 p86～91）（ポケットマニュアル p144～147）
- ④⑭ コンポジットレジン修復における歯面処理材料の準備ができる。【113】【237】（保存アシスト p2～16）
- ④⑮ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。【112～114】（歯科材料の基礎の本 p112・p117）
- ④⑯ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。【238～239】
- ④⑰ 歯の漂白法の器材・薬剤の準備ができる。【121】（歯科材料の基礎の本 p91～95・p197～201）
- ④⑱ 歯の漂白後の術後指導の内容を説明できる。【122】
- ④⑲ 歯髄処置の手順を説明できる。【125～128】（保存アシスト p22～33）（ポケットマニュアル p148～161）
- ⑤⑰ 歯髄処置の薬剤や器材の準備ができる。【127・128】
- ⑤⑱ 電気歯髄診断器の準備ができる。（補綴アシスト p3）（歯科機器の本 p68）
- ⑤⑲ 根管処置の薬剤や器材の準備ができる。【125～128】（保存アシスト p31）（歯科機器 p92～102）
- ⑤⑳ 根管長測定器の準備ができる。【130】（保存アシスト p27）
- ⑤㉑ 根管充填の薬剤や器材の準備ができる。
【129～132】（保存アシスト p34～35）（歯科機器 p92～102）（イラスト歯科材料の基礎の本 p122・p126）
- ⑤㉒ 外科的歯内療法 of 器材の準備ができる。
- ⑤㉓ 歯周外科治療の手順を説明できる。【133～137】（保存アシスト p66～69）
- ⑤㉔ 歯周外科治療の薬剤や器具の準備ができる。（ポケットマニュアル p126～129）（歯科機器 p106～110）
【135・136・137】（保存アシスト p52～58・54・72・73）（歯科機器 p106～110）
- *⑤㉕ 歯周用パックの取り扱いができる。
【137】（歯周病学 p100・p188）（歯科材料の基礎の本 p187）（保存アシスト p74）（ポケットマニュアル p132・p232）
- ⑤㉖ 暫間固定について説明できる。（保存アシスト p50～51）

(3) 【補綴治療時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- ▲⑥⑰ 補綴治療時の各種治療・検査の手順を説明できる。（補綴アシスト p2・34・36）
- ▲⑥⑱ 補綴治療時の各種治療・検査で用いる器材の準備ができる。（ポケットマニュアル p174～193）
- ▲⑥⑲ 補綴治療における印象採得の手順を説明できる。【139～140】（歯科材料の基礎の本 p127～148・163～168）
- ▲⑥⑳ 補綴治療における印象採得で用いる器材の準備ができる。
【139・140】（補綴アシスト p6・18～23・38～46）（歯科機器 p112～117）
- ⑥㉑ 咬合採得（顎間関係の記録）の手順を説明できる。【141】（補綴アシスト p9・48～52）（歯科機器 p125～131）
- ⑥㉒ 咬合採得（顎間関係の記録）で用いる器材の準備ができる。【141】（歯科材料の基礎の本 p169～173）
- ⑥㉓ 咬合床作製の手順・咬合床用材料の性質を説明できる。（補綴アシスト p48）
- ⑥㉔ 歯冠補綴物の合着・接着について説明できる。（補綴アシスト p25～32）
- ⑥㉕ プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン、ブリッジ] の作製手順を説明できる。

【145】(歯科材料の基礎の本 p149～158) (補綴アシスト p15)

■69 プロビジョナルレストレーション [テンポラリークラウン、ブリッジ] の調整方法を説明できる。

【145】(歯科機器 p120)

■70 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。

【142～143】(補綴アシスト p54～59) (歯科材料の基礎の本 p180～183)

■71 クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる。【147】(歯科材料の基礎の本 p56～64・p159～162)

■72 義歯装着後の指導ができる。【143】(補綴アシスト p59)

■73 インプラント装着後の指導ができる。【152】(歯科材料の基礎の本 p88・p189)

■74 ファイバーポストについて概説できる。(歯科材料の基礎の本 p96・p202) (補綴アシスト p13)

■75 CAD/CAM 冠について概説できる。(歯科材料の基礎の本 p105) (補綴アシスト p33)

(4) 【口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

■76 拔牙手術に際して手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。

■77 拔牙用器材の準備と取り扱いができる。【156】(歯科機器 p133～147) (ポケットマニュアル p162～173)

■78 拔牙後の注意を説明できる。【157】

■79 口腔内小手術に際して手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる。

■80 各種小手術に用いる器材の準備と取り扱いができる。(歯科機器 p133～147)

■81 各種小手術後の注意を説明できる。【160】

(口腔外科学の本 p234 消炎・p238 拔牙・p242 嚢胞・p244 良性腫瘍・p246 根尖切除・p247 骨整形・
p248 小帯切除・p250 インプラント・p253 止血・p257 縫合)

■82 止血法を説明できる。【157】【160】

■83 止血薬の種類を説明できる。(薬理学の本 p84～85) (補綴アシスト p17)

■84 止血薬の取り扱いができる。(歯科材料の基礎の本 p185) (ポケットマニュアル p226)

●85 縫合用器材の種類を説明できる。

【160】(保存アシスト p70～71) (歯科機器 p140～143) (ポケットマニュアル p130～131)

●86 縫合用器材の準備と取り扱いができる。(歯科材料の基礎の本 p184)

●87 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。

【161～164】(保存アシスト p48～49) (補綴アシスト p4～5) (ポケットマニュアル p90～96)

●88 精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取り扱いができる。【165～168】(歯科機器 p147～149)

●89 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助ができる。【168～172】(歯科機器 p56～60)

●90 顎口腔領域の周術期(放射線治療、化学療法を含む)の口腔衛生管理を説明できる。

【149】(歯科診療補助論の本 p286～291・p321)

(5) 【矯正歯科治療の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

■91 矯正歯科用器材の種類を説明できる。(矯正歯科 p127～148) (歯科機器 p150～166)

■92 矯正検査記録における口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。

(歯科矯正 p41～43) (補綴アシスト p71～73) (歯科機器 p38～40)

■93 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。(歯科矯正 p48～50)

■94 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。(歯科矯正 p46～48)

■*95 矯正装置装着時の歯面清掃ができる。(歯科矯正 p162～168)

■96 接着材の種類と用途を説明できる。(歯科材料 p161～162) (歯科矯正 p142～144) (歯科機器 p157～159)

■97 接着材の取り扱いができる。(歯科矯正 p142～144)

- 98 帯環（バンド）の種類を説明できる。（歯科機器 p150）（イラスト歯科材料の基礎の本 p216：セパレーション）
- 99 帯環（バンド）の取り扱いができる。【175～177】（イラスト歯科材料の基礎の本 p218）
- 100 ワイヤの種類と用途を説明できる。（歯科材料 p159）（歯科矯正 p68・134～135）
- 101 ワイヤの取り扱いができる。（歯科矯正 p134～135）（歯科機器 p159～164）
- 102 ブラケットの種類と用途を説明できる。（歯科材料 p158）（歯科矯正 p135）
- 103 ブラケットの取り扱いができる。【177～180】（イラスト歯科材料の基礎の本 p214）
- 104 結紮の方法を説明できる。【177】【179】【180】（歯科矯正 p144～146）（歯科機器 p163～164）
- 105 矯正装置装着後の指導ができる。【173～174】（歯科矯正 p168～172）
- 106 矯正装置の撤去に必要な器具の種類を説明できる。（歯科矯正 p146～148）（歯科機器 p165）
- 107 矯正装置の撤去に必要な器具の取り扱いができる。【180～182】

(6) 【小児歯科治療時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- 108 歯科治療に際して小児の状態把握と対応ができる。【184～185】
- 109 治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。
乳歯冠【186～188】（歯科機器 p168～170）・CR冠【188】・生活歯髄切断【189】・外傷【189】
- *110 ラバーダム防湿ができる。【186】（歯科機器 p92）

(7) 【高齢者歯科治療時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- 111 高齢者の状態把握と対応ができる。（高齢者歯科学の本 p98～113）（歯科機器 p70～76）
- 112 高齢者の外来診療と訪問診療の補助を概要できる。
訪問診療【316～317】（高齢者歯科の本 p206～213）（障害者歯科学の本 p66～72）
- 113 高齢者の治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。
- 114 高齢者の口腔衛生管理の概要を説明できる。【319】【320～321】【322】
- 115 高齢者摂食嚥下障害への対応ができる。（高齢者歯科学の本 p162～191）

(8) 【障害児者歯科治療時の診療補助】

- 116 歯科治療に際して障害児者の状態把握と対応ができる。（障害者歯科学の本 p13～49）
- 117 障害児者の歯科治療に際して治療前の導入法を説明できる。（障害者歯科学の本 p51～57）
- 118 障害児者の治療中の患者コントロール法を説明できる。（障害者歯科学の本 p59～66）
- 119 障害児者の外来診療と訪問診療の補助を概要できる。（障害者歯科学の本 p66～72）（高齢者歯科の本 p206）
- 120 障害児者の治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。（障害者歯科学の本 p73～76）
- 121 障害児者における口腔衛生管理の概要が説明できる。（障害者歯科学の本 p78～98）
- 122 障害児者における摂食嚥下障害への対応ができる。（障害者歯科学の本 p109～132）

(9) 【エックス線写真撮影時の診療補助】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- ▲123 エックス線撮影装置の準備ができる。【90～95】（歯科機器 p26～40）
- ▲124 歯科用・パノラマ用撮影装置・デジタル画像システムの取り扱いを説明できる。【90～95】
- ▲125 口内法撮影における頭部の固定ができる。【95】（歯科放射線の本 p66）
- ▲126 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。【91】（ポケットマニュアル p82～83）
- ▲127 パノラマエックス線撮影の準備ができる。【90】（歯科放射線の本 p97）（ポケットマニュアル p86～87）
- ▲128 エックス線写真の処理と画像管理ができる。
【95】（歯科放射線の本 p85）（歯科材料の基礎の本 p211）（ポケットマニュアル p88）

- ▲129 放射線防護の準備ができる。(歯科放射線の本 p16・64)
- ▲130 患者や術者の放射線防護ができる。(歯科放射線の本 p18)
- ▲131 被爆量の測定準備ができる。(歯科放射線の本 p18)
- ▲132 放射線の人体への影響を説明できる。(歯科放射線の本 p11)
- ▲133 二等分法と咬翼法の観察項目を概説できる。【186】(小児歯科)

(10) 【救命救急処置】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- *134 救急救命処置に際してバイタルサインの測定ができる。(歯科機器 p50～65)
- 135 救急救命処置に際して意識レベルの把握ができる。(高齢者歯科の本 p124)
- 136 血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができる。(高齢者歯科の本 p86～90)
- 137 一次救命処置の手順を説明できる。【15～17】
- 138 一次救命処置に用いる器材の準備ができる。【14】
- 139 二次救命処置の手順を説明できる。【14】
- 140 二次救命処置に用いる器材の準備ができる。
- *141 AED の取り扱いができる。【16】(歯科機器 p59)
- 142 全身的偶発症への対応ができる。【9・12】(ポケットマニュアル p212～213) (予防処置の本の p323～324)

(11) 【歯科材料学】「歯科診療補助論」の本【ページ数】

- ▲143 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。【214】(歯科材料 p59～71) (イラスト歯科材料の基礎の本 p45)
- ▲*144 模型用材料の取り扱いができる。【215～221】(イラスト歯科材料の基礎の本 p50) (ポケットマニュアル p206～209)
- ▲145 合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる。
【222～235】(歯科材料 p72～89) ((イラスト歯科材料の基礎の本 p53)
- ▲*146 合着・接着材・仮着用材料を操作できる。
【222～235】(歯科材料 p72～89) (イラスト歯科材料の基礎の本 p56・58・59・60・62・86)
粉末／液タイプ【225～226】・ペーストタイプ【227～229】・筆積法・混和法【229～230】・リン酸亜鉛セメント【231】
セメントの練和 (ポケットマニュアル p134～137) (ポケットマニュアル p236～239)
- ▲147 印象材の種類と基本的性質を説明できる。
(歯科材料[医歯薬出版]p43～58) (イラスト歯科材料の基礎の本 p26) (補綴アシスト p18～23)
- ▲*148 各種印象材を練和できる。
(歯科材料[医歯薬出版]p43～58) (イラスト歯科材料の基礎の本 p30・36・41) (ポケットマニュアル p194～205)
アルジネート印象【197】・寒天印象【203】・シリコンゴム印象【204】・個人トレー／個歯トレー【209～210】
モデリングコンパウンド印象【211】(歯科材料[医歯薬出版]p52)・酸化亜鉛ユージノール印象【212～213】
- ▲*149 概形印象の採得ができる。【200】(イラスト歯科材料の基礎の本 p127)
- ▲150 各種印象法が説明できる。【193～198】(歯科材料 p43～58) (イラスト歯科材料の基礎の本 p138・141・146)
- ▲151 歯冠修復材(歯冠修復用材料)の種類と基本的性質を説明できる。
(歯科材料[医歯薬出版]p90～105) (イラスト歯科材料の基礎の本 p66)
- ▲*152 歯冠修復材の取り扱いができる。【236～243】(イラスト歯科材料の基礎の本 p68・70・75)
- ▲153 仮封材(仮封用材料)の種類と基本的性質を説明できる。
(歯科材料[医歯薬出版]p108～119) (イラスト歯科材料の基礎の本 p80・81) (ポケット p239)
- ▲*154 仮封材の取り扱いができる。【245～250】(イラスト歯科材料の基礎の本 p82・83・84・85・86)
- ▲155 ワックスの基本的性質を述べる事ができる。
【251～253】(歯科材料 p128～134) (イラスト歯科材料の基礎の本 p209) (ポケットマニュアル p234)

▲156 義歯用材料・義歯関連材料の基本性質を説明できる。

(歯科材料 p162～169) (イラスト歯科材料の基礎の本 p176～183)

▲157 インプラント用材料の使用目的を説明できる。(補綴アシスト p66～68) (歯科機器 p172～181)

▲158 ホワイトニングについて説明できる。(歯科材料の基礎の本 p91～95・197～201) (保存修復の本 p146～156)

▲159 ファイバーポストについて概説できる。(イラスト歯科材料の基礎の本 p96・202)

▲159 CAD/CAM 冠について概説できる。(歯科材料 p6・p146・p169) (イラスト歯科材料の基礎の本 p105)

(付) 体験学習
全学年

科目名	体験学習（歩行ラリー）	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年次
授業時数	8時間×日数	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	体験を通じて「事実の本質」を見出す能力を養うために、問題解決に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
使用教材・教具	コマ地図・筆記用具・帽子・タオル・歩きやすい靴		
成績評価の方法・基準	出席状況・ゴール到着・参加マナー・到着時間などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	交通安全など安全面に配慮して参加する。 当日は朝食を必ず食べてくる・水分補給など健康管理に注意すること。		
到達目標	予め設定されたコースを二人一組でルールにのっとり、コマ地図にある自然物や造形物を目標に指示された経路・時間でスタートからゴールまで歩くことができる。		

科目名	体験学習（国内研修）	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年次
授業時数	10時間	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	旅行を通して友人との新たな関係性を構築して今後の学習に生かし、関連業種の企業見学・研修を通して歯科衛生学の学習に必要なアイデアを得ることに関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
使用教材・教具	配布資料・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・研修先での体験学習・研修レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	交通安全など安全面・健康管理に配慮して参加すること。		
到達目標	友人との新たな関係性を構築できる。見学・演習・実習を実施することができる。		

科目名	体験学習（戴帽式）	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年・2年次
授業時数	6時間	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	現場実習に臨む直前に学生一人一人にナースキャップ等を与え、歯科衛生士を目指すものとしての職業に対する意識を高め、その責任の重さを自覚させるために医療人の在り方に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
使用教材・教具	身だしなみ		
成績評価の方法・基準	出席状況・参加マナー・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して厳粛な気持ちで参加すること。		
到達目標	歯科衛生士の職業と真摯に対峙できる。周囲の人々へ気遣いすることができる。		

科目名	体験学習（学園祭）		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	太田校	9時間×日数	単位数	体験学習 45時間で1単位
	高崎校	9時間×日数		
授業方法	実習		企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員		実務経験のある教員科目	
一般目標	日頃の学習成果を学内ならびに地域の方々に発表するために制作作品・模擬店運営を学生が自主的に企画運営することに関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	自主制作研究発表作品・模擬店制作			
成績評価の方法・基準	出席状況・クラス貢献・レポート提出などを総合評価する。			
履修に当たっての留意点	館内安全・交通安全・食品衛生など安全管理に配慮して参加する。			
到達目標	クラス一丸となってアイデアを出しあい、クラス全員が役割分担で協力して学園祭を運営することができる。			

科目名	体験学習 （スポーツフェスティバル）		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	9時間		単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習		企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員		実務経験のある教員科目	
一般目標	スポーツという身体運動を通じて、一定のルールに則って勝敗を競うこと、楽しみを求めること、交友を深めることに関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	運動ができる服装・履きなれたスポーツシューズ・タオル・水筒			
成績評価の方法・基準	出席状況・選手として参加状況などを総合評価する。			
履修に当たっての留意点	しっかり準備運動をして、安全に配慮して、十分に水分補給をすること。			
到達目標	各種目に参加すること、各チームを応援すること、各係の役割を全うすること等を通じて、スポーツを楽しみ、親睦の輪を広げることができる。			

科目名	体験学習（卒業研究発表会）		学科名	歯科衛生士学科
分類	必修		配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	8時間		単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習		企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員		実務経験のある教員科目	
一般目標	研究発表の聴講を通じ、歯科衛生分野に関する視野を広げ、思考力を伸ばし、多角的な視点から課題解決に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。			
使用教材・教具	配布資料・筆記用具			
成績評価の方法・基準	出席状況・身だしなみ・レポート提出などを総合評価する。			
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して新たな問題発見のために好奇心を持って参加すること。			
到達目標	歯科衛生分野に関する視野を広げて多角的な視点から課題解決することができる。			

科目名	体験学習（患者実習）	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	2年次
授業時数	4時間×日数	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習実施教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	臨床に必要な基本的な歯科衛生業務に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
使用教材・教具	実習衣・治療用具セット		
成績評価の方法・基準	出席状況・実習への取り組み・実習報告書提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	参加協力いただく家族等には敬意と感謝の気持ちをもって真剣に取り組むこと。 身だしなみ（髪・化粧・爪など）、アイロン済みの清潔な実習衣を整えて臨むこと。 配布資料・テキストで基礎実習を振り返り、実習内容を十分に予習しておくこと。 不十分な準備の場合は実習を中止させることがある。		
到達目標	医療安全、対象者への声掛け・受容的共感的態度、公私の区別、実習上のルール等に配慮して歯科衛生業務（医療面接・予防処置・保健指導・診療補助）が実施できる。		

科目名	体験学習（就職総決起大会）	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	3年次
授業時数	4時間	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	来たる就職活動に臨む学生に対して、就職指導部の先生方からの経験談やアドバイスを伝え、本格的な就職活動に関する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
使用教材・教具	配布資料・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・身だしなみ・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して新たな問題発見のための好奇心を持って参加すること。		
到達目標	学園標語「思いやりの心、感謝の心、奉仕の心」を再確認して、就職活動に必要な心構えを身につけることができる。		

科目名	体験学習（学術講演会）	学科名	歯科衛生士学科
分類	必修	配当年次	1年・2年・3年次
授業時数	6時間	単位数	体験学習 45時間で1単位
授業方法	実習	企業等との連携	
担当教員	体験学習引率教員	実務経験のある教員科目	
一般目標	注目される医療・自然科学・人文科学の分野で活躍する研究者・講師の講演を通して、自ら医療人としての研鑽に資する知識を修得し、技術、態度を身につける。		
使用教材・教具	配布資料・筆記用具		
成績評価の方法・基準	出席状況・受講態度・レポート提出などを総合評価する。		
履修に当たっての留意点	身だしなみに配慮して、必要なメモを取りながら受講すること。		
到達目標	歯科衛生分野に関する視野を広げて多角的な視点から学習を深めて、医療人として幅広い教養を身につけることができる。		

編集後記

1. 超高齢社会では口腔ケアの充実により健康寿命が伸びることに歯科衛生士へ期待が寄せられている。
2. そうした社会的ニーズを受けて 2010 年頃から歯科衛生士教育の内容が一層増えている。
3. 具体的には全身疾患への対応力・歯科衛生業務の文書作成力・新しい医療技術の理解等があげられる。
4. 学習する内容が増えたことにより国家試験の出題内容も広がっている。
5. 各科目の到達目標は歯科衛生士教育協議会コアカリキュラム 2018 年改訂版に準拠した。
6. 約 980 の到達目標がある。たくさんあるが一步ずつ積み重ねて学んでほしい。
7. 主要 3 教科は 3 年間にわたり教育されるので全体の到達目標を巻末に再掲とした。
8. テキスト・サブテキストが複数の科目で使用されるものは可能な限りページ数を記載した。
9. 今回改定の大きな変更点は中央医療歯科専門学校太田校と中央医療歯科専門学校高崎校で共通シラバスとしたことである。より一層の教育充実を図るために両校教職員が一堂に会し編集にあたった。
10. 尚、実施にあたり止むを得ない事情によりシラバスの内容に多少の変更が生じることがある。

講義概要 (シラバス)

令和 2 年 4 月 1 日印刷

令和 2 年 4 月 1 日発行

発行

学校法人 有坂中央学園 中央医療歯科専門学校太田校

学校法人 中央総合学園 中央医療歯科専門学校高崎校

編集

中央医療歯科専門学校太田校 シラバス編集委員会

太田市東本町 41-12 電話 0276-25-8833

中央医療歯科専門学校高崎校 シラバス編集委員会

高崎市双葉町 2-8 電話 027-310-5088